



水島臨海工業地帯の現状

平成 2 0 年 2 月

岡山県産業労働部

目 次

1	沿 革	1
2	工業立地上の環境及び立地条件の特性	2
(1)	工業立地上の環境	2
(2)	立地条件の特性	2
3	現 状 及 び 計 画	3
(1)	工業立地の現状及び計画（平成19年8月1日現在）	3
(2)	水島工業地帯の事業所数，従業員数，製造品出荷額等	4
(3)	基盤整備の現状及び計画	7
(4)	企業同士または産学官の連携事業の現状及び計画	8
4	立地条件の現状及び整備計画	11
(1)	工場用地の現状及び計画	11
A	工場用地面積	11
B	立地事業所一覧表	12
(2)	港 湾	18
(3)	道 路	19
(4)	鉄 道	19
(5)	工業用水	20
(6)	電 力	20
5	生活環境の現状及び整備計画	21
(1)	上 水 道	21
(2)	下 水 道	21
(3)	都市計画道路	21
(4)	公園・緑地	22
(5)	公営住宅	22
(6)	学校施設	22
(7)	観光レクリエーション及び保養施設	23
6	環 境 保 全 対 策	25
(1)	環境の現状	25
(2)	環境保全に関する施策	25
(3)	公害防止協定(環境保全協定)の締結状況	27
7	防 災 対 策	29
(1)	現 況	29
(2)	主な防災機関の活動状況	29
(3)	災害予防対策	32
8	企業の現状及び計画	34
9	海事官庁の現況	77
(1)	水島税関支署	77
(2)	水島海上保安部	77
(3)	広島検疫所水島出張所	78
(4)	中国運輸局岡山運輸支局水島海事事務所	78
(5)	神戸植物防疫所広島支所水島出張所	79
編 集 後 記		80

1 沿 革

水島臨海工業地帯は、中国地方有数の河川である高梁川の河口に形成された三角州と沿岸一体の遠浅海面の埋立てにより造成されたものであり、その地域は倉敷市南部（旧倉敷市の水島地区、旧玉島市の南部地区及び旧児島市の塩生地区）の特定重要港湾水島港の区域並びにその背後地の一帯をいう。

この地域の工業化は、大正年間に実施された高梁川の改修によって生じた廃川敷に昭和18年、第二次大戦中の工場分散により三菱重工業(株)の航空機製造工場が建設されたことに始まる。それまで漁業と干拓農業を主とする一寒村に過ぎなかったこの地域は、戦後、我国産業の重化学工業化への胎動を受け、本格的に工業化が進められた。

昭和28年、岡山県は大型船舶の入港を可能とするために航路泊地の浚渫に着手し、発生する浚渫土砂で海面を埋立て、工業用地を造成し企業を誘致することにした。当時、県では農業県から工業県への脱皮をめざし、農業・工業・商業の各産業の均衡を保ちつつ工業を発展させることにより県民福祉の向上を図るという新しい構想の下に、この地域の開発を県勢振興の根幹事業として位置付け、大々的に開発を進めた。

石油精製基地、鉄鋼生産基地、石油化学・鉄鋼関連化学工業基地、各種機械生産基地、食品工業基地としての発展を期するため、交通施設、用地、用水等の産業基盤の整備とあわせて、生活環境施設、教育文化施設、社会福祉施設の整備など社会資本の開発についても重点的に推進を図った。

現在、この水島臨海工業地帯は岡山県の中核的工業地帯として、本県経済に圧倒的な比重を占めており、全国的も有数の臨海工業地帯となっている。

本書において「水島臨海工業地帯」とは、上記のとおり高梁川の河口に形成された三角州と沿岸一体の遠浅海面の埋立てにより造成された倉敷市南部（旧倉敷市の水島地区、旧玉島市の南部地区及び旧児島市の塩生地区）の、重要港湾水島港の区域並びにその背後地の一帯をいう。具体的には、高梁川の東側にあつては、国道430号で北と東を画された地域（南は児島通生まで）、西側にあつては、水玉ブリッジライン以南・玉島港以東の地域である。なお、工業統計調査における「水島工業地帯」は、これよりやや広い地域が対象となっている（4ページ参照）。

2 工業立地上の環境及び立地条件の特性

(1) 工業立地上の環境

水島臨海工業地帯は、瀬戸内海地域の中心に位置し、北には中国山地、南には四国山脈とそれぞれ天然の防壁に護られ、四季を通じて安定した気象に恵まれている。

また、阪神及び北九州並びに瀬戸内沿岸の各所にある工業基地、地方中心都市とも比較的近距离（大阪180km、北九州360km、姫路100km、広島140km、松山160km）にあり、近年の広域高速道路網（瀬戸中央自動車道、山陽自動車道、中国自動車道、岡山自動車道）や港湾施設、航路等の整備により陸海交通の便は一段と優れたものとなっている。特に、海運に関して、主航路である水島港内航路は水深（-）16m、巾員450mに整備されており、大量の原材料の輸入及び製品等の出荷に便利であり、加工貿易には必須の条件を備えている。

(2) 立地条件の特性

本地帯が工業地帯として備えている長所は、次のとおりである。

海陸交通の便に恵まれており、陸運については既述の広域高速交通網の整備により一層便利になり、海運については、波浪も小さく高潮災害の発生が少ない水島港において航路の整備が進み、10万t級の貨物船が出入りできること。

高梁川総合開発により工業用水取水が可能であること。

地耐力が大であること。

石油・電力等各種エネルギー源が近くにあること。

機械修理能力のある中小企業に恵まれており、最近では組織化により、受注能力の向上が著しいこと。

広大な背後地を有していること。

玉島ハーバーアイランドの造成が進むとともに国際物流拠点施設が整備され、流通業・製造業の集積が図られつつあること。



水島港玉島地区(玉島ハーバーアイランド)

3 現状及び計画

(1) 工業立地の現状及び計画（平成19年8月1日現在）

当地域に立地している基幹企業及びその関連諸企業は、次のとおりである。

ア 石油精製

現在、新日本石油精製(株)（25万バレル/日）及び(株)ジャパンエナジー（20万バレル/日）の両製油所があり、西日本屈指の石油精製基地となっている。

イ 鉄鋼生産

川崎製鉄(株)水島製鉄所と日本鋼管(株)福山製鉄所の統合により生まれたJFEスチール(株)西日本製鉄所の粗鋼生産量は約2,046万t（平成18年度実績:うち倉敷地区約955万t）であり、各種鋼材の圧延及び二次加工を行う世界最大の製鉄所となり、同社関連（合金鉄製造、鉄鋼加工等）の諸工場及び電炉メーカーの東京製鉄(株)と併せて我国有数の鉄鋼生産基地を形成している。

ウ 石油化学・鉄鋼関連化学工業

製油所の生産する石油化学原料（ナフサ、芳香族溜分、廃ガス）、製鉄用コークスの製造に伴うコークス炉副生産物、製鉄余剰ガス等が極めて多量に産出されるので、大規模な石油化学及び鉄鋼関連化学工業が立地している。

エ 自動車工業

自動車の一貫生産工場であり、ロボット等の最先端技術を導入した三菱自動車工業(株)水島製作所が立地し、約58万台（平成18年度実績）の生産を行っている。

オ 各種機械工業

住友重機械工業(株)岡山製造所、(株)サノヤス・ヒシノ明昌水島製造所のほか、三菱自動車工業(株)水島製作所、JFEスチール(株)西日本製鉄所、三菱系及びジャパンエナジー・旭系両化学グループ等の下請け発注により、各種機械工業が操業している。

カ 食品工業

配合飼料、植物油脂、製粉等の企業が立地している。

なお、水島における主要コンビナートの形成は次のとおりである。

〔石油精製・石油化学〕

（三菱系）

新日本石油精製 - 三菱化学

三菱化学 - 日本合成化学工業、関東電化工業、荒川化学工業等

（ジャパンエナジー・旭系）

ジャパンエナジー - 旭化成ケミカルズ、旭化成エポキシ、日本ゼオン、山陽石油化学、チッソ、岡山化成、日本曹達、ペトロコークス、水島オキシトン、岡山ブタジエン等

（ガス化学系）

三菱ガス化学 - エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカル、水島アロマ

〔鉄鋼〕

JFEスチール - 瀬戸内共同火力、水島合金鉄、水島鋼板工業、ダイワスチール、JFE炉材、

JFEMiネラル、JFE鋼板、JFEコンテナ等

〔自動車〕

三菱自動車工業 - 協同組合ウイングバレイ傘下企業ほか関連企業

しかし、水島臨海工業地帯では、後述の「水島コンビナート・ルネッサンス」により石油精製・石油化学を中心に系列を超えた原料等の融通が行われるなど状況は変わってきており、平成18年6月には新日本石油精製水島製油所とジャパンエナジー水島製油所の一体的操業に関する検討の実施が発表された。

今後、さらに連携の動きが加速され、国際競争力強化を目指す大きなコンビナートへと成長することが期待されている。

(2) 水島工業地帯の事業所数，従業員数，製造品出荷額等

平成18年の工業統計調査速報によると、水島工業地帯の事業所数は246事業所で、前年に比べ3事業所の減少(前年比 1.2%)、従業員数は21,973人で、前年に比べ1,120人(前年比5.4%)の増加であった。

一方、水島工業地帯の製造品出荷額等は4兆3,857億91百万円で、前年に比べ7,825億68百万円(前年比21.7%)増加し、6年連続の増加で調査開始以来の最高額となっている。岡山県全体の製造品出荷額等に占める水島工業地帯の割合は、52.9%で21年ぶりに5割を越え、工業分野での水島地域の比重はより高まった。製造品出荷額等を業種別にみると、化学工業、石油製品・石炭製品製造業、鉄鋼業の3業種で77.0%を占め、輸送用機械器具製造業が17.9%の割合となっている。

「工業統計調査」における水島工業地帯の範囲

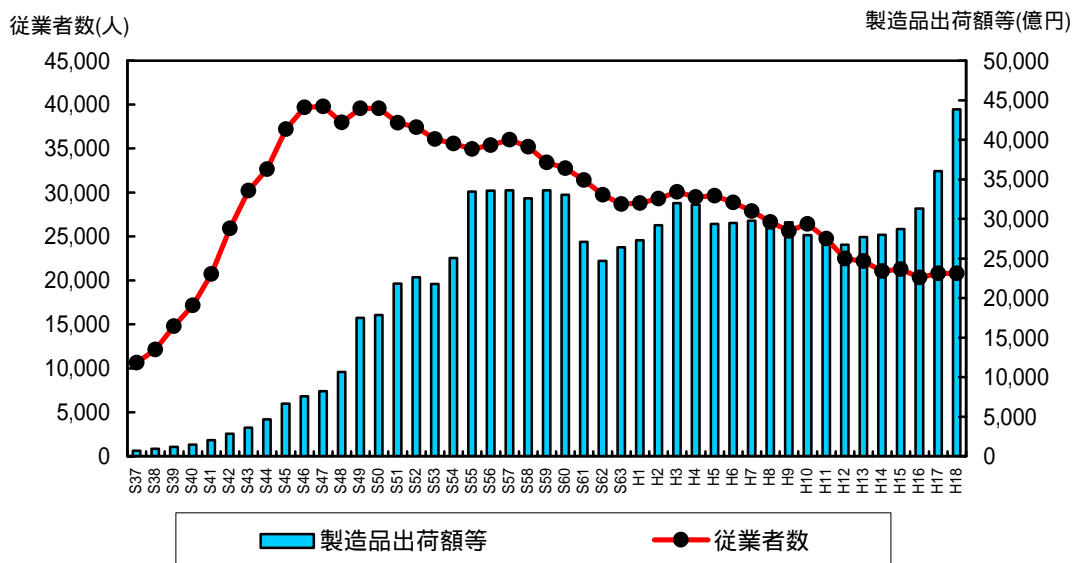
倉敷市の次の地区： 水島海岸通1～5丁目，水島川崎通1丁目，水島中通1～4丁目，水島福崎町，水島西通1～2丁目，水島東千鳥町，水島西千鳥町，水島相生町，水島東常盤町，水島西常盤町，水島東栄町，水島西栄町，水島東弥生町，水島西弥生町，水島東寿町，水島西寿町，水島東川町，水島南緑町，水島北緑町，水島南瑞穂町，水島北瑞穂町，水島南春日町，水島北春日町，水島南幸町，水島北幸町，水島青葉町，水島高砂町，神田1～4丁目，水島明神町，水島南亀島町，水島北亀島町，福田町浦田，福田町福田，福田町古新田，北畝1～7丁目，中畝1～10丁目，東塚1～7丁目，福田町東塚，南畝1～7丁目，松江1～4丁目，潮通1～3丁目，福田町広江，広江1～7丁目，呼松町，連島町連島，連島町亀島新田，連島町西之浦，連島町鶴新田，連島町矢柄，鶴の浦1～3丁目，連島1～5丁目，連島中央1～5丁目，亀島1～2丁目，児島通生，児島塩生，児島宇野津，玉島乙島



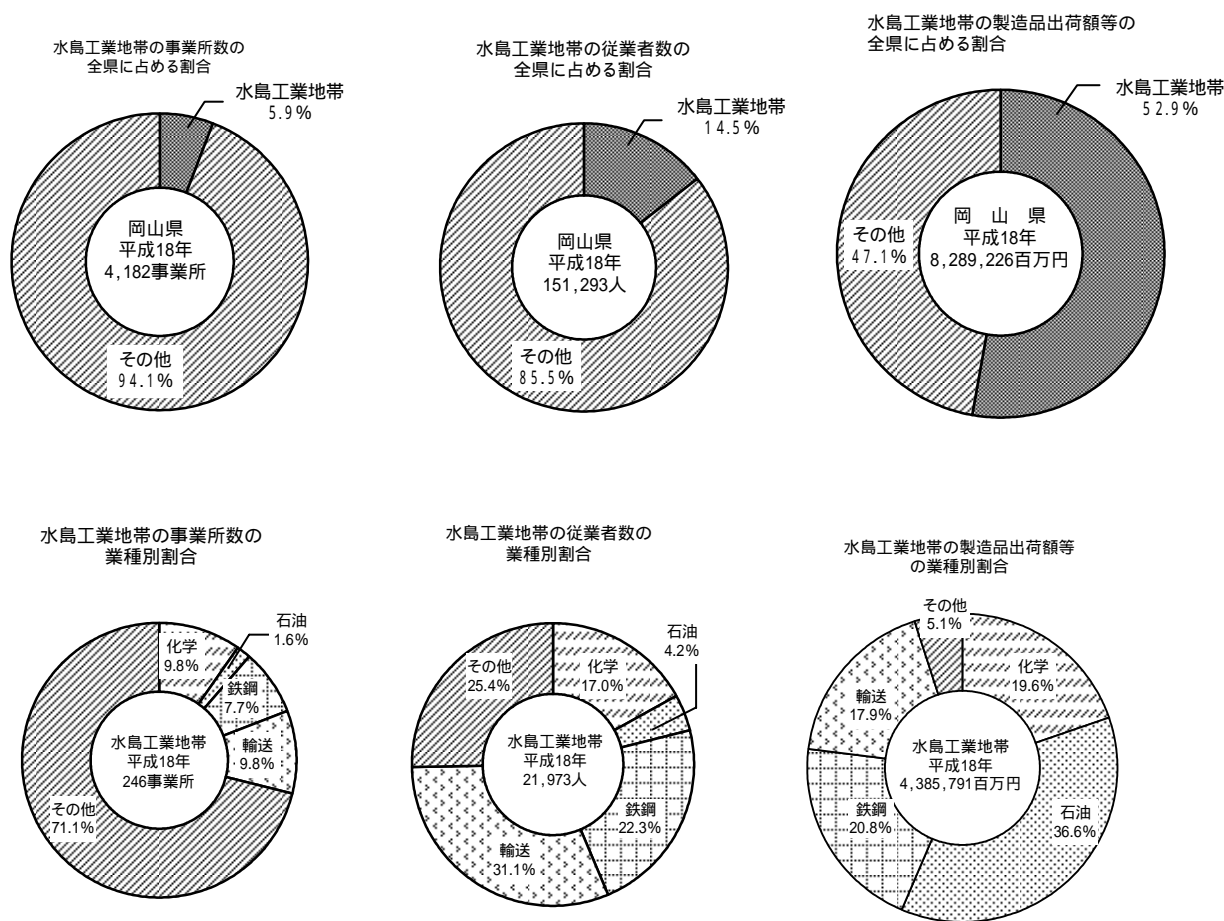
水島工業地帯の事業所数，従業者数，製造品出荷額等の推移

(従業者4人以上の事業所，出典：県統計管理課「工業統計調査」)

区分(単位)		年次	昭和55年 (1980)	平成2年 (1990)	平成12年 (2000)	平成15年 (2003)	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)
		事業所数		実数(事業所)	7,066	6,052	5,435	4,729	4,389
		対前年比(%)	99.9	104.4	97.7	100.5	92.8	101.4	94.0
水島工業地帯		実数(事業所)	301	318	291	257	242	249	246
		対前年比(%)	64.5	124.2	99.3	98.1	94.2	102.9	98.8
		対全県比(%)	4.3	5.3	5.4	5.4	5.5	5.6	5.9
従業者数		実数(人)	197,931	178,507	165,262	151,730	149,048	150,174	151,293
		対前年比(%)	100.1	99.6	97.1	98.1	98.2	100.8	100.7
水島工業地帯		実数(人)	34,952	26,414	22,479	21,284	20,326	20,853	21,973
		対前年比(%)	98.2	103.1	90.8	101.1	95.5	102.6	105.4
		対全県比(%)	17.7	14.8	13.6	14.0	13.6	13.9	14.5
製造品出荷額等		実数(百万円)	5,715,429	6,520,443	6,369,501	6,402,422	6,683,678	7,295,599	8,289,226
		対前年比(%)	123.4	94.1	100.6	101.8	104.4	109.2	113.6
水島工業地帯		実数(百万円)	3,345,409	2,793,986	2,673,523	2,868,919	3,127,554	3,603,223	4,385,791
		対前年比(%)	133.4	94.6	99.3	102.6	109.0	115.2	121.7
		対全県比(%)	58.5	42.8	42.0	44.8	46.8	49.4	52.9



(注) 平成17年以前は確定値。18年は概数値であるため，後日，国が公表する数値とは相違することがある。



(注) 業種は、産業中分類 (化学=化学工業, 石油=石油製品・石炭製品製造業, 鉄鋼=鉄鋼業, 輸送=輸送用機械器具製造業)

参考：水島工業地帯の全国に占める割合

	平成8年(10年前)の製造品出荷額等			平成18年の製造品出荷額等		
	全国合計	水島工業地帯	割合	全国合計	水島工業地帯	割合
全業種	313兆7百億円	2兆8,861億円	0.92%	314兆62百億円	4兆3,858億円	1.39%
うち化学工業	23兆49百億円	5,682億円	2.42%	26兆2百億円	8,602億円	3.31%
うち石油製品・石炭製品製造業	8兆38百億円	7,131億円	8.51%	15兆68百億円	1兆6,072億円	10.25%
うち鉄鋼業	13兆89百億円	6,621億円	4.77%	18兆42百億円	9,103億円	4.94%
うち輸送用機械器具製造業	45兆14百億円	7,485億円	1.66%	59兆79百億円	7,839億円	1.31%

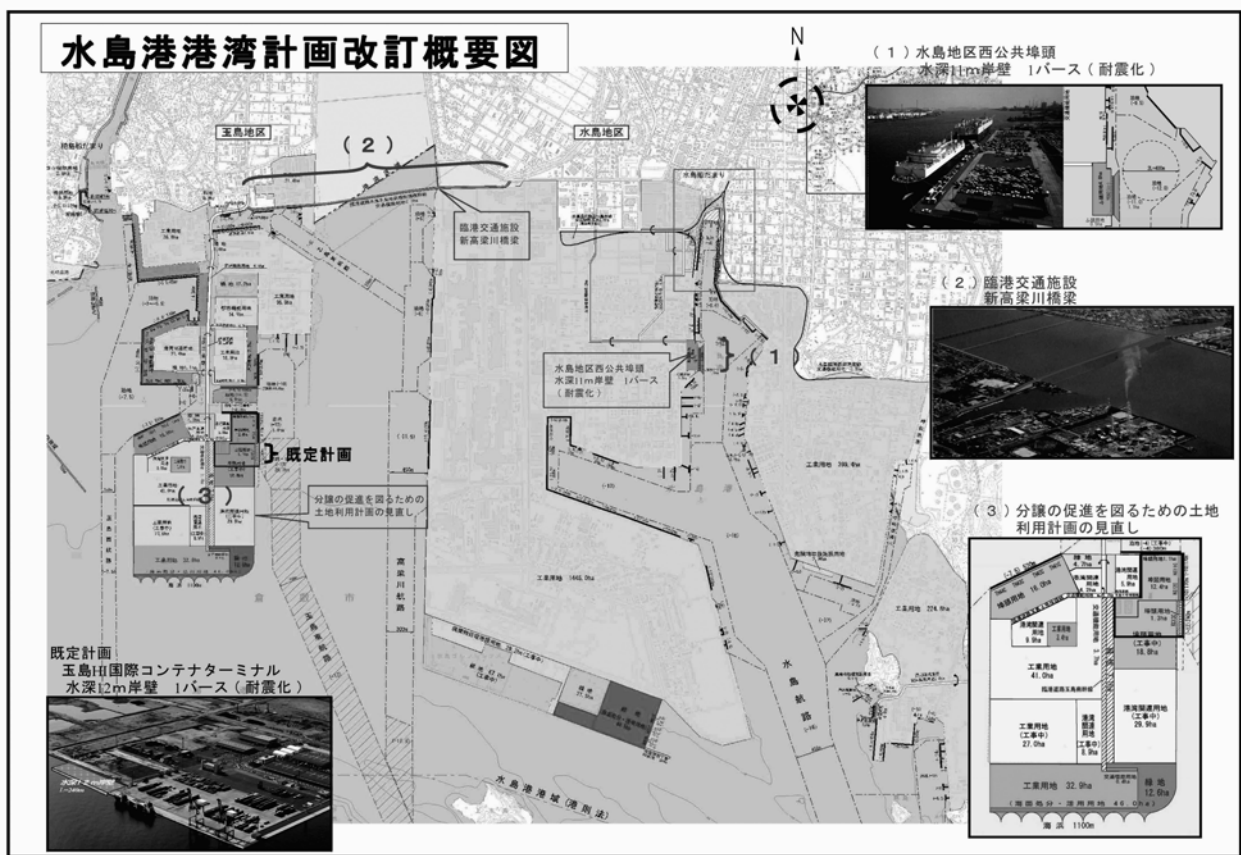
(3) 基盤整備の現状及び計画

当工業地帯を整備充実させるため、つぎのような施策を講じている。

ア 港湾整備

背後圏に立地する基幹産業の国際競争力を支える拠点の産業港湾、アジアを中心とした世界各国との交易を支える拠点の産業港湾として、さらなる貨物量の増加や船舶の大型化、荷役の効率化等に対応するため、水島港玉島地区（玉島ハーバーアイランド）に国際コンテナターミナル等の整備を進める。さらに、港湾と背後地域及び埠頭間の連携機能を強化するため、生産拠点の水島地区と物流拠点の玉島地区を結ぶ新高梁川橋梁の整備を進めていく。

また、市民のための憩いやうるおい、交流の場となるような親水空間を確保するため整備を進めていく。



イ LPガス国家備蓄基地の建設

LPガス（液化石油ガス）は家庭用プロパンガスなどとして利用されているが、供給量の約8割を輸入に依存。1990年の湾岸危機で一部輸入が中断したため、石油審議会が国家備蓄の必要性を提言。

独立行政法人石油液化ガス・金属鉱物資源機構では、LPガスの安定供給の確保を目的に、既存の民間備蓄に加え、150万トン（輸入量の40日分）の国家備蓄体制の整備に向けて、全国5カ所（石川県七尾市、長崎県松浦市、愛媛県今治市、岡山県倉敷市、茨城県神栖市）で備蓄基地建設事業を推進しており、水島臨海工業地帯B地区（ジャパンエネルギー水島製油所）内においては、国内初の地下方式（水封

式地下岩盤貯槽方式)でプロパンガス40万トンの貯蔵能力を有する備蓄基地建設事業を進めており、2003年4月に工事に着手した。

同製油所敷地などの地下165～187mの岩盤を掘削し、4列の貯槽(高さ22m、幅18m、長さ592～640m)を設置する計画である。



【写真説明】空から見たLPガス備蓄・倉敷基地の建設地
(4本線が地下貯蔵タンク) <山陽新聞社提供>

(4) 企業同士または産学官の連携事業の現状及び計画

企業同士または産学官が連携して、次のような事業や計画を進めている。

ア コンビナート・ルネッサンス事業

「コンビナート・ルネッサンス事業」は、国内の石油精製・石油化学メーカーなど主要28社(平成18年4月現在)でつくる石油コンビナート高度統合運営技術研究組合(東京)が、コンビナートの国際競争力強化を目指して展開している事業であり、第1次事業として2000年度から2002年度まで、全国5地区(鹿島、水島、川崎、徳山、瀬戸内)において、コンビナート内の設備の共同運用による原料・製品の最適融通等を行うことを可能とする高度総合運営技術開発が行われた。

このうち水島地区では、水島コンビナート内に立地する新日本石油精製水島製油所と水島港を挟んで対岸にあるジャパンエナジー水島製油所、三菱化学水島事業所、旭化成ケミカルズ水島製造所、山陽石油化学水島工場の5社を海底パイプライン(全長約820m)で結び、11本の融通配管が敷設され、それらを活用した研究開発が行われた。これにより、企業系列を超えてナフサや水素、重油などの原料・製品を相互融通するなど操業の効率化を図るシステムの開発や検証がなされた。

第2次事業は2003年度から2005年度までの3カ年の計画で、全国5地区(鹿島、千葉、堺・泉北、水島、周南)において、コンビナートにおける石油精製環境低負荷高度統合技術の研究開発が行われ、水島地区では副生炭酸ガス冷熱分離回収統合利用技術及び熱分解軽質留分統合精製処理技術の開発が行われた。

さらに2006年度から2009年度までの第3次事業では、全国3地区(鹿島、千葉、水島)で、石油精製高度機能融合技術開発が行われることとなり、水島地区では、コンビナート原料多様化最適供給技術開発のためのプラントを整備している。

イ LNG受け入れ基地

中国電力は、二酸化炭素や硫黄酸化物の発生量が少なく、環境への影響を抑制できる石油代替エネルギーとして期待が高まっている液化天然ガス（LNG）の販売事業に乗り出すため、2002年12月に日石三菱（現：新日本石油）とともに「水島エルエヌジー」を設立した。受け入れ基地は、新日本石油精製水島製油所内に2006年3月末に完成し4月から営業を開始しており、さらに増設を図っている。



< 山陽新聞社提供 >

ウ ガス化溶融炉の導入

倉敷市は、一般廃棄物の処理設備運営事業を特別目的会社（SPC）の水島エコワークスと契約締結し、2003年4月に施設の建設に着手し、2005年4月から事業を開始した。この事業は、通常、市が行う一般廃棄物処理設備の整備・運営を、期間を限定して民間に委託するPFI（民間資金を活用した社会資本整備）方式で行い、施設は、JFEスチール（株）西日本製鉄所（倉敷地区）内に設置された。

施設には、1日処理量185tクラスのガス化溶融炉3基が導入され、可燃物、焼却灰、汚泥などの一般廃棄物のほか、水島コンビナートなどからの産業廃棄物をあわせ、1日約550tを焼却、溶融処理できる。廃棄物中の有機物はガス化・改質されクリーンな燃料ガスとしてコンビナートで使用され、無機物はスラグやメタル、塩などに再生され全て循環再利用されている。100%再資源化を行うことで、その資源を再利用することにより廃棄物ゼロの資源循環型社会の実現に貢献している。

エ 石油残渣物利用の連携事業

平成21年7月稼働を目指して、石油精製過程で発生する石油残渣物を、ボイラー燃料に利用する共同事業が、石油精製・石油化学企業間で進行中である。

オ コンビナート製造現場中核人材育成事業

経済産業省から産学連携製造中核人材育成事業の委託を受け、平成17年度から（財）岡山県産業振興財団が中心となって、コンビナートの国際競争力強化のため、人材育成の教育システムを開発するコンビナート製造現場中核人材育成事業を実施した。事業は、大学と企業との共同のもとで実施され、「高度運転・安全能力、緊急時対応能力に優れたオペレーター」、「製造現場リスクとコンビナート全体最適化をマネジメントできるリーダー」を育成する実践的なプログラムが開発された。開発されたプログラムは、開発に参加した（社）山陽技術振興会において、人材育成講座として開講されており（平成20年4月から完全事業化）、中小企業コースも設けられている。

カ 産学官連携促進の取組

水島地域の発展戦略や産学官の連携方策等について論議を深めることにより水島工業地帯の一層の発展と本県産業の活性化に資することを目的に、平成13年3月から水島主要企業9社の所長と県内4大学の学長、岡山県知事、倉敷市長からなる「水島工業地帯産官学懇談会」が開催されている。

平成19年11月には、懇談会の下に設置した「水島コンビナート競争力強化検討委員会」において、「水島コンビナート国際競争力強化ビジョン」が策定され、競争力強化に係る方向性がまとめられた。

「水島コンビナート国際競争力強化ビジョン」

策定主体

水島コンビナート競争力強化検討委員会

策定の目的

水島コンビナート立地企業同士で、コンビナートの将来方向について共通の展望（ビジョン）を持つとともに、県・倉敷市とも共有しながら、大学などの関係者の協力のもとで、連携の取組を拡大して、コンビナートの競争力を強化しようとするもの。

ビジョンのあらまし

【国際競争力強化等の必要性】

現在の水島の活況は東アジアの大きな需要に負う部分が大いだが、今後、東アジアにおいては、自立生産体制が整い素材の輸出基地に転じることも予測される状況にある。今後の競争激化に対応するため、競争力強化の取組が求められる。

【ビジョン(コンビナートが目指す将来展望)】

「アジア有数の競争力を持つコンビナート」

【基本方針】

企業間連携と産学官連携による地域としての競争力強化

… 各企業の取組に加えて、連携による総合的な競争力強化が必要。

環境との共生 … 環境への配慮なくして国際的なものづくりは不可能。

地域との共生 … 地域との良好な関係を築くことが競争力強化にも繋がる。

【共通する分野ごとのコンセプトとアプローチ】

コンビナート企業の共通する分野を対象に、どのような観点(コンセプト)で進めるか、どのような方策(アプローチ)が考えられるかを、取りまとめた。

分野	コンセプト	アプローチ
物流	グローバル物流拠点水島へ	公共埠頭の外貿機能の拡充 など
エネルギー	エネルギーで地域と共に未来へ発展する水島コンビナートへ	エネルギーの融通、共有化の推進 など
保安	世界最高水準の安全なコンビナートへ	設備レイアウトに係る効果的安全措置の検討など
環境	産業振興と環境保全の調和を図るコンビナートへ	環境関連制度の効果的運用等の検討 など
リサイクル	ゼロエミッションを目指すコンビナートへ	廃棄物に関する情報共有・共同輸送の検討など
人材	優秀な人材育成により地域に貢献するコンビナートへ	人材育成事業の充実 など

【進め方と推進体制】

進め方 インフラ整備等…行政が中心で取組。企業間連携事業…幹事企業を決めて取組。

規制の運用等…行政・企業が相互に対応策を協議。

競争力強化検討委員会で進行管理や見直しを実施。

将来的な推進体制 予算的な裏付けと法人格を有した企業間連携組織の設置検討が望まれる。

4 立地条件の現状及び整備計画

(1) 工場用地の現状及び計画

本地帯の工業用地総面積 2,512haのうち、高梁川東部については、立地を完了している。

高梁川西部では玉島乙島新湊地先に航路及び泊地の浚渫土を利用して、185haの埋立を行い、外内貿のコンテナターミナル、工場、公園緑地等の造成を行う。

A 工場用地面積

(単位：㎡)

地区	用地種別		企業立地段階別		計
	埋立	その他	立地決定	内操業中	
A	928,413	599,587	1,528,000	1,528,000	1,528,000
A'	184,441	1,809,378	1,993,819	1,993,819	1,993,819
B	1,376,410		1,376,410	1,359,850	1,376,410
B'		2,003,149	2,003,149	2,003,149	2,003,149
B''		1,392,727	1,392,727	1,392,727	1,392,727
C	2,210,195	75,039	2,285,234	2,285,234	2,285,234
C'		503,044	503,044	503,044	503,044
D	8,813,016		8,813,016	8,813,016	8,813,016
D'		2,594,754	2,594,754	2,594,754	2,594,754
E	1,153,716		1,153,716	1,143,716	1,153,716
E'		177,967	177,967	177,967	177,967
E''		752,250	752,250	752,250	752,250
E()	543,411		346,456	225,442	346,456
計	15,209,602	9,907,895	24,920,542	24,772,968	24,920,542

(平成19年8月現在)



〔水島臨海工業地帯〕

B 立地事業所一覧表

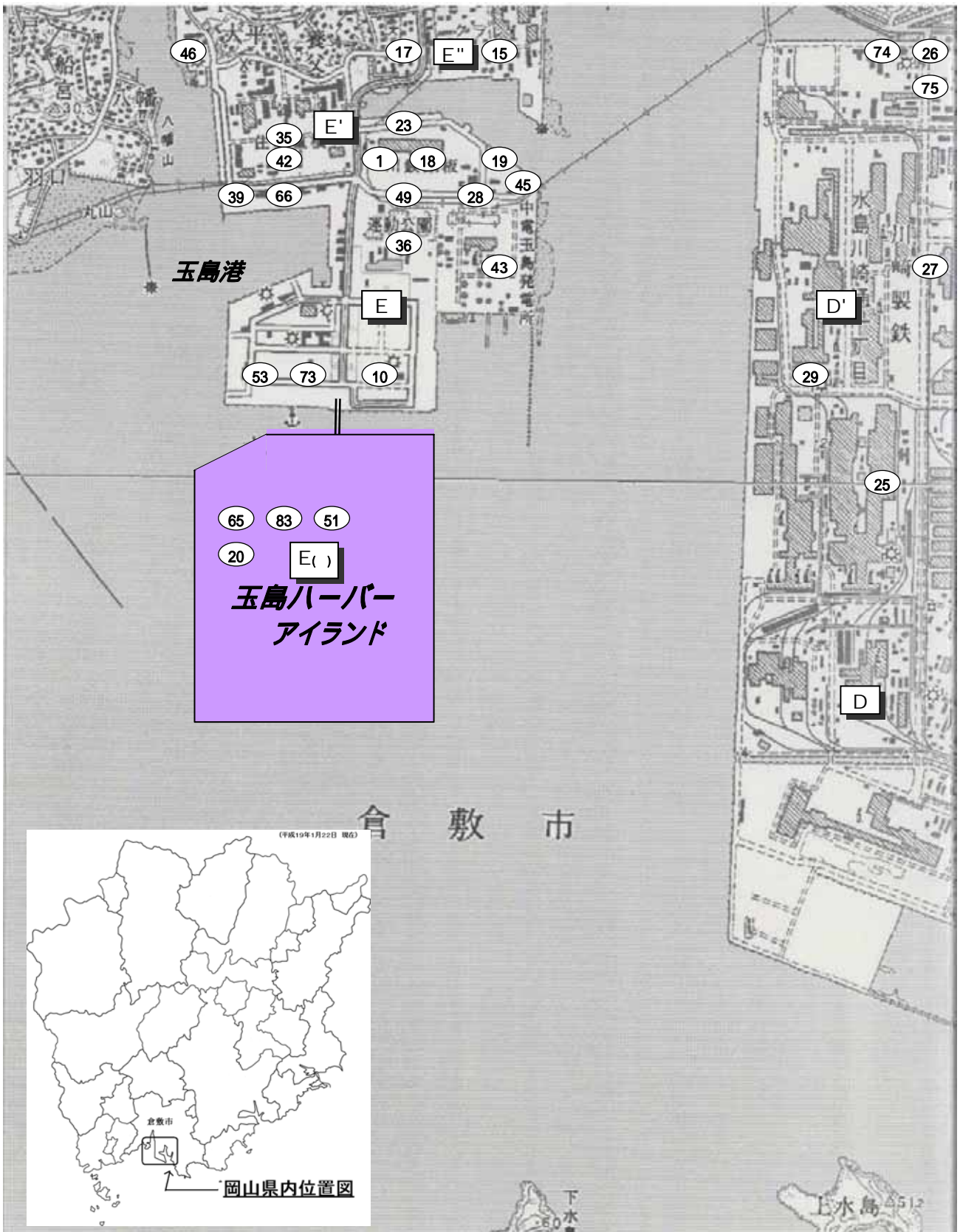
企業 No.	地区	事業所名	年 月			敷地面積 m ²	従業員 人	備 考
			立地又 は協定	建設 開始	操業 開始			
1	E	(株)アキオカ	S62.3	S62.9	S63.2	17,427	55	
2	B'	旭化成エポキシ(株) 水島工場	S41.7	S41.12	S42.8	8,224	8	
3	B' C	旭化成ケミカルズ(株) 水島製造所	S39.3	S39.4	S40.2	1,218,397	933	
4	B"	荒川化学工業(株) 水島工場	S43.9	S44.7	S45.6	112,000	55	
5	B"	岩谷瓦斯(株) 水島工場	-	-	S44.5	5,400	12	
6	A'	イー・ジ・イー・インタショナル・ケミカル(株) 水島工場	S43.1	S43.6	S44.7	17,589	42	
7	A'	オーシカケミテック(株) 水島工場	S39.10	S39.10	S40.2	10,427	29	
8	C	岡山化成(株) 水島工場	S43.12	S44.7	S45.8	62,554	41	
9	C	岡山ブタジエン(株) 水島工場	S44.10	S45.2	S45.11	8,653	15	
10	E	(株)オクダソカベ 岡山臨海工場	S60.10	H4.9	H6.4	33,000	41	
11	C	小田象製粉(株)	S61.1	S61.7	S62.5	19,576	35	
12	B"	関東電化工業(株) 水島工場	S38.11	S39.4	S40.3	184,736	160	
13	B"	(株)共和工業所			S30.11	9,342	59	
14	B"	倉敷ボーリング機工(株)	S52.1	S52.5	S54.11	6,150	84	
15	E"	(株)クラレ 倉敷事業所(玉島)	S31.3	S31.3	S31.11	365,000	190	クラレ玉島株を含む
16	C	(株)サノヤス・ヒシノ明昌 水島製造所	S43.12	S47.5	S49.1	287,011	450	
17	E"	三恵重機械工業(株) 倉敷工場	S40.7	S42.4	S42.8	14,161	8	
18	E	三東工業(株)	S62.2	S63.9	H 1.	6,612	20	
19	E	サンヨー化成工業(株)	S59.6	S63.4	S63.10	5,876	30	
20	E	(株)サンモーターズ 玉島工場	H16.7	H16.9	H17.2	34,141	35	
21	B'	山陽石油化学(株) 水島工場	S43.7	S44.1	S45.4	118,756	100	出向者含む

企業 No.	地区	事業所名	年 月			敷地面積 ㎡	従業員 人	備 考
			立地又 は協定	建設 開始	操業 開始			
22	A'	ジェイエ西日本くみあい飼料(株) 水島工場	S42.11	S43.3	S43.11	16,530	28	出向者等含む
23	E	JFE鋼板(株) 玉島製造所	S44.	S45.3	S47.2	146,165	140	
24	D'	J F E コンテナ(株) 水島工場	S42.7	S43.1	S44.4	34,107	51	
25	D D'	J F E スチール(株) 西日本製鉄所(倉敷地区)	S36.6	S37.4	S40.8	10,894,846	3,169	
26	D'	J F E フェライト(株) 倉敷工場	-	H1.10	H2.10	17,233	57	
27	D'	JFEミネラル(株) 製鉄関連事業部 倉敷製造所	S42.7	S42.7	S42.12	322,344	90	
28	E	J F E 炉材(株) 製造部玉島工場	S44.2	S45.4	S45.10	29,999	23	
29	D	J F E ロックファイバー(株)	H1.8	H1.9	H2.10	13,482	99	
30	B"	(株)島田焼付塗装工業 本社工場	-	S54.10	S55.5	5,061	36	第2工場を含む (敷地面積,従業員)
31	A	ジヤトコ(株) 第三事業所 水島工場	H15.4	H15.4	H15.4	7,798	147	
32	B B' C'	(株)ジャパンエナジー 水島製油所	S34.9	S35.7	S36.6	1,647,800	390	
33	B"	(株)上備製作所 水島工場	S38.10	S38.10	S39.6	8,600	18	
34	A	新日本石油精製(株) 水島製油所	S33.2	S34.10	S36.5	1,527,873	538	
35	E'E"	住友重機械工業(株) 岡山製造所	-	S18.	S23.8	425,000	177	
36	E	星光PMC(株) 水島工場	S62.11	S63.2	S63.11	30,000	37	
37	D	瀬戸内共同火力(株) 倉敷共同発電所	S40.1	S40.11	S42.4	125,069	67	
38	C	瀬戸埠頭(株)	S43.3	S44.11	S46.4	128,338	90	
39	E'	(株)銭屋アルミ製作所 岡山玉島事業部	S55.12	S56.2	S56.6	9,425	80	
40	C	ダイソー(株) 水島工場	S44.1	S45.1	S46.1	78,840	91	
41	A'	ジャパンパイル製造(株) 岡山工場	-	S35.	S36.1	39,082	30	旧社名 大同コンク リート工業(株)
42	E'	タツモ(株)	-	-	-	6,561	38	
43	E E'	中国電力(株) 玉島発電所	S41.3	S44.1	S46.3	423,665	100	

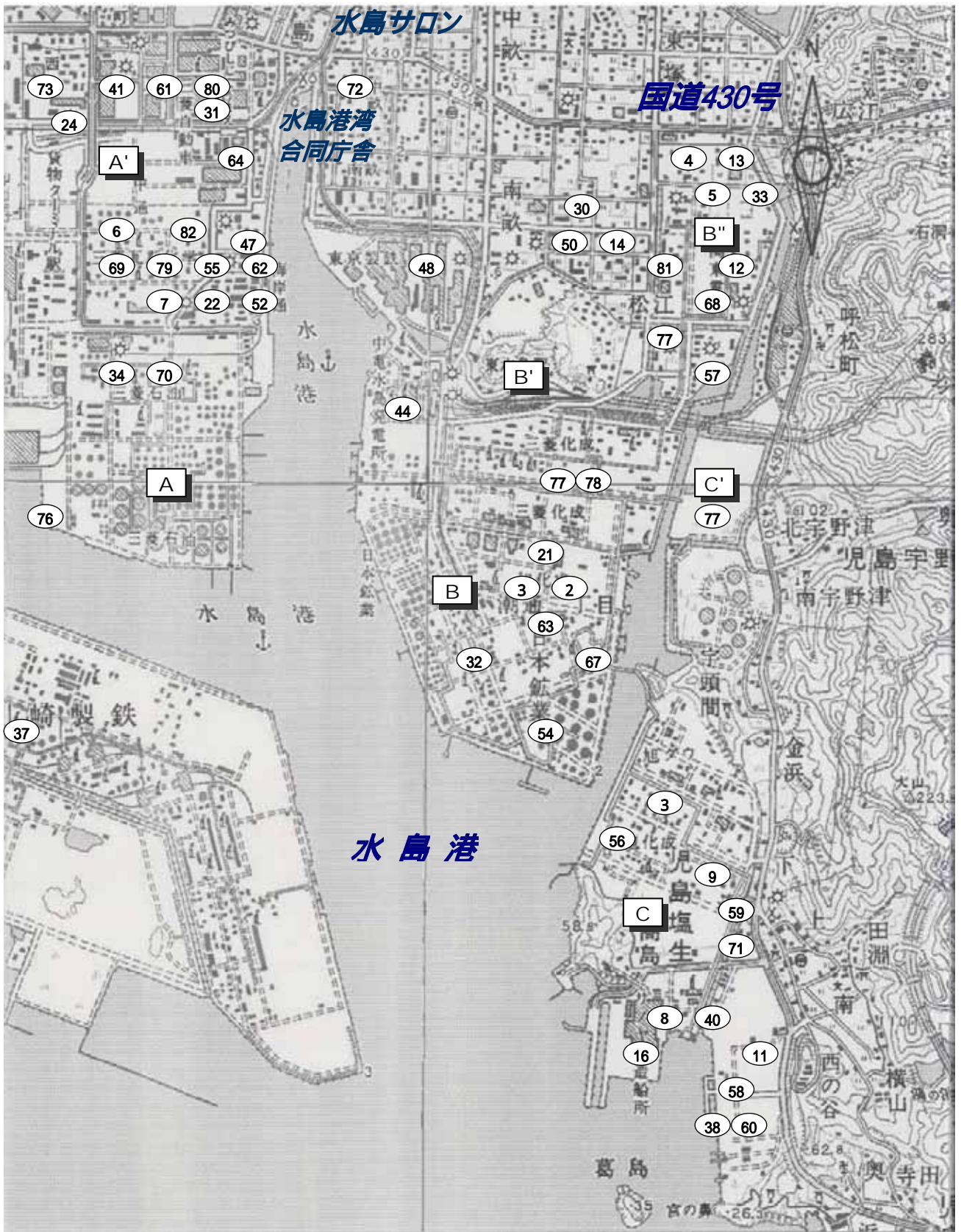
企業 No.	地区	事業所名	年 月			敷地面積 ㎡	従業員 人	備 考
			立地又 は協定	建設 開始	操業 開始			
44	B'	中国電力(株) 水島発電所	S34.3	S35.3	S36.11	267,191	141	
45	E	中国精油(株) 水島工場	S45.2	S46.9	S46.11	17,144	45	
46	E'	中部飼料(株) 岡山工場	S37.11	S41.6	S41.12	22,068	24	
47	A'	中部飼料(株) 水島工場	-	H15.12	H17.3	37,383	21	
48	B''	東京製鐵(株) 岡山工場	S35.11	S35.12	S37.10	462,825	501	
49	E	(株)トウペ製造 倉敷工場	S62.11	S63.4	H1.3	13,300	37	
50	B''	トーカロ(株) 水島工場	-	-	S48	2,970	32	
51	E	ナカシマプロペラ(株) 玉島工場	H16.11	H16.12	H17.12	57,739	140	
52	A'	西日本飼料(株)	H1.2	H1.4	H2.10	27,519	29	
53	E	日電商工(株) 倉敷工場	H3.3	H6.11	H7.5	9,900	34	
54	B	日鉱液化ガス(株) 水島輸入基地	S39.12	S40.6	S41.11	28,425	1	
55	A'	日清オイリオグループ(株) 水島工場	-	-	S55.9	118,890	85	
56	C	日本曹達(株) 水島工場	S43.10	S43.12	S44.9	35,969	53	
57	B	日本合成化学工業(株) 生産技術本部 水島工場	S38.1	S38.10	S39.8	119,000	195	
58	C	日本食品化工(株) 水島工場	S63.2	S63.6	H1.3	81,330	70	
59	C	日本ゼオン(株) 水島工場	S43.10	S44.2	S44.8	346,007	322	
60	C	日本農産工業(株) 水島工場	H1.5	H1.10	H2.12	35,077	50	
61	A'	萩原工業(株)	-	-	S37.11	46,000	315	
62	A'	パシフィックグリーンセンター(株) 西日本支店	S42.7	S43.2	S43.12	9,498	26	
63	B	P S ジャパン(株) 水島工場	S39.10	S39.11	S40.2	25,003	0	旭化成ケミカルズ(株)内
64	A'	(株)ピーエス三菱 水島工場	S28.11	S28.12	S29.7	50,635	15	H19.10月よりピー・エス・コンクリート(株)水島工場に名称変更

企業 No.	地区	事業所名	年 月			敷地面積 ㎡	従業員 人	備 考
			立地又 は協定	建設 開始	操業 開始			
65	E	(株)ヒラキン	H17.3	H17.5	H18.4	32,542	20	
66	E	富士ダイス(株) 岡山製造所	S53.6	S53.8	S53.10	16,605	143	
67	B'	ペトロコークス(株) 水島工場	S42.9	S42.11	S45.6	95,159	0	(株)ジャパンエナジー内
68	B	三國製薬工業(株) 水島工場	S63.8	S63.12	H3.3	16,724	35	
69	A	水島アロマ(株) 本社工場	S45.10	S46.12	S48.4	48,718	37	
70	A	水島エルエヌジー(株)	H13.12	H14.11	H18.4	43,800	11	
	A	水島エルエヌジー販売(株)	H14.4	H16.9	H18.4	0	4	
71	C	(株)水島オキシトン 水島工場	S44.12	S45.3	S46.4	9,343	18	
72	B"	水島瓦斯(株)	S17.4	S17.7	S18.11	30,857	68	
73	A'E	水島機工(株)	H4.6	H6.12	H7.5	39,800	252	玉島工場を含む
74	D'	水島合金鉄(株) 本社工場	S36.6	S40.3	S40.9	149,123	170	
75	D'	水島鋼板工業(株)	S41.1	S41.9	S42.2	18,701	98	
76	D	水島リバーメント(株)	S62.9	S62.11	S63.10	13,548	13	
77	B'B"	三菱化学(株) 水島事業所	S38.1	S38.8	S39.7	2,022,334	828	
	C'							
78	B'	三菱化学アグリ(株) 水島工場	S38.1	S41.5	H14.4	15,700	0	(株)三菱化学内
79	A'	三菱ガス化学(株) 水島工場	S35.2	S35.2	S35.5	509,877	439	
80	A'	三菱自動車工業(株) 水島製作所	S16.	S16.10	S18.9	1,245,700	5,000	
	C E							
81	B"	三菱樹脂(株) 長浜工場水島製造所	-	S.60	S60.12	7,206	44	
82	A'	(株)ユタカケミカル 水島工場	S41.10	S42.2	S42.6	11,548	14	
83	E	(株)ロジコム 岡山営業所		H17.11	H18.5	約40,000	82	

水島臨海工業地帯企業立地状況図



(注) 数字は「B立地事業所一覧表」における企業 に対応しています。



(2) 港 湾

ア 現 状

水島港は、高梁川の東側（水島地区）に形成された重化学工業地帯を背景とする工業港と西側（玉島地区）の旧来からの港を中心とする商港の二つの異なった性格を持った港からできている。

水島地区は、石油・鉄鋼コンビナートを中核とする水島工業地帯の海の玄関で、取扱貨物も、各企業の生産活動に要する原料及びその製品が主なものである。

玉島地区の港奥部には、かつて内海有数の港として栄えた旧玉島港がある。この旧港の港口部において外内貿公共ふ頭を中心とした商港機能の整備を進めている。

平成13年4月には、水島港地域の岡山空港FAZへの編入が実現し、FAZ港湾として認められただけでなく、外貿（国際）航路についても11航路15便（平成19年11月現在、運航中）が就航するなど、国際物流拠点としての基盤が充実してきている。

さらに、対アジア国際輸送を軸とした国際海上コンテナ貨物輸送網の拠点港湾としての評価を得て、平成15年4月には全国23港目の特定重要港湾へ昇格した。引き続き同年11月には、水島港臨港地区を中心とした区域が「水島港国際物流・産業特区」として認定され、公共埠頭の民間貸付け等の規制緩和措置が適用されたところである。

< 入港船舶及び貨物取扱実績 >

年次	入港船舶			貨物取扱実績 (t)			外航商船数
	総隻数	総トン数	入港最大船舶：D/W	総量	輸移出	輸移入	
55	69,418	68,963,170	230,095	88,730,720	36,092,919	52,637,801	2,000
60	69,176	70,610,420	230,540	90,161,094	36,013,457	54,147,637	2,182
2	60,668	68,486,191	237,365	87,610,702	35,021,386	52,589,316	1,834
7	52,869	79,380,862	294,656	95,094,041	36,067,164	59,026,877	2,249
12	44,387	80,329,085	259,987	91,272,658	33,242,063	58,030,595	3,093
13	43,999	80,283,446	259,987	90,310,025	32,963,290	57,346,735	3,057
14	40,876	76,871,503	298,414	92,393,782	33,849,088	58,544,694	3,482
15	42,881	81,757,950	300,667	96,617,574	33,907,449	62,710,125	3,787
16	47,255	89,386,667	299,999	104,485,402	37,096,779	67,388,623	4,138
17	47,628	86,855,334	318,658	102,059,400	36,445,096	65,614,304	3,910

(D/W) 載荷重量トンで船に積載できる重量をトンで表している。

イ 整備計画

水島港玉島地区の玉島ハーバーアイランドでは、中国地方東部の国際物流拠点を目指して平成11年度より整備を進めてきた水深10m岸壁1バースや薫蒸庫などの諸機能を備えた国際コンテナターミナルが平成14年3月に供用開始した。

さらに、平成16年4月には2バース目の水深10m岸壁の供用を開始し、今後、水深12m岸壁1バースの整備及び、生産拠点の水島地区と物流拠点の玉島地区を結ぶ新高梁川橋梁の整備を行う計画である。

(3) 道 路

ア 現 状

水島工業地帯からの高速道路網としては、四国方面に向けて瀬戸中央自動車道，関西・九州方面に向けて山陽自動車道及び山陰方面に向けては中国横断自動車道岡山米子線が供用されている。

また，幹線道路網としては，国道2号から水島工業地帯に至る国道429号，国道430号，県道倉敷西環状線，水島港線，福田老松線，玉島港線及び岡山市，倉敷市茶屋町方面からの県道岡山児島線，玉野市方面からの玉野福田線等があり，平成17年8月には，国道430号における交通混雑解消を目的に整備を進めていたバイパス(連島町鶴新田地内，L=1.5km)を供用した。さらに平成18年4月には，水島地区と玉島地区を結ぶ水島玉島産業有料道路(県道水島港唐船線)を無料開放した。

イ 整備計画

県道倉敷西環状線(連島町西之浦から連島中央5丁目間，L=1.6km)のバイパス整備に取り組んでいる。

(4) 鉄 道

当地帯の鉄道は，東西に走るJR山陽本線倉敷駅から南に向かって水島臨海鉄道線が敷設されている。旅客は，JR倉敷駅に隣接する倉敷市駅から三菱自工前駅間に1日80本運転で年間約158万人を輸送している。貨物は，倉敷貨物ターミナル駅及び東水島駅を拠点として，水島港東地区・西埠頭地区に貨物線が敷設されており，工業製品等年間約53万tをJR倉敷駅を經由して全国に輸送している。



水島臨海鉄道(株) <http://www.mizurin.co.jp/>

(5) 工業用水

当地帯の工業用水は、本県三大河川の一つである高梁川を水源としており、県が昭和35年度に工業用水道事業に着手して以来、工場の新設、増設にあわせて工業用水道施設も順次規模を拡張して、工業用水の需要に応じている。

〔工業用水事業の概要〕

区 分	第 2 期事業	第 3 期事業	第 4 期 事 業	
			1 種	2 種
建設期間(年度)	S41～45	S43～48	S35～53	S46～H10
事業費(千円)	3,757,434	3,683,652	4,172,220	33,445,886
水 源	高梁川(表流水)	同 左	同 左	同 左
取水量(m ³ /日)	216,700	222,200	131,760	190,740
給水量(m ³ /日)	201,500	206,500	122,500	177,500
給水区域	倉敷市	同 左	同 左	同 左

(6) 電 力

水島地区の電力供給源は、中国電力(株)水島発電所(1～3号機、総出力62.1万kW)、玉島発電所(1～3号機、総出力120万kW)、新成羽川発電所(1～4号機、総出力30.3万kW)及びJFEスチール(旧：川崎製鉄)と中国電力の共同出資による倉敷共同火力発電所(新1号機、3～5号機、総出力61.3万kW)がある。

水島発電所3号機は、従来、重・原油を燃料とする石油火力発電所であったが、優れた環境特性をもつ天然ガス(LNG)の利用を拡大するため、平成18年4月、燃料転換が行われた。

なお、水島発電所1号機については、使用する燃料を現在の石炭から天然ガス(LNG)へ転換するとともに、発電効率が高いコンバインドサイクル発電方式を採用した設備改造工事に着手している。(平成21年4月運転開始予定)



「エネルギーの国の仲間たち」

中国電力(株)岡山支社 <http://www.energia.co.jp/st/oka/index.html>

5 生活環境の現状及び整備計画

(1) 上水道

ア 現 状

倉敷市の上水道は船穂，片島，福井，川辺の各自己水源のほか，水道用水供給事業者である岡山県南部水道企業団及び備南水道企業団，並びに岡山県広域水道企業団から受水し，市内全域に給水している。自己水源のうち主として船穂水源は玉島・船穂地区を，片島水源は水島・連島地区を，福井・四十瀬・水江水源は倉敷地区のうち粒江・天城方面を，川辺水源は旧真備町をそれぞれ対象に給水し，岡山県南部水道企業団からの受水は福田・児島地区を，備南水道企業団からの受水は粒江・天城方面を除く倉敷地区を，岡山県広域水道企業団からの受水は旧真備町を対象に給水している。

また，各水源の取水能力は，船穂水源42,000m³/日，片島水源54,150m³/日，福井水源8,000m³/日，四十瀬水源15,000m³/日，水江水源3,000m³/日，川辺水源4,290m³/日であり，岡山県南部水道企業団からは，97,000m³/日，備南水道企業団からは102,850m³/日，岡山県広域水道企業団からは6,600m³/日の受水を受け，現在水道事業を行っている。

イ 整備計画

倉敷市上水道の倉敷水道事業は，平成28年を目標年度として計画給水人口457,200人，一日最大給水量322,000m³に対応すべく，総事業費383億円で取水施設を始め，導水施設，浄水施設等の施設を第6次第1期変更事業として現在整備中である。

また，倉敷市上水道の真備水道事業は，計画給水人口28,100人，一日最大給水量11,900m³で，現在第4次拡張事業としての施設整備は完了している。

(2) 下水道

倉敷市では，倉敷，水島，児島，玉島，船穂及び真備の6つの処理区及び倉敷処理分区（児島湖流域関連公共下水道）に分けて下水道の整備を進めている。

平成19年3月末現在では，各処理区すべてにおいて供用開始しており，面積では事業認可区域9,770haのうち約72.1%に当たる約7,043haが整備済区域となっており，人口普及率では約63.1%となっている。

(3) 都市計画道路

倉敷市の中心部と水島臨海工業地帯を結ぶ道路交通は，特に朝夕の混雑が著しく，これを解消緩和するため，都市計画道路五軒屋王島線，堀貫線等の幹線道路網の整備を推進している。このうち，堀貫線外1線は平成17年度完了，五軒屋王島線は平成15年度完了し，堀貫線(4工区)は，平成20年度完了予定である。

(4) 公園・緑地

本地域の公園・緑地は、地域住民の生活環境の向上や公害の防止・緩和とともに、運動や休息の場となる緑のオープンスペースの確保を図るため水島緑地（緩衝緑地）をはじめ街区公園や近隣公園等の整備を推進している。このうち水島緑地については平成13年度に完了している。

(5) 公営住宅

地域内の住宅需要に対処するため、公営住宅等を次のとおり整備している。

倉敷市における公営住宅等建設状況（平成19年8月1日現在）

（単位：戸）

区分	県営住宅	市営住宅	雇用促進住宅	計	摘要
水島地区	(-) -	(13) 433	(5) 916	(18) 1,349	()は団地数を示す。
周辺地区	(9) 1,687	(70) 3,537	(7) 670	(86) 5,894	
計	(9) 1,687	(83) 3,970	(12) 1,586	(104) 7,243	

(6) 学校施設

ア 現 状

当地帯における学校施設は、水島地域に小学校13校、中学校5校が、玉島乙島地域に小学校3校が、児島塩生地域には小学校1校がそれぞれ設置されているが、これらの地域を含む倉敷市全域における学校教育の状況は次表のとおりである。なお、高等学校19校の内訳は、県立11校（全日制11校）、市立4校（定時制4校）、私立4校（全日制4校）である。このほか、大学関係では私立大学5校を始め短期大学としては市立1校、私立3校があり、教育条件は比較的恵まれた地域である。

地区名		学校数・学級数（平成19年5月1日現在）							
		幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
		園数	園児数	校数	児童数	校数	生徒数	校数	生徒数
公立	旧倉敷市(含旧庄・茶屋)	29	2,509	31	19,305	15	8,556	10	7,083
	旧玉島市	9	404	11	3,909	4	1,798	3	1,466
	旧児島市	12	425	13	4,467	5	2,125	2	1,142
	計	50	3,338	55	27,681	24	12,479	15	9,691
私立	旧倉敷市(含旧庄・茶屋)	11	2,069			1	294	4	1,973
	旧玉島市	4	396						
	旧児島市								
	計	15	2,465			1	294	4	1,973

なお、前記のうち工業課程を持つ高等学校は次のとおりである。

県立倉敷工業高等学校、県立水島工業高等学校、倉敷市立工業高等学校

イ 整備状況

当地帯の人口の増加に対応して昭和50年以降小学校2校，中学校3校が新設され，高等学校についても，中卒者の増加に対応して県立高校1校を新設した。また，平成15年度には児島にある市立高校が発展的に統合して，倉敷翔南高校が開校，平成17年度には県立児島高校と県立琴浦高校との再編整備により，県立倉敷鷺羽高校が開校した。

(7) 観光レクリエーション及び保養施設

倉敷市は工業都市としてだけでなく，美しい自然や歴史・文化を有する都市のイメージが全国に定着しており，特に美観地区や倉敷チボリ公園，瀬戸大橋やその展望地である鷺羽山には年間を通じて多くの観光客が訪れている。

〔倉敷美観地区〕

市の中心部に位置しており，国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。江戸情緒をよく残しており，幕府天領の中核として，物資の集散で繁栄した往時の姿をしのばせる黒い張り瓦と白壁の町並みを柳の緑とともに倉敷川に映している。なかでも，大橋家住宅や旧大原家住宅はこれらを代表する豪商の家屋として，国の重要文化財の指定を受けている。



この付近には世界的な名画を集めた大原美術館のほか，倉敷考古館，倉敷民芸館，日本郷土玩具館，倉敷市芸文館，大山名人記念館等の文化施設が集まり，鶴形山公園の緑とも美しく調和している。

〔倉敷チボリ公園〕

<http://www.tivoli.co.jp/>

倉敷チボリ公園は，デンマークのチボリ公園を基礎として倉敷ならではの感性を織り込んだ都市型公園で，園内には四季折々の樹木や草花が生い茂り，様々なアミューズメントの要素を備え，あらゆる世代の人々が憩い集える施設として，県内はもとより西日本一帯から多くの観光客を集めている。



〔玉島地区〕

高梁川を行き交う高瀬舟の着く町，北前船の出入りする港町として栄え，今でも往時の面影を残している。市街地を望む丘の上には，わらべ歌で親しまれている良寛和尚が修行した円通寺と，桜から紅葉まで四季折々に楽しむことができる円通寺公園がある。また，風光明媚な白砂青松の沙美海岸は，岡山県で一番古い海水浴場として人気を集めている。

〔児島地区〕

眼下に塩飽諸島の島々や四国の連山を望み，瀬戸内海随一の多島美が展望できる鷲羽山や，讃岐金刀比羅宮と並び海上安全の神として多くの信仰を集めている瑜伽大権現，天然記念物象岩のある六口島等瀬戸内海国立公園の景勝地がある。また，児島観光港からは，瀬戸大橋遊覧船も就航している。

〔瀬戸大橋〕

江戸時代からの商港・漁港として，また金比羅参りの渡海港として栄え，今でも古い町並みが残っている下津井と対岸の香川県坂出市番の州を結ぶ瀬戸大橋は，下津井瀬戸大橋，櫃石島橋，岩黒島橋，与島橋，北備讃瀬戸大橋，南備讃瀬戸大橋からなっており，吊橋，斜張橋，トラス橋等様々な形式の橋を見ることができ，魅力ある観光資源となっている。



〔水島サロン〕 <http://www.omsalon.jp/>

水島サロンは，水島臨海工業地帯で働く人達に憩いと交流の場を提供し，併せて地域の活性化を図るために，県と倉敷市とが共同で建設したものである。

21世紀の水島の新しいシンボルとして，特徴ある外観に加え，展示会や発表会など多目的な利用ができるコミュニティプラザ，温水プール等から構成されるスポーツプラザ，交流サロン等が整備されている。平成20年2月からは，倉敷市産業観光ギャラリーが開設され，水島コンビナートを中心とした倉敷の産業を，パネルや映像で紹介している。



また，石の広場では，フリーマーケットが定期的に行われるなど，市民のふれあいの場としても利用されている。

6 環境保全対策

(1) 環境の現状

ア 概況

水島地区の環境保全については、大気・水質・騒音・悪臭対策等、過去30年余にわたり、多大な努力が払われてきており、大気汚染に係る二酸化硫黄等については、大幅な改善が認められるに至っている。

イ 大気汚染

倉敷市には1,399施設（平成19年3月末現在）のばい煙発生施設があり、粉じん発生施設や岡山県環境への負荷の低減に関する条例に基づく特定施設も多く、自動車走行量も県下では岡山市に次いで多い。こうした発生源から排出される大気汚染物質について、法令等による規制や公害防止協定に基づく削減対策が講じられている。

大気汚染の平成18年度の状況は、概ね次のとおりである。二酸化硫黄については、昭和56年度以降環境基準（長期的評価）を達成し、濃度は低下傾向である。二酸化窒素については、昭和53年度以降環境基準を達成し、濃度はほぼ横ばいで推移している。浮遊粒子状物質については、環境基準達成率12.5%となっている。光化学オキシダントについては、倉敷市内のすべての測定局で環境基準を達成されておらず、特に夏期においてはオキシダント情報等が発令される状況である。また、ベンゼンについては、一部で依然として環境基準を超えた地域がある。悪臭については、昭和48年8月に悪臭防止法に基づく規制地域に指定され、発生源事業所の規制がなされている。

ウ 水質汚濁

当地帯の瀬戸内海環境保全特別措置法の対象となっている特定事業場は40で、その排水量は冷却水を含めて約550万m³/日となっており、水島港、高梁川河口、玉島港等に排出され東西に拡散している。

排水による水質汚濁を防止するため、環境基準の類型指定、上乘せ排出基準や総量規制基準の設定等を行い、企業においては化学的酸素要求量（COD）や窒素・りん削減対策を講じている。

水島海域は、CODの環境基準の類型あてはめがされている4水域、窒素・りんの類型あてはめがされている2水域からなるが、平成18年度のCODの環境基準達成率は75%、窒素・りんの環境基準達成率は100%である。

エ 騒音・振動

騒音については、昭和44年3月に騒音規制法に基づく規制地域に指定され、また、振動については昭和53年3月に振動規制法に基づく規制地域に指定され、発生源である工場、建設工事等の規制がなされている。（工業専用地域を除く）

(2) 環境保全に関する施策

ア 施策の基本方針

公害を未然に防止し、環境の保全と地域住民の健康を守るため、立地企業の施設整備に係る事前審査、総量規制の実施等による徹底した発生源対策を中心として、監視体制の整備、汚染物質や汚染メカニズムの解明、防止技術の開発等の対策を総合的に推進する。

更に公害防止対策を総合的に進めるに当たって土地利用の純化、公共下水道、公園、緑地等都市施設

の整備，自然環境の保護等に関する施策を併せて推進する。

また，公害による健康被害者の救済については，引き続き公害健康被害の補償等に関する法律に基づく事業の充実を図る必要がある。

当地域における各種開発事業等については，それが公害防止事業としての性格を有する場合を含めて，必要に応じて環境影響評価を実施するなど，環境保全上所要の措置を講ずるものとする。

なお，公害防止対策の実施に当たっては，岡山・倉敷地域公害防止計画等に基づき公害の未然防止を基本とし，公害防止のため最も効果的な優先順位によって国の施策と有機的な連携を保ちながら総合的，計画的に実施するものとする。

イ 大気保全対策

この地域の大気保全対策として，大気汚染防止法による排出規制，総量規制，岡山県環境への負荷の低減に関する条例による排出規制及び公害防止協定に基づく大気汚染防止措置が行われている。

総量規制

硫黄酸化物については，昭和53年3月31日から大気汚染防止法に基づく総量規制を行っている。

窒素酸化物については，当地域は大気汚染防止法に基づく総量規制地域ではないが，岡山県・倉敷市が独自に総量削減計画を作成し，水島地域の主要工場の協力を得て総量規制を行っている。

大気環境監視及び大気汚染防止夏期対策

倉敷市内に25局の大気環境測定局があり，二酸化硫黄，二酸化窒素，光化学オキシダント，浮遊粒子状物質などを測定し，テレメータ装置により常時監視を行っている。また，当地域の主要企業13社の協力を得て主な煙突の排煙状況をテレメータ装置に接続し，硫黄酸化物，窒素酸化物の排出量等を常時把握している。

光化学オキシダントについては，5月中旬～9月初旬に濃度が上昇しやすいので，大気汚染防止夏期対策を実施し，常時監視に基づき情報，注意報を発令して窒素酸化物等の削減を要請するほか，自動車の使用自粛を呼びかけるなど汚染物質の削減を図っている。

ベンゼンの排出抑制対策

倉敷市水島地区におけるベンゼンの大気環境中の濃度は環境基準を超えていることから，当該地区を岡山県環境への負荷の低減に関する条例により指定し，ベンゼンの製造・使用を行う事業者に対して，排出施設設置の届出，削減計画の作成，排出抑制対策の実施などの措置を講じさせている。

揮発性有機化合物対策

大気汚染防止法が改正され，平成18年4月1日から新たに揮発性有機化合物(VOC)に係る規制が行われるようになっており，事業者に対する届出指導や規制基準ま遵守状況の調査等を通じて，揮発性有機化合物の削減を図っている。

アスベスト対策

大気汚染防止法が改正され，平成18年10月1日から化学プラント等の工作物に使用されているアスベストの除去等作業についても新たに規制が行われるため，工事施工者に対する届出指導や作業基準の遵守等についての指導を行うこととしている。

その他の大気保全対策

大気汚染防止法に基づくばいじんの特別排出基準の適用(水島地域)及び悪臭防止法に基づく地域指定等法令に基づく規制のほか，岡山県環境への負荷の低減に関する条例に基づく有害ガス(アクリルニトリル等)の規制等の大気保全対策を講じている。

ウ 水質保全対策

水質保全対策については、倉敷市が昭和49年5月に水質汚濁防止法による政令市に、平成14年4月に瀬戸内海環境保全特別措置法による政令市に指定され、以後同市が主体的に次の諸施策を推進している。

工場排水の規制

昭和46年には水質汚濁防止法第3条第3項の規定により上乘せ排水基準の設定を行い、更に昭和48年の瀬戸内海環境保全臨時措置法の制定に伴い一段と厳しいものに改正し、これをもとに毎月この遵守状況をチェックするなどCODを中心に規制指導を進めており、現状では全工場において基準が遵守される状況にある。

また、水の循環使用やクロード化による排水量の削減、有害物質使用施設のクロード化、富栄養化の原因といわれる窒素及びりんへの削減指導も併せて行い、企業の新增設に対しては厳しい事前審査を実施し、汚濁負荷量の削減に努めている。

総量規制の実施

水質汚濁防止法及び瀬戸内海環境保全特別措置法の改正（昭和53年6月）に伴い総量規制が導入され、CODに係る総量規制基準が昭和55年7月から適用されている。また、平成14年10月からは新增設事業場に対して窒素含有量及びりん含有量に係る総量規制基準が適用され、既設事業所に対しても平成16年4月1日から適用されている。総量規制基準は日平均排出量が50m³以上の事業場が規制対象となっており、このうち400m³/日以上以上の事業場は自動計測器により自ら排出水の濃度及び排水量を測定して記録することが義務付けられている。

環境水質の測定

水島港、高梁川河口等に17点の常時監視測定点を設け毎月調査して、その結果をとりまとめ公表している。

エ 緩衝緑地帯の設置

水島地域公害防止計画（現：岡山・倉敷地域公害防止計画）に基づき、昭和46年度から住居地域と工場地帯を隔てる緩衝緑地整備事業は、昭和50年度第1期（面積約40.7ha）、昭和53年度第2期（面積約15ha）事業を完了し、昭和54年度からは第3期事業として都市計画道路岡崎東塚線（幅員100m）の中央部に幅約50m（面積約8.6ha）を緩衝緑地として、昭和61年度末完成し、供用している。

(3) 公害防止協定（環境保全協定）の締結状況

昭和46年11月29日に川崎製鉄（現：JFEスチール）及びその関連企業との間に締結したのを始め、順次主要工場と締結してきたが、その内訳は次のとおりである。

公害防止協定（環境保全協定）締結企業一覧表（印は県、市及び企業、その他は市及び企業との締結）

締結年月日	協定の相手方	締結年月日	協定の相手方
昭和46.11.29	JFEスチール(株) JFEケミカル(株)	昭和48.12.1	日本曹達(株)
" "	瀬戸内共同火力(株)	" "	ダイソー(株)
" 46.12.20	水島アロマ(株)	" "	オーシカケミテック(株)

昭和47. 5.30	(株)ジャパンエナジー	昭和48.12. 1	関 東 電 化 工 業 (株)
" "	新日本石油精製(株)	" "	岡 山 化 成(株)
" 47. 6. 6	(株)サノヤス・ヒシノ明昌	" "	ユ タ カ ケ ミ カ ル(株)
" "	荒川化学工業(株)	" 52. 3.31	(財)岡山県環境保全事業団
" 47. 9.16	中 国 電 力(株)	" 57.11. 6	日 本 合 成 化 学 工 業 (株)
" 47.11.10	J F E 鋼 板 (株)	" 62.11.12	星 光 P M C(株)
昭和47.11.10	J F E 炉 材 (株)	" "	(株)ト ウ ペ
" "	住友重機械工業(株)	" 63. 3.11	日 本 食 品 化 工(株)
" 47.11.29	東 京 製 鐵(株)	" 63. 8. 6	三 國 製 薬 工 業(株)
" 48. 7.19	三菱自動車工業(株)	平成元. 5.22	日 本 農 産 工 業(株)
" "	ペトロコークス(株)	" 元. 6.20	西 日 本 飼 料(株)
" "	水島合金鉄(株)	" 9. 5.16	(財)岡山県環境保全事業団
" "	日清オイリオグループ(株)	" 10. 1.13	萩 原 工 業(株)
" "	太平洋セメント(株)	" 10. 3.19	(株)カ ン ガ イ
" 48. 8. 7	三菱化学(株) (株)ダイヤモンド 菱陽ケミカル(株) 日本イソブチレン(有) 三菱樹脂(株) (株)ダイヤ分析センター	" 13.10. 1	(株)水島ゴルフリンクス
		" 13.12.19	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構
		" 14. 7.25	水島エルエヌジー(株)
		" 15. 3.14	水島エコワークス(株)
" "	旭化成ケミカルズ(株) 旭化成エポキシ(株) 山陽石油化学(株) P S ジャパン(株)	" 16. 3.18	中 部 飼 料 (株)
		" 16. 9.13	(株)サンモーターズ
		" 16.12. 1	ナカシマプロペラ(株)
		" 17. 3. 31	(株)ヒラキン
" 48.10. 1	三菱ガス化学(株)	" 18. 3. 23	(株)ロジコム
" "	エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカル(株)	" 19. 1. 5	山陽鉄工(株)
" 48.12. 1	(株)ク ラ レ	" 19. 2. 16	環境開発事業協同組合
" "	日本ゼオン(株)	" 19. 3. 19	(株)ケナテックス
" "	山陽モノマー(株)	" 19. 3. 30	瀬戸内パイプライン(株)
" "	岡山ブタジエン(株)		

7 防 災 対 策

(1) 現 況

水島臨海工業地帯には、石油精製・石油化学・鉄鋼・自動車・造船等の各種の企業が林立しており、当該地域へ設置されている施設は特定法（主に消防法，高压ガス保安法及び労働安全衛生法）の規程に基づき保安管理がなされている。

また，コンビナート災害の特殊性から，石油コンビナート等災害防止法に基づき，県では昭和51年度にコンビナート防災関係機関の代表者により構成される「岡山県石油コンビナート等防災本部」を設置し，更に「岡山県石油コンビナート等防災計画」を策定することにより，以来，同計画に基づき，行政機関と関係事業所等が一体となって，災害の未然防止と拡大防止を基本としたコンビナート総合防災対策を推進している。

〔平成19年4月1日現在の危険物・高压ガス施設等の概況〕

- ・危険物 石油の貯蔵取扱量 996万k ，屋外タンク貯蔵所の基数 1,444基
- ・高压ガス施設 高压ガスの総処理量141,248万Nm³/年，高压ガス貯槽の基数 168基

〔特別防災地区・特定事業所の概況〕

- ・特別防災地区 石油コンビナート等災害防止法に基づき水島臨海地区の2,561万㎡が指定
- ・特定事業所数 第1種14，第2種11

(2) 主な防災機関の活動状況

< 水島地区石油コンビナート総合防災訓練の様子 >

主な防災関係機関の活動状況は，次のとおりである。

ア 行政機関

岡山県石油コンビナート等防災本部

（構成）本部長 知事

本部長 37名，幹事 56名，専門員 3名

（活動内容）

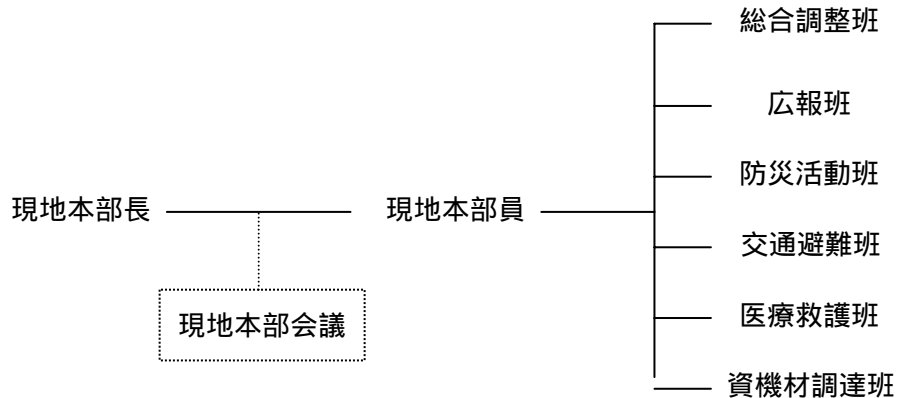
昭和52年3月25日付けで策定した「岡山県石油コンビナート等防災計画」に基づき，予防対策等

推進指導，防災に関する調査研究，情報の収集，伝達を行っている。また，災害等に備えて防災訓練等を実施するとともに，毎年防災計画の見直し修正を行っている。更に，防災上重要な事項に関しては，防災本部に設置している災害対策部会（次表）において，対策を検討している。



部 会 名	部 会 長 機 関 名
火 災 ・ 爆 発 対 策 部 会	倉 敷 市 消 防 局
有 害 ガ ス 対 策 部 会	岡 山 県 生 活 環 境 部
流 出 油 対 策 部 会	水 島 海 上 保 安 部
交 通 避 難 対 策 部 会	岡 山 県 警 察 本 部
救 急 医 療 対 策 部 会	日 本 赤 十 字 社 岡 山 県 支 部

また、災害時には、災害現地の近くに「岡山県石油コンビナート等現地防災本部」を設置し、防災関係機関が相互に連絡し、有機的な連携を保ちながら緊急に統一的応急対策を実施することとしている。組織は次表のとおりであり、現地防災本部長及び各班長は災害の態様等に応じて、その都度指名される。



岡山県

石油コンビナート等災害防止法に基づく防災本部の運営と高圧ガス保安法に基づく高圧ガス施設の保安指導等を通じて、各種災害防止対策等を推進している。

倉敷市消防局

コンビナートの保安防災に関する市長の諮問機関として設置された「倉敷市コンビナート防災審議会」（学識経験者5名で構成）を活用するなどして、地元行政機関としてのコンビナート防災全般に関する指導的役割を果たしている。

また、石油コンビナート等災害防止法に基づく防災施設等の整備と消防法に基づく危険物施設の保安、指導等を通じて各種災害防止対策を推進するとともに、一旦災害が発生した場合には、消防力を結集して鎮圧、防御にあっている。

更に、施設の新増設に際しては、主要企業31社との間に締結した災害防止協定に基づく事前協議により、総合的な防災体制の強化を指導している。

水島海上保安部

「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律」等に基づき、防災資機材等の整備充実を図るとともに、海上防災の中心機関として、関係防災機関、関係事業所等の指導的役割を果たし、海上災害の未然防止と応急対策の強化推進に努めている。また、同部が中心となり、海上関係防災行政機関と関係団体による「水島地区排出油等防除協議会」を組織し、海上防災訓練の実施など平常時から緊密な連携を図るとともに、災害発生時には総合調整本部を設け、防除活動を実施する。

更に昭和52年3月20日には「海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律」に基づき「瀬戸内海東部海域排出油防除計画」を策定し、被害想定に基づいた広域海面における排出油防除計画を樹立し、その推進にあっている。

[水島地区排出油等防除協議会]

設置年月 昭和49年 8月

構成 水島海上保安部，県，県警，倉敷市等行政機関（24機関）
水島港湾災害対策協議会（約60社）及び県漁連

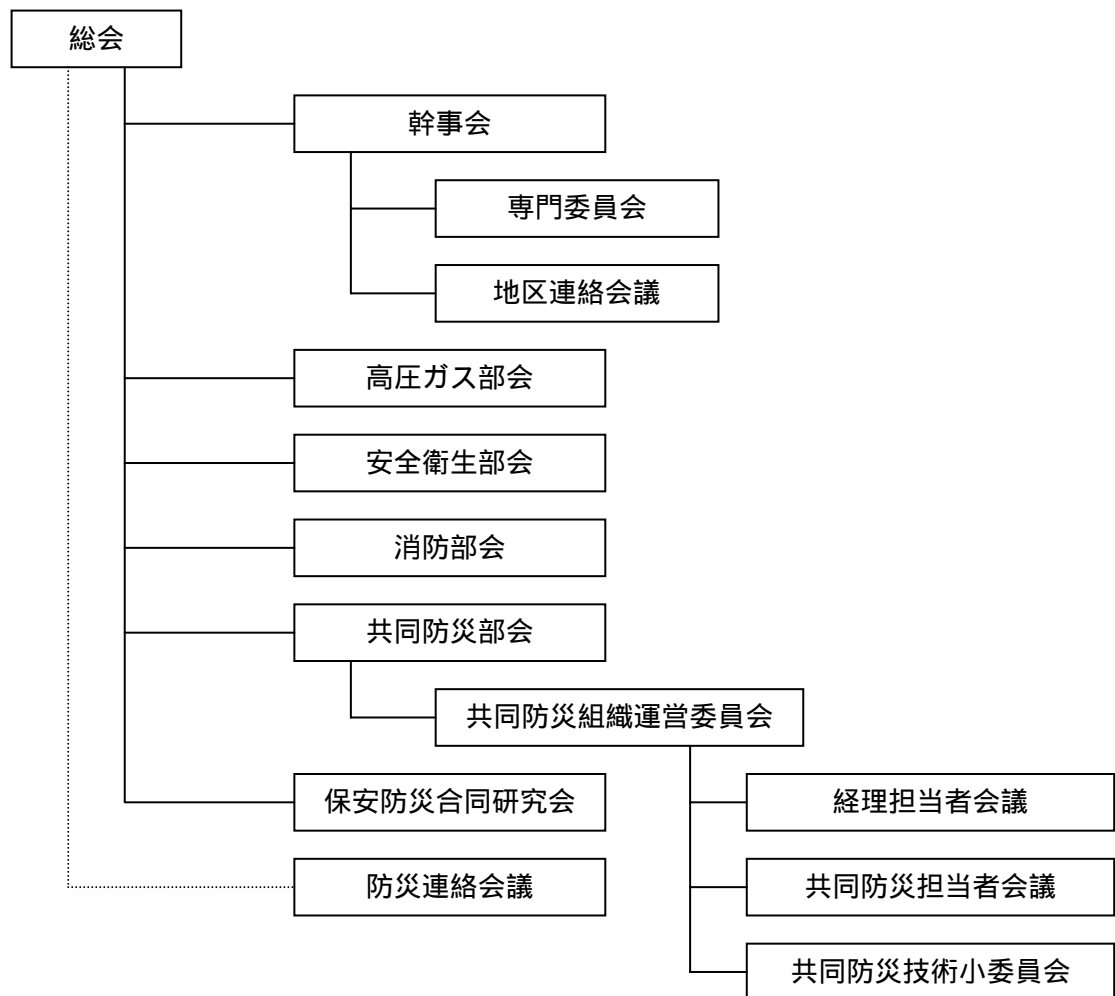
イ 企 業

水島コンビナート地区保安防災協議会

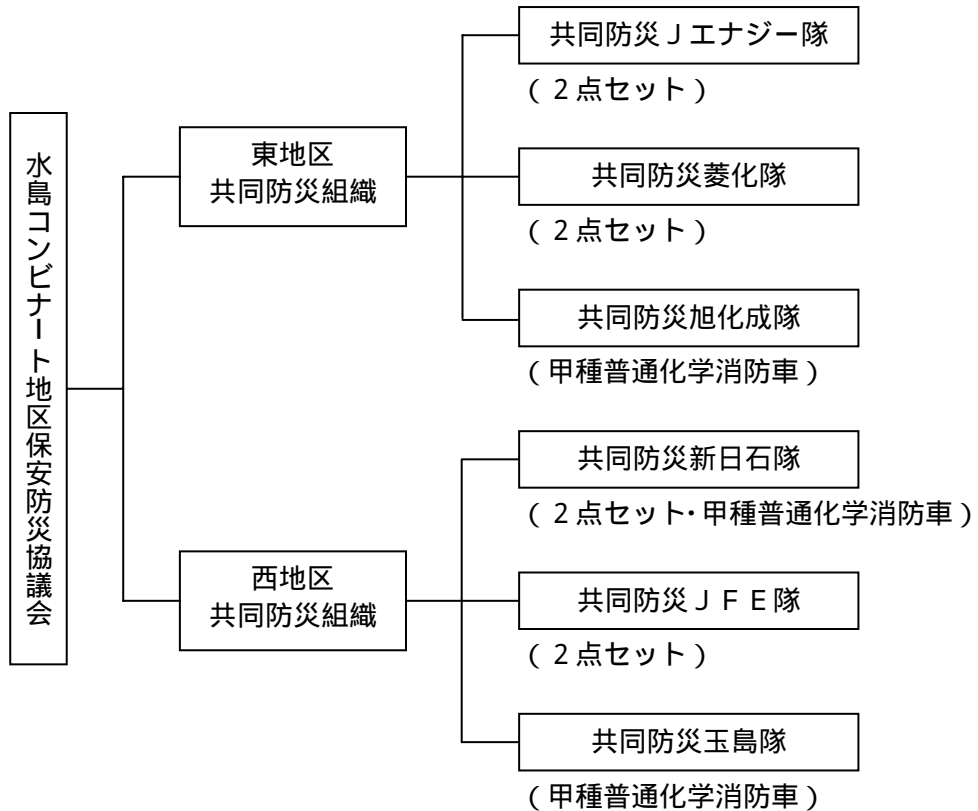
水島コンビナート関連の主要事業所（27事業所）で構成される自主保安団体であり，関係行政機関との緊密な連携のもとに，水島コンビナート地区の保安防災に関して協議・連絡・研究等を行い，災害の未然防止を図るとともに，共同防災組織の円滑な運営を行っている。

また，万一災害が発生した場合には防災活動に協力し，コンビナート地区の安全を確保する。

水島コンビナート地区保安防災協議会体制図（会議体）



水島コンビナート地区共同防災組織図



水島港湾災害対策協議会

水島港湾関係事業所約60社で構成される自主保安団体で、関係行政機関（10機関）の指導の下に、水島港及び周辺海域における船舶火災並びに海上流出油等の大規模な災害予防対策を推進している。また、万一の災害発生時においては、関係機関と密接な連係を保ちながら有効な防災対策を実施する。

(3) 災害予防対策

ア 基本方針

コンビナート災害は態様が複雑であり、その規模も広範囲におよび地域住民の社会生活に重大な影響を与えることが考えられる。

したがって、災害の未然防止と被害の局限化を図ることを重点に次の基本方針に沿って、防災関係機関は相互に連携を密にして総合的な防災対策を推進している。

災害の発生及び拡大の防止の第1次的責任は関係事業所が有する。

災害防御の主眼は、住民の安全対策を優先的に行う。

イ 予防対策の強化

事故発生 of 潜在的な要因の摘出と改善措置の積極的な推進を図るため、次の事項を実施している。

- ・ 事件事例（原因）の徹底究明と再発防止対策の推進
- ・ 自己責任の原則に基づく事業所の自主保安体制の強化指導
- ・ 関係行政機関による合同査察の実施

ウ 防災体制の充実

災害発生時において「岡山県石油コンビナート等防災計画」に定めるところに従って各防災関係機関が相互に効果的な機能を発揮できるよう体制の充実を図るため、主に次の事項を実施している。

石油コンビナート等防災本部の運営

- ・各対策部会活動の推進
- ・岡山県石油コンビナート等防災計画の整備

コンビナート防災体制整備指導

- ・関係事業所の防災体制等の整備指導
- ・総合防災訓練の実施
- ・コンビナート事故関係調査報告
- ・防災関係資料の整備

エ 防災資機材の整備運用

コンビナート災害用防災資機材は防災関係機関においてそれぞれ整備増強が図られている。特に特定事業所における防災資機材は、共同防災組織による共同防災資機材の他自衛防災資機材の整備が図られている。

〔特定事業所の自衛防災資機材等の概況〕

- ・防災要員 164人
- ・消防用車両 大型化学消防車1台、大型高所放水車1台、泡原液搬送車2台、甲種普通化学消防車11台、普通消防車5台
- ・消火薬剤 泡消火薬剤249kg(3%換算)、粉末消火薬剤3,910kg
- ・オイルレス A型1,240m、B型19,610m

オ 水島コンビナート事故防止対策会議の開催

水島コンビナートでは、近年事故が増加傾向にあったことから、平成18年4月に関係行政機関や企業で組織する「水島コンビナート事故防止対策会議」を設立した。本会議に置いて、事業所が取り組むべき緊急会議を決めるとともに、各事業所の具体的な取組状況の確認と検証を行うことにより、事故防止の徹底を図っている。

〔会議の開催状況 6回(平成18年4月、7月、11月、平成19年3月、7月、12月)〕

〔事故件数の推移(特定事業所)〕

年	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
件数	0	1	3	11	1	4	4	1	1	14	11	9	8	13	8

8 企業の現状及び計画

以下は、水島臨海工業地帯に立地する企業に対して各社の現状及び計画（平成19年8月1日現在）について照会し、回答があったものについて原文のまま掲載したものである。

1. 株式会社アキオカ

倉敷市玉島乙島8252 - 35 TEL (086) 522 - 7686

<http://www.akioka1966.co.jp/pc/index.html>

当社は、昭和41年10月に設立した会社で、ダクタイル鋳鉄、片状黒鉛鋳鉄、低合金、高合金鋳鉄等で、幅広い分野に鋳物素材を供給している。

主な製造品は建設機械、特殊車両、油圧機器、バルブ等の各部品また、ギヤメタル、高圧シリンダー、ギヤケース、ホイストクレーン車両等多種多様で、取引先も県内はもとより九州から東北まで全国各地に散在している。

設備としては、電気炉4基、生型造型ライン（中・大物1ライン、小物2ライン）、大物用自硬性（フラン）設備・造芯機、生型砂処理設備、仕上げ機（ショットブラスト、グラインダ）等である。

品質管理においては、日々材料・材質の検査・研究を行っている。

操業以来、常に高品質の製品作りを目指し続けた豊富な経験と実績をベースに、21世紀に向かって新しい製品と更なる技術の開発に努め、新しい飛躍に備え、世界の幅広い産業に貢献し、変動する内外の情勢に対処して、我社の技術に誇りを持って可能性の限り、一段と精進努力している企業である。

2. 旭化成エポキシ株式会社 水島工場

倉敷市潮通3丁目13番地 TEL (086) 458 - 2288

当社は、旭化成ケミカルズ（株）の100%出資会社で、水島工場において、液状、固形、その他の基本エポキシ樹脂並びに高機能樹脂を生産しており、品質保証の国際規格ISO9001（2000年版）の審査登録を受けています。また、環境保全及び災害防止対策についても、旭化成ケミカルズ（株）水島製造所グループの一員として積極的に推進し、平成10年3月に環境マネジメントシステムISO14001を旭化成ケミカルズ（株）水島製造所の構内関連企業として審査登録を受けています。

【沿革】 昭和41年6月 旭チバ（株）設立（合併）
昭和42年8月 水島工場操業開始
平成12年6月1日 旭化成エポキシ（株）に社名変更

3. 旭化成ケミカルズ株式会社 水島製造所

倉敷市潮通3丁目13番地 TEL (086) 458 - 2007 <http://www.asahi-kasei.co.jp/>

当製造所は、旭化成の石油化学部門の主力として水島地区に建設されたもので、昭和39年水島地区に建設を開始し、昭和40年にスチレンモノマー及びその誘導品工場が稼働したのを皮切りにその後順次各工場が建設され、順調に稼働している。最近では、平成16年に新スチレンモノマープラント、平成18年

にはオメガプロセスを立ち上げた。

現在、コンビナートの中核であるエチレンセンター（山陽石油化学(株)）を含め、水島B・C両地区に水島旭化成グループの石油化学コンビナートを形成している。

主な製品としては、アクリロニトリル、アンモニア、スチレンモノマー、ポリエチレン、ポリスチレン、ポリアセタール、ABS樹脂、SBRラテックス、シクロヘキサノール等を生産している。

また、化学技術研究所を設置して、各種の研究開発にも取り組んでいる。環境及び保安について、当社グループ（旭化成ケミカルズ(株)水島製造所、旭化成エポキシ(株)水島工場、山陽石油化学(株)水島工場、PSジャパン(株)水島工場）は、一体となって対処しており、各種法令の基準を遵守することはもとより、岡山県、倉敷市と公害防止協定を、倉敷市と災害防止協定を締結し、更に、自主的対策を含めて公害の未然防止、災害防止に積極的に取り組んでいる。大気汚染防止対策としては、低硫黄燃料の使用、電気集塵装置の採用、排煙脱硫装置の設置を、水質汚濁防止対策としては、各プラントにおける一次処理、活性汚泥装置による集合二次処理等を、また、騒音防止対策としては、各種防音装置を設置するなどの対策を実施しており、更に緑化の推進、管理体制の強化など積極的に推し進めている。

4. 荒川化学工業株式会社 水島工場

倉敷市松江4丁目1-1 TEL (086) 455-7611 <http://www.arakawachem.co.jp/>

当社は、明治9年創業以来、独自の技術によって「ネーバルストアーズ」（松脂化学）と呼ばれる化学分野を開拓し、その製品を製紙、塗料、印刷インキ、合成ゴム、建材、粘着剤等の幅広い業界に提供してきた。そして近年はこれを基盤として新たに石油化学、高分子化学の分野に進出している。

水島工場は、昭和44年にB地区に74,000㎡（22,400坪）の用地を得て、合成ゴム重合用乳化剤（ロンヂス）製造工場と粘着剤用樹脂（アルコン）製造工場を建設し、それぞれ昭和45年6月及び10月に操業を開始した。

次いで製紙用紙力増強剤（ポリストロン）製造工場を昭和47年7月に、繊維用糊剤（タマノリ）、製紙用表面処理剤（ポリマロン）製造工場を昭和54年10月に操業開始した。

昭和60年3月にはアルコン製造工場の一列増設（5,000t/年）が完成した。これにより、現在はロンヂス18,000t/年、アルコン14,000t/年、ポリストロン・ポリマロン等水溶性高分子樹脂36,000t/年の設備を保有する。また、品質保証の国際規格であるISO9002を当社の他工場に先駆け平成7年2月17日付けにて認証取得した。その後平成14年3月15日付けにてISO9001(2000年版)に移行した。

工場の公害防止設備は、昭和47年6月6日、倉敷市との間で締結した公害防止協定に基づき万全を期している。また、環境に係わる国際規格ISO14001を平成11年3月12日付けで認証取得し、環境に優しい工場をめざし生産活動を行っている。

5. 岩谷瓦斯株式会社 水島工場

倉敷市松江4-4-1 TEL (086) 455-6633 <http://www.iwatanigas.co.jp/>

当工場は、昭和44年5月に大阪水素工業(株)水島工場として関東電化工業(株)水島工場から原料水素ガスの供給を受け、高品質圧縮水素ガスの製造工場として操業を開始しました。

昭和60年12月には、岩谷産業(株)のグループ会社である3社(大阪水素工業(株)・富士瓦斯工業(株)・岩谷ガス工業(株))が対等合併し岩谷瓦斯(株)に社名変更いたし、総合ガスメーカーとして第二の操業を開始しました。

当工場は、圧縮水素ガス製造工場として創業時より一貫し、高品質でクリーンな圧縮水素ガスをあらゆる産業分野へ安定供給いたしています。

現状の生産能力は9百万m³/年であり、1 m³の小容器から3000m³の長尺集結容器までの充てん設備を保有しています。

将来計画として、水素燃料電池自動車への水素充てん施設の建設を検討いたしています。

平成14年10月にはISO9001を認証取得し、「常に顧客の期待と信頼にこたえる製品の追求」を掲げ、邁進しています。

6. エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカル株式会社 水島工場

倉敷市水島海岸通3丁目10番地 TEL (086) 446 - 3806 <http://www.agic.co.jp/>

当社は、昭和43年三菱ガス化学(株)とアメリカのAmoco社(現BP社)との提携による合弁会社として設立された国内唯一のイソフタル酸メーカーである。現在、平成15年12月より三菱ガス化学(株)の連結子会社となっている。

昭和44年6月、三菱ガス化学(株)の混合キシレン分離異性化装置の隣接地にイソフタル酸装置を完成し、我国初めてのイソフタル酸メーカーとして第一歩を踏み出した。

拡大する需要と市場のニーズに応えるため、水素添加精製装置を導入し、かつ生産能力を増強するための設備改造を平成8年3月に実施し、新グレードの高純度イソフタル酸系であるPIAを生産している。さらに、市場の旺盛な需要に対応するため、平成11年2月末に新装置を完成し、現在、2装置による生産を行っている。

また、環境保全及び防災対策については、オフガスの触媒燃焼設備、汚泥燃焼設備等の公害防止設備を有し、三菱ガス化学(株)の組織のなかで一体となって環境保全及び防災活動を行っている。

イソフタル酸(PIA)は高純度メタキシレンを酸化して製造される芳香族ジカルボン酸で白色粉末状の結晶であり、イソフタル酸系不飽和ポリエステル樹脂(バスタブ、化粧洗面台、パイプ、ボート、ケミカルタンク、電気部品、自動車部品用途等)、イソフタル酸系アルキッド樹脂(塗料、印刷インキ用途等)、ペットボトルやポリエステル繊維の改質剤及びその他高分子化合物の原料として日常生活に密着した幅広い分野で使用されている。

・本社：東京都港区西新橋1丁目1番3号 東京桜田ビル (03) 3503 - 4811

・資本金：8億5千万円

・工場：倉敷市水島海岸通3丁目10番地 (086) 446 - 3806

高純度イソフタル酸(PIA) 50,000 t / 年(稼働中)

高純度イソフタル酸(PIA) 70,000 t / 年(稼働中)

7. オーシカケミテック株式会社 水島工場

倉敷市水島海岸通3丁目9番地の1 TEL (086) 444 - 5148

<http://www.oshika.co.jp/kaisya/kannren.html>

当工場は〔旧名 水島化学振興(株)〕は工業用接着剤及び建材の総合商社である大鹿新興(株)〔現社名(株)オーシカ〕の西地区の接着剤製造拠点として昭和39年10月に設立され、昭和40年2月にユリア、メラミン樹脂接着剤を製造し操業を開始した。

その後フェノール樹脂接着剤、レゾルシノール樹脂接着剤等順次製造品種を増加、月産約3,000tの生産能力を有し、高品質な製品の安定供給に努め、建築・建設分野に幅広く貢献している。

平成13年4月にグループ会社である草加化学振興(株)、ペニヤグラー(株)と合併し、オーシカケミテック(株)水島工業として現在に至る。

平成15年5月にISO9001の認証を取得、又同年9月にはJIS表示工場に認定され品質管理体制は磐石である。

又、環境保全及び防災対策としては倉敷市との間で締結した郊外防止協定等に基づき万全を期している。

8. 岡山化成株式会社 水島工場

倉敷市児島塩生2767番29 TEL (086) 475 - 0136

<http://www.okayamakasei.co.jp>

当社は、旭化成ケミカル(株)とダイソー(株)の両社の折半共同出資により、昭和43年12月20日に設立された食塩電解工場で、水島地区における石油化学コンビナートの各工場に、主として、塩素を供給することを目的としている。倉敷市児島塩生C地区で昭和45年8月から操業を開始し、現在、電解能力は苛性ソーダ 17万t/年 塩素15万t/年である。

製品の塩素は、塩ビモノマー、アリルクロライド、エピクロルヒドリンなどの原料として全量コンビナート内で使用されている。苛性ソーダも一部はコンビナート内で使用され、残りは主として海上輸送により出荷している。

公害防止対策については、工場建設時点から、地元県及び市と協定し、無公害で無事故の工場を目標に、安定した操業を続けてきた。更に、昭和61年4月から電解設備を、最新式のイオン交換膜法に製法転換し、環境保全に万全を期している。

9. 岡山ブタジエン株式会社 水島工場

倉敷市児島塩生新浜2767番1 TEL (086) 475 - 0032

当社は、日本ゼオン(株)と旭化成(株)の共同出資(各50%)によって昭和45年2月に設立され、合成ゴムの原料であるブタジエンを製造し、日本ゼオン(株)及び旭化成(株)に供給している。製造技術は、日本ゼオン(株)の自社技術であるGPB法を採用しているが、同法は既存の製造法に比べコストが安く、純度が高い画期的なものであり、海外からも注目を集め、多くの技術供与を行っている。

10. 株式会社オクダソカベ 岡山臨海工場

倉敷市玉島乙島新湊8255 - 18 TEL (086) 525 - 6511 <http://www.kansai.ne.jp/oskosaka/>

当社は、原子力発電設備をはじめ、石油、電気、ガス、鉄鋼、水道などあらゆる配管設備の安全装置であるペローズ式伸縮管継手の製造メーカーであり、その形状は年々複雑化し、大径化し、重量物化して現在の大阪工場、奈良工場では、内陸部にあることからユーザーのニーズに応えることが困難となり、製品を直接船積みできうる玉島乙島地区に工場を新築した。

平成6年4月に操業開始し、平成10年4月に第2工場を増築、更なるコストダウンを図るため、自社にて独自の技術を用い、最新の設備を据付した。平成7年7月には中四国営業所を、平成12年1月には岡山技術部を同事業所内に設け、設計～製造～販売までの一連の業務に対応できる体制作りを行った。

阪神・淡路大震災では、当社製品が絶大なる性能を発揮し、ユーザーの方々に好評を得た。最近では、明石大橋の水管橋や那覇港の海底道路（沈埋函方式）の継手部などに当社製品が採用されている。

11. 小田象製粉株式会社

倉敷市児島塩生2767番地の68 TEL (086) 475 - 2211

<http://www.optic.or.jp/com/odazou/odazou.html>

当社は、小麦粉、ミックス粉、ふすま等を製造販売する製粉メーカーで、昭和23年創業、精米製粉の政府委託工場としてスタートし、その後、製粉一筋50年を経過している。昭和62年5月、岡山市妹尾から現在地に移転、155t/日の生産能力を有する新工場（7,700m²）を操業し、豊かで健康な食生活に貢献している。

当社の製品である小麦粉は、それぞれの用途により二次加工業者（製パン、製菓、乾麺、生麺等）を通じ、岡山県を中心に消費されており、形を変えて各家庭や外食施設の食卓にのぼっている。

また、常にユーザーのニーズを最優先して考え、安心して使用できるよう、小麦粉の一般生菌数の大幅減少にも成功した他、多様化する食生活の充実に向けて、権威ある先生方を顧問に迎え、当社研究開発部のスタッフとともに日夜、新製品の開発に取り組んでいる。その中からは、既に業界の注目を集める商品を完成したこのベースミックスパウダーは、健康を基本に天然素材の力を活用し、各種必須ミネラルを身体に吸収されやすいバランスで配合された“美しい自然派”の商品として、全国の製パン業者に幅広く販売している。

新工場の生産設備については、更に近代化、合理化を追求し、最新のコンピュータシステムを採用し原料から製品に至るすべての工程で管理しており、また、工場内は土足厳禁としている。環境保全については、周辺に多くの緑を配し、社員を始め来客に自然と憩いを与えるよう配慮し、働きやすい職場づくりに心掛けている。

また、品質管理面においては、当社製品を安心して購入していただく企業の品質システムを確認する方法として、平成14年8月26日、ISO9001の更新認定を国際標準化機構より受けている。

12. 関東電化工業株式会社 水島工場

倉敷市松江4丁目4番8号 TEL (086) 455 - 5231 <http://www.kantodenka.co.jp/>

当社は、苛性ソーダを中心とした化学工業薬品を製造する会社で、昭和13年に群馬県渋川市に設立され、以来基礎化学品メーカーとしてたゆまぬ技術革新と豊富な経験により、苛性ソーダ、塩素、水素を利用した数々の製品を創造してきました。また、近年における社会の目覚ましい変革に対応し、電子、情報産業分野はもちろん、医薬中間体分野へもさらに果敢に挑戦し、製品ラインアップの拡充を進めております。

当水島工場は、昭和40年3月に事業拡大発展に伴い、立地条件の優れた水島へ進出を計画、三菱グループ石油コンビナートへ参加し、三菱化学(株)からエチレン等の供給を受け操業を開始しました。

基礎化学品部門として、苛性ソーダ(73,560 t / 年)、塩素系有機溶剤、シクロヘキサン等の製造設備を保有し、平成18年9月にはフレーク苛性ソーダ新設備を稼働させ生産能力の増強と共に、生産効率の改善に取り組んでおります。また近年、精密化学品部門にも注力しており、リチウムイオン二次電池用の電解質の六フッ化リン酸リチウム(LiPF₆)や光ファイバーなどに使われる四フッ化ケイ素(SiF₄)、半導体用クリーニングガスの三フッ化塩素(CIF₃)等の製造設備を稼働させております。

安全衛生活動の取り組みとして、平成18年1月10日に中央労働災害防止協会によるJISHA方式適格OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)の適格認定事業場の認定を受け、工場に於ける労働災害の潜在的な危険因子を取り除き、労働災害の防止、安全衛生水準の向上を図っております。

公害防止対策としては、特に排ガス処理及び排水処理に万全を期するとともに、倉敷市との間に公害防止協定を締結しております。また、平成11年にはISO14001の認定を取得し、地球温暖化防止と共に公害防止にも積極的に取り組んでおります。

一方、研究開発部門では情報産業分野の急速な発展に対応した技術開発を着々と確立し、イノベーション時代への意欲的な発展を目指しています。

今後、高度化、多様化、複雑化する業界のニーズに妥協のない技術開発力で応えることは、メーカーとしての使命であり、既存の技術に満足することなく、そのベクトルを化学の未来に向けています。

13. 株式会社共和工業所

倉敷市松江4-2-3 TEL (086) 455-6578 <http://www.kyowa-gr.co.jp/>

当社は、昭和30年の操業以来、KYOWAグループの中核企業として、グループの一貫生産体制を効率よく管理し、自動車関連企業をはじめとする各種製造業における工場生産ラインの合理化、省力化の企画立案はもとより、各種産業機械器具の設計製作、据付に関するサプライヤーとして、産業界の幅広いニーズにお応えしています。

さらには、当社独自のアイデアにより特許を取得した“床下収納システム”等、創造力と技術力を結集し、自社商品の開発、販売にも力を注いでいます。

14. 倉敷ボーリング機工株式会社

倉敷市松江2-4-20 TEL (086) 456-3877 <http://www.kbknet.co.jp/>

我社は、溶射技術及び精密機械加工技術を活かし、水島石油化学コンビナート全社の指定保全工場として40年来研鑽を積んできました。さらに、近隣の製鉄・印刷・製紙工場においても、溶射による表面処理は予防保全の一端を担っています。1999年度以降、岡山県知事から経営革新計画の承認を受け、大型製紙機械用ロール向け表面処理法として、セラミック溶射技術を確立しました。

鴨方町に世界最大規模の巨大製紙機械ロール専用工場を新設し、日本全国はもちろん近隣諸国に製品を出荷しています。この分野では世界一の技術と実績を有し、現在、アジア及び欧米マーケットに拡販中です。

- 【沿革】
- | | |
|---------|---|
| 1957.11 | エンジンの精密機械加工を目的に設立 |
| 1963.8 | 水島石油化学コンビナート全社の指定修理業者となり、高速回転機器（モーター・ポンプ・タービン・遠心分離機）に溶射技術を応用したメンテナンス業務を開始 |
| 1979.11 | 水島地区に新工場を建設し、移転 |
| 1988.10 | 第2工場新設 |
| 1988.11 | 第3工場新設 |
| 1993.4 | 本社事務所、本社工場新設 |
| 1995.12 | 三菱重工業（株）三原製作所の溶射認定工場となる。 |
| 1997.3 | 米Coldwater社と業務提携後、製紙機械用樹脂ロール販売 |
| 1999.11 | 岡山県知事より経営革新計画を承認 |
| 2000.2 | 鴨方町に製紙機械専用大型溶射工場（鴨方第2工場）新設 |
| 2002.9 | 第3工場増設 |
| 2004.3 | 鴨方町に中央研究所移転 |
| 2004.9 | 溶射及び仕上げ加工による抄紙機ロールが「岡山・わが社の技」に認定 |
| 2005.1 | ISO9001:2000取得 |
| 2005.5 | エンジニアリング事業部（中畝工場）設立 |
| 2005.7 | 岡山県知事より経営革新計画を承認 |
| 2006.2 | 鴨方第3工場新設 |
| 2006.5 | セラミック溶射技術を活かした抄紙機ロールが第34回佐々木賞を受賞 |

15. 株式会社クラレ 倉敷事業所・クラレ玉島株式会社・クラレメディカル株式会社

倉敷市玉島乙島7471 TEL (086) 526-5111 <http://www.kuraray.co.jp/>

当社は、地元倉敷市で誕生し、同市に本店を置いています。

倉敷事業所は、高分子化学、合成化学の分野で築いた独自の技術基盤をベースにした研究開発活動により、化成品、繊維、環境関連高機能工業膜、メディカル製品等、日々の暮らしに関わりの深い多彩な素材や製品を生産しています。会社創立以来81年の歴史を通じて常に限りない創造・開拓者精神を燃やして、その時代、その社会に何をなすうるかを問い続けてきました。

倉敷事業所では新事業創出を目指したTR (Tamashima Renaissance) Projectによる事業再編が完了し、今後クラレの中核事業所、開発拠点として、地球環境や社会に配慮した事業を更に拡大してまいります。

クラレグループは、2006年から3カ年計画ではGrowth, Green, Globalization, Group, Sustainabilityをキーワードとして、“世のため人のため、他人(ひと)のやれないことをやる”という10年企業ビジョンの下、社会に対する企業ミッションを果たしていきます。

企業ミッション

「私たちクラレグループは、独創性の高い技術で産業の新領域を開拓し、自然環境と生活環境の向上に寄与します。」

(沿革)

- 昭和31年 3月 玉島レーヨン(株)として設立
- 同 年 11月 レーヨン系の生産を開始
- 昭和39年 4月 ポリエステル繊維の生産を開始
- 同 年 10月 (株)クラレ玉島工場となる
- 平成10年 7月 サーマルリサイクル設備稼働
- 平成12年12月 ISO14001認証取得
- 平成13年 3月 レーヨン事業撤収
- 同 年 4月 同市にある倉敷工場(メディカル製品生産、研究開発等)と統合し、倉敷事業所(玉島)となる
- 平成17年 4月 光学用ポパールフィルムの生産を開始
- 平成18年12月 事業再編により倉敷事業所(新倉敷)に改称
- 平成19年 4月 事業再編の完了により倉敷事業所と改称
- 平成19年 5月 生産・技術開発センター竣工

(概要)

- 資本金890億円(平成19年3月末 現在)
- 事業所敷地面積410,000m²(福利施設等を含む)
- 事業所従業員数700人(平成19年3月末)

(主要製品)

- 光学用ポパールフィルム：パソコンをはじめ携帯情報端末、テレビなど各種家電製品、ナビゲーションシステム等、日常生活の情報伝達に不可欠となった液晶ディスプレイ(LCD)偏光板の重要素材として世界中で使用されています。
- ポリエステル繊維：原糸、原綿あるいは織・編物のかたちで国内外に輸出され、加工メーカーや二次製品メーカーの手によって各種の衣料品、インテリア、寝装品、不織布製品、産業資材等に使用されています。
- 工業膜：液体(水、油等)と固体(微粒子)とを篩い分ける中空糸膜の特徴を生かし、飲料水のろ過装置や超純水の製造などに使用されています。
- K膜・PS-HF：クラレメディカル(株)では体外循環治療用医療機器として人工透析用ダイヤライザー、血液浄化用医療機器及び関連製品の製造・販売をしています。

す。

(その他事業所の特徴)

倉敷事業所(新倉敷)及びクラレ玉島(株)では、特に環境保全対策に力を入れており平成10年7月より自社及び地域企業から発生する廃プラスチックを小さく砕いて燃料として利用可能にするサーマルリサイクル設備を稼動しています。できた燃料は石炭の代替品として最新鋭の循環流動層ボイラーで有効利用しています。このボイラーは850 以上で燃やすなどダイオキシン対策にも十分に配慮しており、平成16年12月からは、バイオマス燃料(建築系解体材料)も導入されています。

16. 株式会社サノヤス・ヒシノ明昌 水島製造所

倉敷市児島塩生2767番地21 TEL (086) 475 - 1551 <http://www.sanoyas.co.jp/>

当製造所は、大型船舶の建造・修理を目的として、昭和49年1月に操業を開始した当社の主力工場である。工場は287,011㎡の敷地に物の流れをスムーズにし、無駄のないコンパクトなレイアウトとなっている。ドッグは全長675mで、中間ゲートにより前後に2つに仕切られ効率的な建造を行っている。また、建造ステージに配置されている2基のゴライアスクレーンは240T吊から800T吊に更新し、更なる効率化を目指している。

新造船はバラ積船、油槽船、木材チップ運搬船等を得意とし、内外の多様化する顧客ニーズと信頼に responding している。

新しい時代に向かって新たな挑戦を始めた当社の主力工場として、品質面では国際規格ISO9001(2000年版)の認証のもと、ハイレベルの品質管理で製品を提供しつづけているとともに、環境にやさしい企業をめざしてISO14001認証を進めている。

17. 三恵重機械工業株式会社 倉敷工場

倉敷市玉島乙島7471 - 252 TEL (086) 526 - 2171 <http://www.sankei-juki.co.jp/>

当工場は、起重機メーカーで、大阪工場に次ぐ2番目の工場として建設され、当初は中野電機製作所岡山工場として発足したが、昭和43年11月11日、三恵重機械(株)倉敷工場に変更されたものである。

また、昭和57年1月1日に社名変更し、三恵重機械工業(株)倉敷工場となった。敷地面積14,161㎡、従業員8名で各種クレーンを昭和42年8月7日から生産している。大型クレーンの製造を中心とするため、昭和45年に40,000千円で第二工場を、また、昭和46年に大型橋型クレーンを13,000千円で設置している。昭和48年には新事務所を完成している。

現在、新規の計画はなく、当分の間は現状の設備で生産していく予定である。

18. 三東工業株式会社

倉敷市玉島乙島8252 - 41 TEL (086) 525-0310

当社は昭和26年1月に玉島断接鉄工所として発足し、操業を開始した。昭和42年11月現在の社名に変更し、钣金加工の量産化、また、高品質・低価格化を実現するため、NCタレットパンチプレス、NC

プレスブレーキ，レーザー加工機等を導入し，精密板金加工の充実を図っている。

また，平成元年，玉島乙島新湊に新湊工場を新設し，工作機のカバー，フレーム，印刷機ベッド等を生産してきたが，新湊工場増築に伴い，平成5年8月全面移転し，本社工場として作業環境，作業効率の改善に努めている。

19. サンヨー化成工業株式会社

倉敷市玉島乙島新湊8252-24 TEL(086)526-3311

当社は，昭和37年10月に山陽紡績(株)から合成樹脂化学部が独立し，本社を倉敷市玉島3丁目に置き創立した。昭和63年10月8日に本社及び工場を現在地に移転し，玩具，容器類，自動車部品，プリンター用品類等のプラスチック製造，販売を行っている。

20. 株式会社サンモーターズ 玉島工場

倉敷市玉島乙島字新湊8263-3 TEL(086)523-6370 <http://www.sunmotors-recycle.com/>

当社は，個人・法人から廃車車両を引き取り，自動車リサイクル法に対応して，解体・破碎処理を適正に行う自動車リサイクル業者です。

自動車リサイクル法第31条認定工場として，自動車メーカーとコンソウシアムを締結し，ARTチーム・T/Hチームの連携を密に，廃車車両すべての情報管理を行っております。フロン・エアバック処理2系列，マルチ解体機5台を装備し，月3,000台の廃車処理能力を有しています。廃タイヤカッター導入による燃料化，銅，アルミ，中古部品の選別による環境負荷の低減の実現を行っています。実績数として，平成17年6,000台，平成18年10,000台，平成19年8,000台処理してまいりました。

資源循環型社会構築と，低炭素社会の実現に欠かせない工場として，皆様に信頼される工場運営を行ってまいります。

21. 山陽石油化学株式会社 水島工場

倉敷市潮通3丁目13番地 TEL(086)458-2133

当社は，昭和43年7月に，旭化成(株)と(株)ジャパンエナジーとの共同出資により設立された会社で(平成13年5月より旭化成(株)全額出資)，事業内容は次のとおりである。

- ・ナフサの分解と分解製品の製造・販売
- ・ベンゼンの製造・販売

ベンゼンの製造設備は，昭和45年4月に操業を開始し，エチレンの製造設備は，昭和47年4月に操業を開始した。旭化成ケミカルズ(株)水島製造所の各誘導品にエチレン，プロピレン，ベンゼン等の基礎原料を安定供給している。

環境保全対策については，自社内で一次処理を行ったあと，二次処理として旭化成グループの活性汚泥装置を利用し，排水処理に万全を尽くしている。

また，災害防止対策についても旭化成グループの一員として積極的に推進している。

22. ジェイエイ西日本くみあい飼料株式会社 水島工場

倉敷市水島海岸通3丁目6番地2 TEL (086) 444 - 9171

当社は、岡山県経済農業協同組合連合会を筆頭株主として、昭和43年11月より、岡山くみあい飼料株式会社として家畜用配合飼料の製造工場として（年間約95,000 t）操業を開始、平成3年に近畿、中国地区の合併により西日本くみあい飼料株式会社に社名変更、本社を神戸市に置き2工場で近畿、中国地区11府県連に配合飼料及び単体飼料の供給を開始した。平成13年4月には統合府県連と全国農業協同組合連合会の事業移管によりジェイエイ西日本くみあい飼料株式会社に社名変更する。

水島工場は、水島港西埠頭に位置し、その立地をいかし、海外から輸入する主原料は本船が接岸できる営業サイロよりベルトコンベアーで直接工場に搬入、植物蛋白源は隣接する工場より搬入している。

年間261,000 tの配合飼料と、単体飼料15,000 tを製造部門は12名2交代で製造、設備改善による徹底した省力化及び品質管理によるコスト削減を行い、中国地区4県に営業所を通してユーザーに供給している。

国内の畜産情勢は飼料用穀物の高騰を受け厳しい状況が続いているが、消費者への食の安全、安心を確保するために、製造工場の果たす役割は重大であり畜産農家と消費者ニーズに答えるべく徹底した品質管理の下、経済的で効率の良い飼料の供給をめざし系統組織傘下の工場として努力、寄与している。

また、平成15年7月には、BSE対策として養牛用飼料専用工場をいち早く完成させ、今まで以上に安全性の追求を図った。これにより牛用と鶏・豚飼料は完全に分離された。

23. JFE 鋼板株式会社 玉島製造所

倉敷市玉島乙島8252 - 11 TEL (086) 526 - 2311 <http://www.jfe-kouhan.co.jp/>

当社は、大正2年6月に設立した東京亜鉛鍍金(株)が、昭和30年12月に川崎製鉄(株)（現：JFEスチール(株)）の資本系列下に入り、同40年10月に同業の三剛鉄板(株)と新日本鍍金(株)を吸収合併し、川鉄鋼板(株)に商号変更した。

昭和28年に我国最初の塗装鋼板「レヂノ鉄板」の製造販売を開始し、同35年12月に千葉工場、同40年12月に松戸工場、同47年2月に玉島工場を開設した。

以来、業容の拡大に努め、平成2年9月に株式会社店頭登録の承認を受けた。最近では、中国・九州等西地区にも力を注ぎ、また、各地方中心都市に営業所を新規開設するなど拡販に努めている。

玉島製造所は、当社が「亜鉛鉄板」「着色亜鉛鉄板」の製造工場として総力を結集して建設した世界に誇る製造所である。主要設備は、連続溶融亜鉛めっき設備1基（生産能力 21,000 t / 月）、連続カラー塗装設備 1 基（生産能力 9,600 t / 月）、ハイデッキライン設備で、近代的な設備と合理的な工場配置、コンピューターを生産ラインに組み込んだ管理システムと無公害設備が特徴で、燃料転換（石油系コークスガス化）、廃熱回収等の省エネ化を図っている。

建材用二次加工製品の生産にも力を入れ、ハイデッキ（床板）はトップシェアを占め、また「ガルバリウム鋼板」（高耐食性鋼板）の生産・販売も順調に伸びている。平成15年7月に川鉄ルーケテック(株)を統合し、金属屋根へ積極的に進出している。平成16年4月に川鉄鋼板(株)とエヌケーケ

一鋼板(株)が合併しJFE鋼板(株)が誕生した。それに伴い当所はJFE鋼板(株)玉島製造所と改称し、西日本における製造拠点となっている。

24. JFEコンテナ株式会社 水島工場

倉敷市水島西通1丁目1955番地 TEL(086)448-3737 <http://www.jfecon.jp/>

当社は、昭和36年4月に設立された川鉄コンテナ(株)と同年11月に設立の鋼管ドラム(株)が平成15年4月に合併し、JFEコンテナ(株)としてスタートをしました。

平成19年8月に伊丹工場を閉鎖し、西地区(水島・堺)東地区(千葉・川崎)の4工場、2営業所体制で業界のリーディングカンパニーとして、つねに時代の最前線を走りつづけています。

当水島工場は、敷地面積約34,000㎡、従業員51名体制で、伊丹工場閉鎖を機に、国内ドラム缶メーカーとして初めてとなる2直体制(8時間×2組・週休2日)の生産を実施し、製品保管倉庫の増設、化成処理設備の増強など品質向上対策等を図り、10月には月間19万1千本の生産となり、日本最高記録を達成しました。国際需要に応えるべく、平成7年10月にISO9002の認証取得、平成14年1月にはISO14001認証を取得し、技術革新と細心の品質管理に努め、顧客に「安心して使用していただける容器」の生産に努めています。

25. JFEスチール株式会社 西日本製鉄所(倉敷地区)

倉敷市水島川崎通1丁目 TEL(086)447-2020 <http://www.jfe-steel.co.jp/works/west>

当地区は、2003年4月から西日本製鉄所として福山地区と一体運営され、世界最大の粗鋼生産量を誇る銑鋼一貫製鉄所となっている。約1,000万㎡を超える広大な敷地、深い港湾などの立地条件に恵まれ、合理的な工場配置やコンピューターによる自動制御システムを積極的に活用しながら、世界でトップクラスの競争力を持っている。

西日本製鉄所は、JFEスチールの基幹製鉄所として、各種鋼板(熱延鋼板・冷延鋼板・表面処理鋼板、厚鋼板)や条鋼など今日の社会を幅広く支える鉄鋼商品を効率的に生産している。また、一方では他の事業所や海外提携先への素材供給基地としての役割も果たしている。特に近年では、グローバルに広がる当社のネットワーク・システムを活用して、ユーザーの多種多様なニーズに的確に応える「世界最強の製鉄所」をめざしている。

また、省エネルギー及び環境保全に積極的に取り組むほか、資源循環型社会の実現に向けた取り組みも進めている。所内のエネルギー源には、コークス炉や高炉で発生する副生ガスを利用し、工業用水についても約98%を再利用している。近年では、最新の環境設備を積極導入するなど、資源リサイクル率約99%を達成、次世代の製鉄所への歩みを着実に進めている。

なお、約160社のグループ・協力会社と連携し、鉄鋼製品の生産、物流、情報システムに至るまで多方面にわたって活動している。

主要生産品種及び設備の現状は、次の通りである。

[主要生産品種] 厚中鋼板、熱延鋼板・鋼帯、冷延鋼板・鋼帯、亜鉛めっき鋼板、電磁鋼板、形鋼、鋼矢板、線材、棒鋼、鍛造品

[主要生産設備] 高炉（3基），転炉（6基），連続鋳造機（5機），電気炉，分塊，圧延設備（熱延，冷延，電磁，鋼片，厚板，形鋼，線材・棒鋼，鋳鍛），表面処理設備（亜鉛めっき鋼板）

26. J F E フェライト株式会社 倉敷工場

倉敷市水島川崎通1丁目 TEL (086) 447-4212 <http://www.jfe-frt.com/>

当社は，川崎製鉄（現：J F E スチール）グループ 100%出資の会社として，平成2年10月よりソフトフェライトの生産を開始しました。

フェライトコア。それは，エレクトロニクス産業のさまざまな分野で活躍する強磁性材料です。

コンピューターはもちろん，テレビ受像機や各種通信機器・計測機器などの回路や電源のトランスとして，フェライトコアは不可欠です。

平成9年12月にはタイランド，平成14年4月には中国での生産を開始しました。

平成15年4月には，(株)アイロックス・エヌケーケーと合併し，社名をJ F E フェライト(株)に変更し，21世紀へ向けてアジア及び世界のエレクトロニクス産業の発展の一翼を担うため，より優れた製品と充実したサービスをお届けしてまいります。

27. J F E ミネラル株式会社 製鉄関連事業部倉敷製造所（旧；川鉄鉱業株式会社水島製造所）

倉敷市水島川崎通1丁目 TEL (086) 447 - 4481 <http://www.jfe-mineral.co.jp/>

当社は，川崎製鉄(株)（現：J F E スチール(株)）の資源開発部門を母体とし，製鉄用原料並びに副原料の長期安定供給を当初の主な目的として，昭和33年7月に設立した。

以来，石灰石，ドロマイト等の地下資源の採掘販売。珪砂，珪石と鉄鋼生産工程で副生するスラグ等の加工販売を行い，さらに近年，新素材の研究開発・事業化を推進し，機能素材分野に進出している。

倉敷製造所は，昭和42年7月に川崎製鉄(株)（現：J F E スチール(株)西日本製鉄所倉敷地区）の構内に立地している。

主な製品は，製鉄主原料としてのミニペレット，製鋼副原料として生石灰，軽焼ドロマイト，また，鉄鋼スラグ製品，C B再生碎石等がある。鉄鋼スラグ製品は道路用，コンクリート骨材用，セメント原料用として当該産業向けに生産販売するとともに，高度な加工技術により様々な高付加価値製品に加工して販売している。C B再生碎石は，J F E スチール(株)西日本製鉄所倉敷地区で発生するコンクリートやレンガの廃材を再利用するため破碎・加工したもので，倉敷地区の道路用路盤材として活用されている。

倉敷製造所では，安全と環境保全を第一のテーマに掲げ，快適な職場環境の整備に努めている。今後の展望は，資源の乏しい我国において原材料の安定供給と限りある資源の有効活用を図るとともに，省エネルギーに努め，地球に優しい魅力ある企業として成長していきたいと考えている。

28. J F E 炉材株式会社 製造部玉島工場

倉敷市玉島乙島新湊8252 - 10 TEL (086) 526 - 2211

当社は、川崎製鉄(株)水島製鉄所(現：J F E スチール(株)西日本製鉄所(倉敷地区))の高炉稼働に必要な高炉出銑用耐火材の需要に対応するため、高炉用出銑材工場を玉島E地区の約30,000㎡の用地に建設し、昭和45年10月から生産を開始している。

当工場では、自社技術により開発した高品位の出銑材を、自動化設備により量産しており、近年は、J F E スチール(株)以外の国内・国外の製鉄所にも高炉出銑用耐火材を納入し、各需要家の要望に応えている。

〔主な製品〕

高炉出銑樋用不定型耐火物(ラミング材)

合金鉄電気炉樋用不定型耐火物(ラミング材)

高炉出銑樋用不定型耐火物(流し込み材)

高炉出銑口閉塞用不定型耐火物

合金鉄電気炉出湯口閉塞用不定型耐火物

転炉熱間補修用不定型耐火物

〔会社の沿革〕

昭和13年 3月 ろう石質耐火れんが製造販売を目的として、岡山県児島郡に児島窯業(株)を設立

昭和19年 3月 川崎重工業(株)の子会社となる。

6月 商号を川崎炉材(株)と改称

昭和25年 8月 川崎重工業(株)の分離会社川崎製鉄(株)の子会社となる。

昭和35年 5月 兵庫県赤穂市に赤穂工場建設

昭和45年 10月 玉島工場を建設、高炉用出銑材の製造を移転

昭和47年 9月 本社を神戸市から赤穂市に移転

平成 9年 4月 ISO9001認証取得

平成11年 4月 ISO14001認証取得

平成16年 4月 JFE炉材(株)に社名変更

29. J F E ロックファイバー株式会社

倉敷市水島川崎通1丁目 TEL (086) 447-4208 <http://www.jfe-rockfiber.co.jp>

当社は、川鉄製鉄(株)(現：J F E スチール(株))、松下電工(株)、川鉄鉱業(株)(現：JFEミネラル(株))及び大倉商事(株)の4社の合併により、平成元年8月31日に製鉄所で発生するスラグを原料としてロックウールの原綿及びその加工品の製造・販売を目的として設立され、平成2年10月より川崎製鉄(株)水島製鉄所(現：J F E スチール(株)西日本製鉄所(倉敷地区))内の13,482㎡の敷地で操業を開始した。

ロックウールはその優れた耐熱、断熱、吸音性能により、省エネルギー、耐火防火性能の向上、建築住環境の改善等の分野で活用が進んで来ている。

近年、特に注力している住宅用断熱材については、高齢者住宅やメーターモジュール並びに低ホルム

アルデヒド（シックハウス対策）に対応した商品の開発に努め、積水ハウス、パナホームをはじめ、各大手住宅メーカーや一般の建材店へ納入している。

[当社の主要生産設備能力]

ロックウール粒状綿製造設備 4,500 t / 月

ロックウール成形品製造設備 3,000 t / 月

30. 株式会社島田焼付塗装工業 本社工場

倉敷市松江1丁目23番22号 TEL (086) 455 - 5522 <http://www.shimadatosou.co.jp/>

SHIMADAは、塗装の可能性を追求し続けます。

当社は昭和38年の創業以来、高品質、高精度な塗装技術を生かし、自動車部品塗装を主体に、当地へ貢献することを絶えず心がけております。

そして「創意と工夫」を念頭に、固有技術の高揚・技術開発に取り組むと同時に、長年蓄積したノウハウを基礎とした「品質の保証」「納期の厳守」「コストの低減」を実現し、厳しいニーズに対応できるよう努めています。

また、当社の特徴である、電着塗装ライン・第2電着ラインを軸として防錆塗装・上塗塗装、さらには組み立て・梱包・発送までを全てを行う一貫システムは、業界でも高い評価を得ています。

顧客満足の品質づくり、環境に配慮した工場をめざし平成14年にISO9001:2000（品質）を取得、さらに平成16年にISO14001:2004（環境）を取得し、品質・環境マネジメントシステムを展開することにより、顧客の信頼性向上と環境にやさしい工場をめざします。

31. ジヤトコ株式会社 第三事業所 水島工場

倉敷市水島海岸通1丁目1番地 TEL (086) 444 - 4239

当社は平成14年4月に三菱自動車（株）のA/T（自動変速機）及びCVT（無段階変速機）部門が分社化されダイヤモンドマチック（株）として発足。

平成15年4月にジヤトコ（株）として今日に至る。

水島工場は、軽四輪用（EKワゴン、i（アイ）、ミニカ、ミニキャブ等）のATミッションを生産し、三菱自動車（株）水島製作所へ供給している。

32. 株式会社ジャパンエナジー 水島製油所

倉敷市潮通2丁目1番地 TEL (086) 458 - 2517 <http://www.j-energy.co.jp/>

当社は1905年に創業し、現在は、新日鉱ホールディングス株式会社傘下の中核事業会社として、石油資源開発、石油精製、石油製品販売をはじめ、LPガス、潤滑油、石油化学まで、幅広い事業活動を展開し、エネルギー基盤の一翼を担っている。石油資源開発においては、中東、中国、東南アジアなど世界各地で積極的に事業を展開し、現在は三陸沖の有望鉱区での天然ガスの調査を行なっている。石油精製事業については、水島製油所を生産拠点とし、各種石油製品を生産し、全国のJOMOステーション

等を通じ、お客様に製品を提供している。

当水島製油所は、1961年に操業を開始し、現在従業員390名、敷地面積約165万 m^2 を擁する当社の中核事業所である。操業以来、増大かつ多様化する石油需要に応じて設備増強を重ね、国内有数の総合製油所に成長し、特に重質留分を軽質留分に精製する（白油化）高い能力を保持している。

ガソリン、灯油、軽油、重油をはじめ、ノルマルパラフィンなどの石油化学製品、潤滑油等、高付加価値製品の生産のほか、水島コンビナート周辺企業に原料供給を行なう重要な役割を担っている。また、環境対応製品（サルファーフリーガソリン・軽油）の開発、生産についても積極的に取り組んでいる。

主な製造設備は次のとおりである。

常圧蒸留装置（2基）	205,200	バーレル/日
減圧蒸留装置（2基）	109,000	バーレル/日
接触改質装置（3基）	44,000	バーレル/日
流動接触分解装置	52,000	バーレル/日
重油直接脱硫装置	31,000	バーレル/日
重油間接脱硫装置	70,000	バーレル/日
ナフサ水添脱硫装置（2基）	34,000	バーレル/日
灯軽油水添脱硫装置（6基）	116,000	バーレル/日
重質油熱分解装置	26,000	バーレル/日
潤滑油製造装置	300,000	k//年
アルキレーション装置	9,000	バーレル/日
ノルマルパラフィン製造装置	130,000	t / 年
水素化脱アルキル装置	100,000	t / 年
芳香族溶剤製造装置	30,000	t / 年
水素製造装置（4基）	3,261,000	N m^3 / 日
硫黄回収装置（3基）	640	t / 日
液化炭酸ガス回収装置	26,000	t / 年

排煙脱硫装置4基計463,500N m^3 /時（wet）、電気集塵機4基、集合煙突3本（160m,120m \times 2本）及び活性汚泥処理設備18,000t/日を中心とする一連の環境保全処理設備により、大気汚染、水質汚濁防止に成果をあげ、地域の環境保全に努めている。

また、化学消防車等9台、油回収装置一式及びオイルフェンス展張船1隻を配備し、陸海の保安防災に万全を期している。

33. 株式会社上備製作所 水島工場

倉敷市松江4-4-3

TEL (086) 455-6158

<http://www.jobi.co.jp/>

当社は、大正8年3月群馬県高崎市で創業し、当時盛んであった養蚕の繭を蒸すボイラの製造を手がけたのが始まりで、圧力容器を製造以来、この技術を生かし、それらが不可欠の化学、医薬品、食料品等の製造プラント全体の建設に携わる。

水島工場は、昭和39年6月に開設、生産能力は800t/Y(C S換算)である。

水島地区を中心に各種プラントの設計、製作、据付工事を行っており、各分野のニーズに応えるよう新しい情報や技術を積極的に取り入れ、信頼される製品を作り続けるよう努力している。

34. 新日本石油精製株式会社 水島製油所

倉敷市水島海岸通4丁目2番地 TEL (086) 448 - 3311 <http://www.eneos.co.jp/>

水島臨海工業地帯の中心に位置する当製油所は、石油需要の増加と西日本一帯への供給を強化する目的で、昭和36年5月、日産4万パーレルの原油処理能力を持つ製油所として操業を開始したが、その後の大規模な設備の拡張により、現在では自動車用ガソリンを始めとする各種燃料油、潤滑油、石油化学製品原料等を生産する我が国最大級の近代的総合製油所となっている。

当製油所は、コンビナートの中核として水島地区の石油化学、電力、鉄鋼等各社へ燃料油やナフサ、芳香族製品を供給すると共に、最高品質の各種石油製品を全国各地に出荷している。

さらに、当製油所では、環境の保全についても積極的に取り組んでおり、環境管理システムの国際規格であるISO14001を平成11年3月に取得した。環境面では、硫黄を含まない燃料ガスを使用するほか、排煙脱硫装置、電気集塵機により排出ガスをクリーンにする努力をしている。最新の自社技術を取り入れた脱硫装置では、ガソリンや灯油に含まれている硫黄分を10ppm以下(サルファーフリー)まで取り除き、環境対策に貢献している。また、工程排水は高性能の油水分離槽、活性汚泥装置、凝集沈澱装置で処理している他、防消火設備の充実、油流出防止にも万全を期している。当製油所の概要及び主要生産設備は次のとおりである。

(概要)

操業開始	昭和36年5月16日
敷地	約153万㎡(約46万坪)
従業員	538人(平成19年8月現在)
原油処理能力	25万パーレル/日(約39,800kl/日)
生産量	1,390万kl(平成18年度)
主要製品	ガソリン、灯油、軽油、重油、潤滑油、アスファルト、LPG、石油化学製品、各種溶剤

(主要生産設備)

第2常圧蒸留装置	110,000	パーレル/日	(約17,500	kl/日)
第3常圧蒸留装置	140,000	"	(約22,300	")
第2真空蒸留装置	17,000	"	(約2,700	")
第3真空蒸留装置	60,000	"	(約9,500	")
ガソリン改質装置	43,400	"	(約6,900	")
流動接触分解装置	46,000	"	(約7,300	")
アルキレーション装置	7,600	"	(約1,200	")
アイソマックス水素化分解装置	13,000	"	(約2,100	")
重油直接脱硫装置	45,000	"	(約7,200	")

第 6 水素化脱硫装置	50,000	"	(約 8,000	")
第 8 水素化脱硫装置	37,000	"	(約 5,900	")
第 9 水素化脱硫装置	51,000	"	(約 8,100	")
第 10 水素化脱硫装置	33,000	"	(約 5,300	")
パラキシレン製造装置	1,400	t / 日			
プロピレン精留装置	5,000	パーレル / 日	(約 800	k / 日)	
潤滑油製造装置	600	k / 日			
液化炭酸ガス製造装置	380	t / 日			

35. 住友重機械工業株式会社 岡山製造所

倉敷市玉島乙島8230番地 TEL (086) 525 - 6101 <http://www.shi.co.jp/>

当岡山製造所は、サイクロ減速機の名称で呼ばれる小型ギアモータ(アルタックス)とハイポニックギアモータはPTC・ギアモータ工場で標準化され、即納体制にあります。標準化汎用歯車減速機(パラマックス[®])は、PTC・ギアボックス工場で多種多様なご要望に迅速にお答えしています。

また、半導体、フラットパネルディスプレイ等の製造装置に組み込まれている超精密位置決め装置の生産工場としても躍進を続けています。

敷地面積 425,000m²

建築面積 105,000m²

製造製品 小型ギヤモータ、ギアボックス、超精密位置決め装置

関連会社 住友重機械ファインテック(株)、いずみ総合サービス(株)、泉警備保障(株)、住重テクノス(株)

36. 星光PMC株式会社 水島工場

倉敷市玉島乙島字新湊8252 - 40 TEL (086) 522 - 7822 <http://www.seikopmc.co.jp/>

当社は、昭和43年に大日本インキ化学工業(株)と米国ハーキュレス社の共同出資により、ディック・ハーキュレス(株)として設立されましたが、平成4年にハーキュレス社との合併を解消し、大日本インキ化学工業(株)の100%子会社として社名を日本PMC株式会社とするとともに、平成8年には、東京証券取引所市場第二部に株式を上場いたしました。

平成15年4月、星光化学工業(株)と合併、社名を星光PMC株式会社に変更し、今日に至っております。

水島工場は、西日本地区の需要家に対する製品出荷の拠点として、昭和63年より操業しております。

主な生産品目には、いろいろな紙製品が造られる過程で使用される化学製品があり、例えば、ダンボールに強さを与える製品、ティッシュペーパー等紙が水に濡れても強さを失いにくくする製品、文字を書いた際にインキのにじみを防止する製品などです。

37. 瀬戸内共同火力株式会社（倉敷共同発電所）

倉敷市水島川崎通1丁目12番地 TEL（086）446 - 3700

<http://www.setouchi-kyouka.co.jp/>

〔瀬戸内共同火力の誕生〕

2006年7月にJFEスチール西日本製鉄所（倉敷地区）の旧水島共同火力（株）と（福山地区）の旧福山共同火力（株）が合併し瀬戸内共同火力（株）が発足しました。

今回の合併は、鉄鋼業界における競争激化や電力自由化に伴う競争激化という環境変化から業務運営の更なる効率化によるコスト削減を推進し、有効な発電所であり続けることを目指しております。旧水島共同火力（株）は瀬戸内共同火力（株）倉敷共同発電所となりました。

旧水島共同火力（株）が発足とともに着手した第1号機は、川崎製鉄（株）水島製鉄所（現：JFEスチール（株）西日本製鉄所（倉敷地区））の第1高炉と同時期に完成し、昭和42年に営業運転を開始した。その後、同製鉄所の高炉の増設及び一連の関連設備の拡張に伴う電力需要の伸びに応じて下記のように逐次設備の増強を進めて、現在総出力61.3万kWの発電所として電力の供給を行っている。

新1号機	14万9千kW	平成6年6月運転開始
3号機	15万6千kW	昭和45年4月運転開始
4号機	15万6千kW	昭和46年7月運転開始
5号機	15万6千kW	昭和50年10月運転開始

〔新1号機運転開始〕

老朽化した旧1号機及び2号機（各7.5万kW）を統合・リプレースし、新たにコンバインド・サイクル発電方式の主力機種新1号機（14.9万kW）が平成6年6月営業運転を開始した。

このプラントはガスタービンとその排熱を利用した蒸気タービンを組み合わせた複合発電方式のもので、高炉ガスを主燃料とするものとしては世界初の燃焼ガス温度1,250度クラスのガスタービンを採用し、高効率と環境保全に優れていることが大きな特徴である。

〔環境保全〕

発電用の主燃料であるガスは硫黄分の極めて少ないクリーンなもので、これと良質な低硫黄の重油及び天然ガス（2006年10月）を混焼させるため、排煙中のSO₂濃度は極めて低い。また、ガス混焼率が高いので、窒素酸化物・ばいじん等の排出量も極めて少ない。さらに、煙突により拡散効果を高めている。発電所からの排水は、総合排水処理装置により清浄化を図るなど環境保全に努めている。

38. 瀬戸埠頭株式会社

倉敷市児島塩生2767番地の24 TEL（086）475 - 0241

当社は、三菱商事グループの関西以西の輸入バルク原料に関する物流拠点として昭和46年4月に操業を開始。大型船を自社棧橋に接岸し、貨物を陸揚げ、保管後、顧客のニーズに応じて配送している。

現在の主要取扱貨物は、農政局向けの輸入麦類、隣接した飼料メーカー向けの輸入飼料原料及び食品メーカー向けの食品原料、水島コンビナートソーダメーカー向けの輸入工業塩、更には鉱産品と化学工業品も一部取り扱っている。

また、最近輸入バルク原料のみならず近隣で生産される石化製品、その他一般雑貨も保管すべく倉庫

規模を拡充した。

〔主な設備〕

< * 印は環境保全機器 >

【埠頭設備】	・主 棧 橋	全長	350m
	・ドルフィン棧橋		24m
	・専用泊地	- 14m (ピア前面	50mまで)
		*Cバース粉塵飛散防止ネットフェンス (高さ) 7m × (長さ) 70m	
【荷役設備】	・橋形アンローダー		1,850 t / 時 × 1基
		* バッグフィルター式集塵機 (処理風量 1,600m ³ / 分 × 1基)	
	・L L C式アンローダー		500 t / 時 × 1基
		* バッグフィルター式集塵機 (処理風量 1,300m ³ / 分 × 1基)	
		* バッグフィルター式集塵機 (処理風量 500m ³ / 分 × 1基)	
	・内航船積出機		850 t / 時 × 1基
		* バッグフィルター式集塵機 (処理風量 200m ³ / 分 × 1基)	
	・内航船積出機		500 t / 時 × 1基
	・コンベヤー総延長		1,793m (1000 t / 時 × 2系列)
		ベルト乗継部5箇所	
		* バッグフィルター式集塵機 (処理風量 60m ³ / 分 × 4基, 100m ³ / 分 × 1基)	
		* ベルト用防塵カバー 総延長 732.4m	
【サイロ施設】	・コンクリートサイロ	保管能力	45,360 t
	・鉄板サイロ	保管能力	49,600 t (計94,960 t)
【野 積 場】	・面 積	56,026m ²	保管能力 300,000 t
【倉 庫】	・1号倉庫	1,117m ²	・2号倉庫 984m ²
	・3号倉庫	1,015m ²	・4号倉庫 1,980m ²
	・5号倉庫	4,950m ²	・6号倉庫 6,748m ²
	・7号倉庫	2,970m ²	

39. 株式会社銭屋アルミニウム製作所 岡山玉島事業部

倉敷市玉島乙島8234 - 16

TEL (086) 526 - 7277

<http://www.zeniyaalumi.co.jp/>

当社は、大阪府池田市に本社を置く金属製品製造業の会社で、当事業所はその岡山玉島事業部である。当社は、永年つちかった加工技術とアイデアを生かして、先進のメカトロ技術を駆使した高品質、高効率の製品作りを推進する一方で、機械生産では不可能な大型建造物製造に対して、溶接技術者の職人技ともいえる手作りによる製造をおこなっています。

また、グループ8社により銭屋アルミグループを形成し、岡山玉島事業部はISO9001の認証を取得し、主として灯浮標・標識灯・その他海洋機器の開発、設計、製造並びにこれらの技術コンサルティング業務を担い、最新鋭の生産設備及び技術スタッフにより、近年、航路標識用AIS・GPS式波高計など多様な製品を提供し、世界に信頼の輪を広げております。

40. ダイソー株式会社 水島工場

倉敷市児島塩生新浜2767 - 13 TEL (086) 475 - 0331 <http://www.daiso.co.jp/>

当社は、大正4年、電解法かせいソーダ、合成塩酸の製造会社として発足し、北九州の小倉において操業を開始した。その後、尼崎・松山に工場を建設してソーダ工業を中心に業容の拡大を図ってきた。

昭和45年、有機事業拡大の一環として水島コンビナートに進出。水島工場は岡山化成(株)から塩素、山陽石油化学(株)からプロピレンの供給を受け、昭和46年にアリルクロライド年産2万t、エピクロルヒドリン年産1.6万tの生産規模でスタートした。その後、塗料、電気、接着剤分野向け用途でのエポキシ樹脂の需要が活発となり、その主要原料であるエピクロルヒドリンの需要も増加してきた。そのため、順次設備の増強を行い、平成19年8月現在、アリルクロライド生産能力5.4万t/年、エピクロルヒドリン生産能力3.5万t/年となっている。

昭和53年、自社開発製造技術による、エピクロルヒドリンゴム(商品名:エピクロマー)製造設備を建設した。このエピクロマーは、耐熱性、耐油性、耐オゾン性、耐寒性という数々の優れた特性を持ち、自動車エンジン回りのチューブ類、事務機器部品等各分野で使用され、その後需要の拡大とともに、市場にマッチした高機能性合成ゴムとして注目を集めている。エピクロマーは、年産600tでスタートし、順次設備の増設を行い現在の生産能力8,400t/年となっている。

公害防止対策については、工場操業以来今日まで、排水処理設備の充実により水質の保全に万全を期しており、生産設備の増強に当たっては技術の向上を図り、環境対策に最大限の努力を払っている。

41. ジャパンパイル製造株式会社 岡山工場

倉敷市水島中通1丁目10番地の2 TEL (086) 448-3061 <http://www.japanpile.co.jp/>

当社は、建築物・構造物の基礎となるコンクリートパイル(既成杭)とコンクリート製雨水地下浸透製品の製造を行っている。

コンクリートパイルは、300mm~1000mmまでの杭径で、PHC杭、PRC杭、ST杭、SC杭の各種を製造。月産9,000tの能力を持ち、中四国全域及び一部は九州、中部まで納入している。現状では、月7,000t程度の出荷となっている。

雨水地下浸透製品は、施設・住宅の敷地内雨水処理等に用いられるもので、トレンチ・樹等独自の形状の商品構成で提供している。

ジャパンパイル(株)は、大同コンクリート工業(株)、(株)ジオトップ、ヨーコン(株)三社の製造部門を統合しジャパンパイル製造(株)を設立(平成18年4月)した。北海道から鹿児島まで15工場(グループ2社含む)となり国内シェア業界1位のパイルメーカーとなった。

42. タツモ株式会社

倉敷市玉島乙島8230番地 TEL (086) 525 - 2111,2186 <http://www.tazmo.co.jp>

当社は、液晶製造装置、クリーン搬送ロボット、半導体製造装置、精密金型の開発製造、販売と、樹脂成形品の販売を目的として事業を展開しております。

中でも、当社の主要品目である液晶製造装置にあつては、液晶ディスプレイ用のカラーフィルター製

造装置として世界最大の供給実績とシェアを有しております。

玉島工場は、液晶ディスプレイの大型化に伴うカラーフィルター製造装置の大型化に、本社及び本社周辺工場が対応しきれなくなったため、当社の取引先である住友重機械工業株式会社岡山製作所内の工場をお借りして、主として第7.5世代（1,950mm×2,250mm）、第8世代（2,160mm×2,460mm）と言われる大型基板サイズに対応した装置を製造しております。

43. 中国電力株式会社 玉島発電所

倉敷市玉島乙島字新湊8253番2 TEL (086) 526 - 0220 <http://www.energia.co.jp/tamashima-h/>

玉島発電所は、石油を燃料とする発電所出力120万kW（1号機35万kW、2号機35万kW、3号機50万kW）の中国地方東部の主要火力発電所として、昭和46年3月から運転を開始した。水島工業地帯を始め、岡山県南部を中心に安定した電気を供給している。

美しい青空、きれいな海を守るために、環境保全に最善を尽くし、また、自然環境との調和に努めている。

・硫黄酸化物対策

2号機及び3号機には排煙脱硫装置を設置し、排煙の中に含まれている硫黄酸化物を取り除いている。

・窒素酸化物対策

* ボイラーは、1、2、3号機とも2段燃焼及びガス混合燃焼方式を採用し、窒素酸化物の発生を抑制している。

* 1号機には、排煙脱硝装置を設置し、排煙の中に含まれている窒素酸化物を取り除いている。

・温排水対策

* 取水口に深層取水設備を設け、より冷たい海水を取り入れるようにしている。

* 復水器バイパス路を設け、冷たい海水を直接混ぜ合わせ放水温度の上昇を抑えるようにしている。

* 放水路を開渠に、また放水口を広くし、かつ拡散壁を設け、冷却効果を上げるようにしている。

・設備排水対策

設備排水については、総合排水処理装置を設けて、浄化後放流している。

・環境緑化対策

環境保全のため敷地内の緑化等に努めており、敷地面積の約26%を環境緑化している。

44. 中国電力株式会社 水島発電所

倉敷市潮通1丁目1番地 TEL (086) 455 - 8121 <http://www.energia.co.jp/mizusima-h/index.html>

水島発電所は、石炭・LNGを燃料とし、発電出力621,000kW（1号機125,000kW、2号機156,000kW、3号機340,000kW）の発電設備がある。

昭和36年11月から運転を開始。昭和59年には、国のエネルギー政策に沿って、1・2号機の燃料を重油から石炭に転換する工事を実施した。

平成3年から発電所建物のカラーコンディショニングを実施するなど環境整備に取り組むとともに、

平成6年6月には制御設備のリフレッシュ工事を完了し、省力化、高効率化に努めている。

当発電所は、水島臨海工業地帯のほぼ中心に位置しており、燃料の入手が容易であり、送電ロスが少ないという利点を持っている。

平成17年5月から、コンビナート地区のユーティリティ基盤の効率化をめざし、経営資源を活用した電力・熱等の総合的なエネルギー供給サービスの一環として、2号機は隣接する工場に対して蒸気供給を行っている。

また、CO₂排出量削減の取組として、3号機の燃料を原油から天然ガスに転換し、平成18年4月に運転開始した。

1号機は石炭から天然ガスに転換するとともに、ユニットをコンバインドサイクル発電方式にリニューアルし、より効率的な電力供給を目指している。（平成21年4月運転開始予定）

環境保全については、次のとおり最善の対策を講じている。

・硫黄酸化物対策

第1・2号機には、排煙脱硫装置を設置している。また、第3号機はLNGを使用しており、硫黄酸化物を排出しない。

・窒素酸化物対策

第1～3号機は、二段燃焼方式、低NO_xバーナの採用並びに排煙脱硝装置の設置により窒素酸化物の低減を図っている。

・煤塵（ばいじん）対策

第1・2号機は、電気式集塵器を設置しており、排煙脱硫装置の除塵効果を併せて、煤塵排出量の低減を図っている。また、第3号機はLNGを使用しているため、煤塵を排出しない。

・炭塵飛散防止対策

石炭の取扱いに当たっては、コンベアは防塵カバー付き、又はギャラリー方式を採用するほか、揚炭機、貯炭場には散水装置等を設置して炭塵の飛散防止を図っている。

・水質汚濁防止対策

排水処理装置を設置し、発電所で使用した水をこの処理装置に入れクリーンな水にして排出している。

・温排水対策

深層取水方式並びに復水器バイパス装置を設置し、排水温度の上昇を抑制している。

・騒音対策

低騒音型機器の採用、ボイラー安全弁には消音器を設置するなどの対策を講じている。

・環境緑化対策

環境保全のため敷地内の緑化に努めており、敷地面積の約26%を環境緑化している。

45. 中国精油株式会社 水島工場

倉敷市玉島乙島8252 - 8 TEL (086) 526 - 1106 <http://www.chusei-oil.com>

当社は、ファインケミカル事業を推進している関連会社の中精石油化学を平成19年10月から本体に統合し、新体制をスタートさせます。

以前から医薬中間体や電子材料など受託精製を中心とする製造部門を中精石油化学が担当し販売部門は本体である中国精油が担当していた。今回、製販一体とすることで、ファイン事業をさらに強化し、

拡大する需要に応じて行きたい。

従来のシンナー・溶剤類の製造設備に加え、蒸留塔の増設や薄膜蒸留設備、顧客専用プラントなどの設備増強も進み、今後のさらなる事業発展を目指します。

46. 中部飼料株式会社 岡山工場

倉敷市玉島乙島49番地の11 TEL (086) 522 - 4176 <http://www.CHUBUSHIRYO.co.jp/>

当社は、本社を愛知県知多市に置き、資本金26億9521万円で全国に6工場を持ち、畜産用・水産用配合飼料の製造販売を行っており、そのうち西日本の拠点として、昭和41年12月に現在地で操業を開始した。

当工場は、玉島港に面した22,068㎡の土地に、工場5棟、製品倉庫3棟、原料倉庫2棟、サイロ22基等を有し、従業員24名で、養牛用配合飼料を年間約6万t製造している。

公害防止対策については、集塵装置・脱臭装置・良質燃料の使用等設備の充実強化とともに、細心の注意を払っている。

47. 中部飼料株式会社 水島工場

倉敷市水島海岸通3丁目1番3 TEL (086) 447-5511 <http://www.CHUBUSHIRYO.co.jp/>

当工場は、BSEへの対応策として、牛用配合飼料と鶏・豚用配合飼料の製造工程における交雑防止が、平成17年4月より法制化されたことに伴い平成17年3月より操業を開始した。

37,383㎡の土地に第一工場、第二工場の工場棟、製品倉庫、原料倉庫、サイロ等を有し、従業員21名で養鶏用、養豚用及び養魚用配合飼料を年間約2.5万ト製造している。

公害防止対策については、集塵装置・良質燃料の使用等設備の充実強化とともに細心の注意を払っている。

48. 東京製鐵株式会社 岡山工場

倉敷市南畝4丁目1番1号 TEL (086) 455 - 7151 <http://www.tokyosteel.co.jp/>

当社が、水島地域に進出した最も大きな理由は、主原料のスクラップ及び銑鉄の多くを海上輸送し、製品もその大部分を海上輸送するため、専用岸壁が必要であり、深い港に面した用地が確保できたからである。

昭和35年11月に立地を決定。昭和37年10月から操業を続けてきたが、昭和53年4月に平炉設備から140T電気炉設備2基にリプレースし、稼働を始めた。また、低成長時代に対処するために、品種の多様化の必要から小型棒鋼圧延設備の新設を行った。平成3年10月に熱延広幅帯鋼設備を稼働させ、電気炉による初の熱延広幅帯鋼（ホットコイル）の生産を開始した。平成4年4月に150T直流電気炉1基を稼働させ、熱延広幅帯鋼の本格生産を始めた。さらに平成7年4月に酸洗設備を平成9年3月に冷間圧延設備及び溶融亜鉛メッキ設備を、平成16年12月にレベラーシャー設備を稼働させ品種の多様化を計っている。

環境保全全面においては、特に力を入れ、電気炉設備には直引式集塵設備を設置するとともに、製鋼工場建屋には建屋集塵機をも設置している。

排水関係においては、水処理設備、沈澱池を設置。また、工場緑化については、工場周辺部に特に重点を置き、地域との環境調和に努力している。

＜生産設備＞（イ）製鋼設備	140T交流電気炉	2基
	150T直流電気炉	1基
	連続鋳造設備	3基
（ロ）圧延設備	中型圧延設備	一式
	小型棒鋼圧延設備	一式
	熱延広幅帯鋼圧延設備	一式
	酸洗設備	一式
	冷間圧延設備	一式
	溶融亜鉛メッキ設備	一式
	レベラーシャー設備	一式

49. 株式会社トウペ製造 倉敷工場

倉敷市玉島乙島8252番地39 TEL (086) 525 - 1821 <http://www.tohpe.co.jp/>

当社は、大正4年12月に創業以来一貫して塗料製造を柱として事業の拡大を進めてきたが、昭和32年に合成樹脂加工剤、昭和33年には接着剤、更に昭和39年に合成ゴムの製造を手がけるなど、化成品部門へも積極的な展開を図っている。

昭和62年7月に玉島E地区に化成品生産工場の進出を決め、平成元年3月に操業を開始し、その後の投資も積極的に行い、塗料と化成品を事業の両輪として付加価値の高いビジネス展開を図っている。

平成5年4月に社名を東亜ペイント(株)から(株)トウペに変更し、堺市に本店を移した。同時に、茨城工場及び三重工場の拡充を図り、塗料部門の経営を一層堅固なものとした。更には、経営の意思決定を迅速に行う為、平成16年11月に生産部門を分社化し、(株)トウペ製造を発足した。

また、生産だけでなく公害防止対策及び地球環境保全にも積極的に取り組み、平成11年にNEDO(独立行政法人・新エネルギー・産業技術総合開発機構)の共同研究者として、高性能リジェネレイティブバーナーを使用した蓄熱型脱臭機に更新し、地球温暖化ガス削減に貢献している。また、排水に関しては、更に汚濁物質の低減を計るべく、設備の更新・改良を行い、細心の注意を払っている。

50. トーカロ株式会社 水島工場

倉敷市松江2丁目2番38号 TEL (086) 455 - 2115 <http://www.tocalo.co.jp>

当社は1951年の創業以来、溶射を中心とする表面改質分野のトップ企業として「技術とアイデア、グッドサービス」を基本理念に、電力、鉄鋼、自動車といった基幹産業から、エレクトロニクス、宇宙開発等の先端産業分野まで、様々な分野の技術発展に貢献してまいりました。2004年にはPVD法によるセラミックコーティング分野の最大手である日本コーティングセンター株式会社を傘下に迎え、表

面処理の総合メーカーとしてさらに幅広く充実したソリューションをお届けすることができるようになりました。また2005年4月、中国広州市に子会社を設立し、グローバル化が進む今日の情勢に対応するとともに国際市場での成長を目指す事業展開を進めています。

当水島工場は岡山を中心とする中国・四国地方での拠点として1973年に稼働し、地域に密着した地方拠点ならではのきめ細かくスピーディなサービスをお届けしてまいりました。本社をはじめとしてISO14001の認証を取得し、今後も地域環境との調和に努めると同時に、地元産業の発展に意欲的に貢献してまいります。

51. ナカシマプロペラ株式会社 玉島工場

倉敷市玉島乙島8259番12号 TEL (086) 523 - 6811 <http://www.nakashima.co.jp/>

当社は、岡山市に本社を置く船舶用プロペラ(スクリュー)のメーカーです。モーターボートから数十万トン級の大型船までのあらゆる種類のプロペラの製造を手がけています。市場占有率は、国内で70%、世界で30%です。大型プロペラは陸上輸送が困難であり、港に近い場所に工場を建設し、海上輸送することを計画してきましたが、このたびE()地区に大型プロペラの専用工場を建設し、平成17年12月に操業を開始しました。

環境保全面では、大気保全対策として、重油燃料を使用せず良質燃料を使用し、また、集塵設備の充実に努力しています。工場緑化については、敷地内の緑化を積極的に進めており、地域との環境調和に注意を払っています。

52. 西日本飼料株式会社

倉敷市水島海岸通3丁目6番地3 TEL (086) 444 - 2400

<http://www.nishinihon-feed.com>

当社は、丸紅飼料(株)、日清製粉(株)(現:日清丸紅飼料(株))、丸紅(株)の三社合弁により平成元年2月に設立され、同年10月に操業開始した。ブロイラー、採卵鶏、豚、肉牛、乳牛等の畜産用飼料並びに鯛、ハマチ、とらふぐ、アジ等の養魚用飼料の製造を行っており、平成14年10月には牛用飼料専用工場が完成し、その生産能力は月産40,000tで、トータルコンピュータシステムによる生産出荷管理を行い、日清丸紅飼料(株)、全酪連、並びに協同飼料(株)の委託を受けて近畿・山陽・山陰・四国向けに生産し、出荷している。

53. 日電商工株式会社 倉敷工場

倉敷市玉島乙島新湊8256-75 TEL (086) 525-6688 <http://www.ndsk.co.jp/>

当社は、昭和27年に神戸で産声を上げ、産業用各種給電機器のメーカー、商社として製鉄を皮切りに造船・重機・重電各社を得意先として全国展開し、今日に至っています。

当倉敷工場では、製造品目を「ケーブルリール」と「ケーブルキャリア」の2品目に特化し、市場規模の縮小、海外製品との競合が続く中、国内市場での勝ち残りを目指し、奮闘・努力しています。また、

今後は上記 2 品目の新規分野での品種拡大を図る計画です。

54. 日鉱液化ガス株式会社 水島輸入基地

倉敷市潮通2 - 1 TEL (086) 458 - 2538

当社は、(株)ジャパンエナジー、岩谷産業(株)、伊藤忠商事(株)の共同出資で、昭和39年12月に設立され、液化石油ガス(L P G)の輸入、保管、販売を行っている。

昭和41年11月に、(株)ジャパンエナジー水島製油所構内、28,425㎡の敷地に水島輸入基地を設置し、冷凍タンク20,000MT×3基、球型高圧タンク750MT×6基とその附帯設備を建設、続いて昭和48年には、冷凍タンク19,000MT×1基の追加工事も完成した。

年間約320,000MTの液化石油ガス(L P G)をサウジアラビア、カタール等の中東湾岸エリアから主に輸入し、販売している。

なお、水島輸入基地の保全運営の一切は、(株)ジャパンエナジーに委託している。

55. 日清オイリオグループ株式会社 水島工場

倉敷市水島海岸通3 - 2 TEL (086) 448 - 3232 <http://www.nisshin-oillio.com>

日清オイリオグループ株式会社は国内に4つの生産拠点を有し、6万トンクラスの大型貨物船が接岸できる埠頭を持ち、原料の荷揚げから搾油、精製、充填までを一貫して行う「横浜磯子事業場」、「名古屋工場」、「水島工場」の3拠点、そして精製専用の「堺事業場」と、それぞれの機能、設備や立地を生かした生産を行っている。又、東アジア地域於ける生産基盤の強化に取り組んでいる。

当水島工場は敷地面積約12万㎡、従業員は85名で食生活に不可欠な植物油脂をはじめ、飼料や醤油・味噌の原料、野菜・果樹等の肥料、さらには豆腐の原料となる食品大豆を製造販売している。当工場の生産能力は、年間搾油能力63万トン(原料ベース)、搾油設備二系列、精製設備二系列が稼働し、西日本地域では最大規模である。

公害防止対策としては、排水処理装置、集塵装置、排煙脱硫装置の設置で充実を図っている。また、保安防災面については、倉敷市と災害防止協定を締結し、法令改正等による諸対策に加え、自主保安体制を強化して積極的に災害防止に努めている。

当工場も環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」を認証取得し、環境保全が最重要課題の一つであると再認識し新たに環境目標を策定、その達成に向け全社一丸となって取り組んでいる。

また、国内・海外の力を結集し本格的なグローバル競争を勝ち抜くため、最大限の成果を生み出す体制を構築すべく取り組んでいる。

日清オイリオグループ(株)は安全で高い品質を追求し、常に新しい発想を形にする、そして何より、お客様の視点に立った商品開発により、健康的で幸福な「美しい生活(Well-being)」をご提案し、これからも皆様の身近なところでお役に立ちたいと願っている。

56. 日本曹達株式会社 水島工場

倉敷市児島塩生2767 - 12 TEL (086) 475 - 0036 <http://www.nippon-soda.co.jp/>

当社の創業は、大正9年に、電解事業を新潟の地で立ち上げたことに始まる。その後、ソーダ・カリ電解製品及びその誘導体を中心とする基礎化学品から機能製品、農薬、医薬へと高い開発技術力を背景に総合化学会社に成長した。現在、二本木（新潟県）・高岡・千葉・水島の4製造事業場と小田原に農医薬、千葉に機能製品の開発研究所を有す。

当工場は、昭和44年青酸誘導体の拡大・増強を目指し、新潟の青酸誘導体工場を閉じ、水島C地区に工場進出をした。その後、国内最大の青化ソーダ・カリの生産工場に成長するとともに、農医薬等の鍵中間体となる有機青酸誘導体DAMN（ジアミノマレオニトリル）を製造している。

また、当工場では、ISO9001及びISO14001の認証を得て、「RC活動を通じて環境安全・労働安全・製品安全に配慮した生産活動を推進し、豊かな社会の実現に貢献していく」ことを工場の方針として、その活動方針に沿った生産活動を進めている。

57. 日本合成化学工業株式会社 生産技術本部 水島工場

倉敷市松江4丁目8番1号 TEL (086) 455 - 5211 <http://www.nichigo.co.jp/>

当社は、水島における石油化学コンビナートの一躍を担って、1963年10月に三菱化成（株）（現：三菱化学（株））との共同出資による水島合成化学工業（株）を設立し、翌年8月から操業を開始した。1971年4月に水島合成化学工業（株）を吸収合併し、日本合成化学工業（株）水島工場とした。その後、1998年1月に加工技術開発センターを併設し、今日に至っている。1995年にISO9002、1998年に環境ISO14001を認証取得し、1999年にはISO9001全品目認証を取得した。

当工場はB地区に立地し、規模は工場敷地12万㎡、従業員195名で、隣接の三菱化学（株）水島事業所から原料・ユーティリティの供給を受け生産している。

主力製品である「ゴーセノール^R（ポリビニルアルコール）」は優れた水溶性、接着性、造膜性、化学的安定性を利用し、繊維・紙・塗料・接着・フィルムなどの工業原料・加工剤として、エレクトロニクスから医療分野まで国内はもとより世界50数カ国で使われている。

もう一つの主力製品「ソアノール^R（エチルビニルアルコール）」は卓越した酸素バリアー性を生かし、食品包装材料として幅広く使用されている。また溶剤バリアー性、耐油性、耐候性を生かし、食品用途以外の産業分野にも用途展開し、農薬ボトル・ガソリントank・建築部材・医療包装等の材料として使用され国内をはじめ世界の主要国に輸出されている。

【主要製品】

製 品	用 途
酢酸ビニルモノマー	各種ポリマー原料,接着剤

<p>ゴーセノール^R (PVA・ポリビニルアルコール・ホバール)</p>	<p>合成繊維原料, 繊維加工助剤, 紙加工助剤, 合成糊料, 乳化分散剤, 接着剤, PVB樹脂原料, 機能性フィルム原料, 医療品錠剤バインダーなど</p>
<p>ソアノール^R (EVOH, エチレンビニルアルコール共重合樹脂)</p>	<p>酸素バリアー性, 溶剤バリアー性, 耐油性等を生かし, 各種食品包装材料, 容器材料, 薬品ボトル, ガソリンタンク, 医薬品, 化粧品, 包装材料など</p>
<p>ソアブレン^R (EVA, エチレン・ビニル共重合樹脂)</p>	<p>硬質, 半硬質, 軟質PVC用ブレンド剤発泡軟質, 発泡硬質PVC用ブレンド剤</p>
<p>ソアレックス^R (EVA, エチレン・ビニル共重合樹脂溶液)</p>	<p>PE・PP等の接着剤 全天候型テニスコート用アーバンコート</p>

環境保全面は、工場立地以来積極的に取り組んでいる。水質保全対策は、操業開始時からいち早く活性汚泥処理施設を設置するなど水質保全に努力している。また、大気保全対策として、重油燃料を使用せず、焼却装置に電気集塵機を設置しているほか、場内の防臭対策にも積極的に取り組み成果を収めている。

58. 日本食品化工株式会社 水島工場

倉敷市児島塩生2767番地の25 TEL (086) 475 - 1010 <http://www.nisshoku.co.jp/>

当社は、昭和25年日本で初めてのコーンスターチ工場を稼働させて以来、わが国のコーンインダストリーのパイオニアとして、業界最大手の地位を確保しつつ業界の発展に貢献してきた。

「ユーザーのニーズと信頼に応え、社会に貢献すること」をモットーに、豊かな経験と蓄積された高度な技術から生み出された高品質の製品群は、工業用や食品・医薬品向けとして、各分野のユーザーから高い評価と厚い信頼を得ている。

最近では、世界に先駆けて企業化に成功したサイクロデキストリンをはじめとするファインケミカル新製品群も、非常に好評を得ている。また、酵素・微生物の応用研究によるバイオ化を目指すなど、時代の変化に即応した各種新製品の開発促進に、全社を挙げて努力をしている。

水島工場では、平成元年3月操業開始以来、糖化製品（異性化液糖・シラップ・液状ぶどう糖）を生産してきたが、平成6年4月トウモロコシから澱粉（コーンスターチ）を生産する工程及び自家発電設備が完成し、原料トウモロコシから糖化製品までの一貫生産体制が整い、西日本唯一の本格的なコーンスターチ供給基地となった。

〔主要な製品と主な用途〕

コーンスターチ	工業用：製紙・段ボール・紡績・建材・鋳物 食品用：ビール・水産練り製品・菓子 その他：医薬・化粧品・乾電池
異性化液糖	清涼飲料・製パン・和洋菓子
ブドウ糖	医薬・飲料・ガム・清酒・缶詰

59. 日本ゼオン株式会社 水島工場

倉敷市児島塩生新浜2767番地の1 TEL (086) 475 - 0021 <http://www.zeon.co.jp/>

当社は、昭和25年に古河電気工業(株)、横浜ゴム(株)、日本軽金属(株)の古河系3社の資本と米国グッドリッチ・ケミカル社の資本と技術により設立された会社で、現在、合成ゴム、合成ラテックス、化成品、化学品、情報材料、高機能樹脂、精密加工品、環境資材、医療器材を製造、販売する石油化学メーカーである。

当水島工場では、ポリイソプレンゴム、熱可塑性エラストマー、C₅石油樹脂、水系分散剤、エポキシ硬化剤、合成香料、プラスチック成形品、高機能透明樹脂の製造、ならびに岡山ブタジエン(株)のブタジエン製造を行っている。

ポリイソプレンゴムは自動車タイヤや各種ゴム製品、熱可塑性エラストマーは粘接着剤、C₅石油樹脂は道路ペイントや粘着剤、合成香料は香水や食品添加物、プラスチック成形品は合併処理浄化槽や住宅設備部材、高機能透明樹脂は光学レンズ、液晶用導光板や食器等に使用されている。

これらの製品の品質向上、製造技術の改善及び新製品開発を目的に当工場内にはパイロットプラントを有しており、事業活動の支えとして貢献している。ナフサ分解から得られるC₅留分のさらなる有効利用に着目したプラスチック成形品や高機能透明樹脂はその成果の現れといえ、C₅留分の総合利用において世界一の存在になっている。

将来は、石油化学分野における素材メーカーに留まることなく、精密加工部門を強化し、素材と加工の調和のとれた企業に向かって、これを支えるべく安全でより環境に配慮した工場造りを目指している。

60. 日本農産工業株式会社 水島工場

倉敷市児島塩生2767番地の32 TEL (086) 475 - 1521 <http://www.nosan.co.jp/>

当社は、配合飼料の製造販売、畜・水産物の生産・加工販売、家畜その他動物の飼育販売、食品及びペットフードの製造・加工販売を主な事業内容とする総合食品企業である。

本社は横浜市にあり、全国に支店6か所、飼料工場5か所、ペットフード工場1か所、その他協力工場、関係会社、営業所等が全国にある。

中央研究所・試験場は、つくば市と浜松市にあり、常に新製品新技術の研究開発と飼料、畜産物の更なる安全性確保のための研究を行っている。

水島工場は、水島C地区水島食品コンビナート内に平成2年に新設された飼料工場であり、西日本の畜産市場が近畿地区から中国地区への移動が進んでいることと、坂出(香川県)の都市再開発計画により、神戸・坂出両工場を閉鎖し、水島へ統合した。

この工場は、新技術を結集し、コンピュータシステムを導入した集中制御管理方式で、徹底した省力化と製品の安全性を確保するため、充分配慮した効率的な生産ラインになっている。

操業体制は昼夜8時間2交替、主原料は隣接する瀬戸埠頭(株)からコンベアラインでダイレクトに搬入され、その他原料はトラックで受入れされる。

製品は大半がバルクで24時間無人出荷されている。

この工場生産された配合飼料(月産約30,000t)の出荷先は、中国・四国・近畿及び北九州の畜産家である。

工場のこれからの使命は、畜産物の自由化による国際的なコスト競争の中で、生産・物流等の効率化を積極的に推進し、安全性の高い製品を安価に提供することだと考えている。

61. 萩原工業株式会社

倉敷市水島中通1丁目4番地 TEL (086) 440 - 0860 <http://www.hagihara.co.jp/>

当社は、昭和37年11月に花菱たて糸用ポリエチレン系の製造・販売を目的として(株)萩原商店の水島工場を分社独立させ、設立された。平成12年6月に大阪証券取引所市場第二部、平成13年5月には、東京証券取引所市場第二部に株式を上場した。

ポリプロピレン・ポリエチレンを主原料とした合成樹脂繊維であるフラットヤーン(原糸)及びそれを製織した二次製品やフラットヤーン製品製造プラントのノウハウを活かした各種自動機器製品の製造販売を行っている。フラットヤーンとは、ポリプロピレン・ポリエチレンを主原料として製造された糸のことで、断面が平ら(フラット)であることからフラットヤーンと呼ばれている。

主な製品としては、各種原糸、人工芝用原糸、粘着テープ用クロス、農業用ラミクロスシート、建築・土木用ラミクロスシート、デザインシート、メッシュシート、レジャーシート、フレキシブルコンテナバッグ、コンクリート等補強繊維、スリッター、プラスチック再生機などがある。

当社グループは、グローバル化したマーケットと多様化した顧客ニーズに応えるため、単に製品やサービスを提供するだけでなく、問題解決を提供するなど激変する環境に対応できる競争優位性を持ち、また、組織効率の向上を目的とした地域に密着した販売体制の強化とグループシェアリングによる生産体制の統廃合及びムダの排除と合理化にも努めている。

62. パシフィックグレンセンター株式会社 西日本支店

倉敷市水島海岸通3丁目2番地 TEL (086) 448 - 3611

当社は、輸入穀物専用の倉庫(サイロ)会社で、1967年9月西日本グレンセンター(株)として設立され、1997年4月同業種の南日本グレンセンター(株)と合併し、新社名パシフィックグレンセンター(株)と社名変更した。主要株主は、丸紅・全農・日本通運である。

1968年12月、岡山県倉敷市水島港に穀物積載量75,000t級本船着岸可能なドルフィン棧橋、吸揚能力400t/時のニューマチックアンローダー2基及びサイロ容量33,000tを新設し、操業を始めた。

その後、飼料・油脂業界の多様なニーズに対応するために、1970年から2005年までに数度に渡りサイロ増設を実施し、現在サイロ収容能力101,100tに拡大した。

また、吸揚機についても、1970年にニューマチックアンローダー1基を増設、1985年から吸揚機の更新を実施し、現在総荷揚能力1,500t/時で本船荷役に対応している。

主な取扱貨物は、飼料原料・油脂原料・麦類であり、出荷先は後背地工場及び県内の製粉会社並びに中国・四国・九州地区の広範囲に及び、西日本における輸入穀物の受入基地として地域社会への貢献と関係業界の繁栄に力を注いでいる。

また、政府食糧・飼料穀物の備蓄基地として重要な役割を果たし、今後も中国・四国・九州その他の地区への輸入穀物の主要な受入基地として、着実な事業展開を図っていく。

〔主要設備〕

荷役設備	荷揚能力	1,500t/時
	機械式アンローダー	2基 (600t/時)
	ニューマチックアンローダー	1基 (300t/時)
穀物サイロ	収容能力	101,100t

63. P S ジャパン株式会社 水島工場

倉敷市潮通3丁目13番地 TEL (086) 458 - 2210 <http://www.psjp.com/>

当社は、1999年10月に旭化成(株)と三菱化学(株)、2003年4月に出光興産(株)のポリスチレン部門の事業統合により設立されたポリスチレンの製造販売メーカーである。現在、千葉、市原、四日市、水島の4製造拠点で併せて450千t/年の製造能力を有する国内最大メーカーである。

その中で、当水島工場は、1965年2月に旭ダウ(株)水島工場として、また、旭化成水島コンビナートの第1陣として操業を開始した。以来、増産を重ね、最大160千t/年強の生産を行ってきたが、90年代のポリスチレンの国内需要の低迷、競争激化の中で、事業の再構築が必須となり、上記の新社設立の過程を経て、現在に至っている。

こうした中で、水島工場は現在特殊グレードを中心とした高付加価値製品の生産にシフトしており、当社の中核工場となっている。

今後も、食の安全や環境にやさしい製品群の開発・生産を進めていくと共に、顧客に信頼される高品質の製品を安定的に市場に提供していきたい。

64. 株式会社ピーエス三菱 水島工場 (H19.10月よりピー・エス・コンクリート(株)水島工場に名称変更)

倉敷市水島海岸通2丁目6番地 TEL (086) 440 - 1355 <http://www.psmic.co.jp/>

当社は、数年にわたり試験研究を重ね、プレストレストコンクリート製品を本格的に企業化することに成功した我国最初の企業として昭和27年3月に設立された。そのため、ピー・エスコンクリートという製品名がそのまま社名になっていたが、平成3年10月(株)ピーエスと変更した。平成14年10月には三菱建設(株)を吸収合併することにより、(株)ピーエス三菱と社名変更した。

水島工場は、水島臨海工業地帯に岡山県誘致企業第1号工場として昭和29年7月から操業開始した。主要製品であるPC桁、PC矢板等を併せ、48,000t/年の生産能力を有している。

〔生産設備の状況〕

54m	150t 製作台	3基
70m	250t 製作台	3基
70m	350t 製作台	2基
70m	500t 製作台	1基
70m	800t 製作台	1基
1,500㎡	大型部材製作台	1面

65. 株式会社ヒラキン

倉敷市玉島乙島字新湊8259番17号 TEL (086) 525 - 7117 <http://www.hirakin.co.jp/>

平成18年4月に平林金属が半世紀にわたって積み重ねてきた経験とノウハウを実演する檜舞台(ステージ)として、主に地球環境のリサイクルを実現する工場として、開設されました。約1万坪という広大な敷地は、ヒラキングループの中でも最大規模です。

国内有数の鉄の生産を誇る水島地区と福山地区の中間に位置する最高の立地条件を備えているとともに、世界各地へ鉄資源を海上輸送できる最適な環境です。

鉄のリサイクルは、資源循環だけでなく、地球にCO₂削減というもうひとつの恩恵をもたらします。リサイクル鉄は、鉄鉱石から生産するよりCO₂排出量が数分の1と圧倒的に少なくなります。

当社は、大型機械をはじめとする最新鋭の設備を充実させ、自動車リサイクルにも対応しており、リサイクルのニーズに高いレベルでお応えするまさに理想的な作業環境を実現しています。

66. 富士ダイス株式会社 岡山製造所

倉敷市玉島乙島新湊8234 - 15 TEL (086) 522 - 6683 <http://www.fujidie.co.jp/>

当社は、タングステンを主成分とした超硬合金の素材製造とその販売、そしてその超硬合金を使用した精密金型、各種超硬ロール、超硬耐摩耗工具の製造及び販売を行っている。

社員数は850名、年商150億の中堅企業、超硬耐摩耗工具専業として、現在は引抜工具のシェア65%を占めている。創業は昭和24年6月「立派な人作りと高度技術」を目標に耐摩耗工具一筋に着実に成長を重ねてきた。

当岡山製造所は、全国9工場の一つで、昭和53年10月に新技術開発のため、従業員7名で創業した。新技術開発後、超硬合金の製造を開始。平成2年には5,000坪の土地に粉末製造工場、合金工場を建設、その後、超硬合金加工工場を加え、原料から製品までの一貫工場として当社の中核の基礎を作り、平成13年5月、加工工場を新設し、大阪工場の製造部門の一部を受け入れ、総合生産工場として顧客の期待に答えている。又、平成18年3月には経済産業省中小企業庁による明日の日本を支える「元気なモノ作り中小企業300社」に選ばれ、責任を感じると共にこれを発奮材料として世界の変化に対応できるモノ作り企業を目指して技能技術の革新に取り組んでいる。

67. ペトロコークス株式会社 水島工場

倉敷市潮通3丁目16番地 TEL (086) 458 - 2511

当社は、(株)ジャパンエナジー、住友商事(株)及び米国のコンチネタル・オイルカンパニー(現:コノコ・フィリップ社)の3社により、日本最初の人造黒鉛電極用の煅焼針状コークス(ニードルコークス)を製造する会社として、昭和42年9月に設立された。

当初は、コークス製造能力年産11万tの工場を建設稼働し、その後、昭和47年及び昭和51年の設備改造工事を経て、現在では生産能力年産20万tの生産規模となっている。

当社の生産品は、主に煅焼針状コークス(ニードルコークス)及び煅焼石油コークスであるが、副産品として、LPG、ナフサ、燃料ガス等がある。主生産品である煅焼針状コークス(ニードルコーク

ス)は、国内電極メーカーに供給するとともに、その一部を輸出している。

生産施設として、ディレードコーカー装置及びガス、LPG、ナフサの分離・精製のためのガス回収装置及び生コークスから煨焼石油コークスを製造するカルサイナー装置等がある。また、貯蔵設備として、原料タンク、石油製品タンク、製品サイロ等がある。

なお、平成11年4月より隣接する(株)ジャパンエナジー水島製油所に操業を委託し、一体運営を行っている。

68. 三國製薬工業株式会社 水島工場

倉敷市松江4丁目7番1号 TEL (086) 456 - 6411 <http://www.mikuni-seiyaku.co.jp/>

当社は、昭和22年「仕事を通じてより善い社会を作りませう」を社是として、豊中市で創立し、以来医薬品、食品添加物、無機・有機薬品の製造販売を業として現在に至っている。

水島工場は、昭和63年から水島B地区に塩化リン関連の工場建設に着手し、平成3年3月に完成させ、同年9月から本格操業を開始し、三塩化リン、オキシ塩化リンを生産している。これらの製品の主な用途は、有機物の塩素化、リン酸化並びに脱水剤として使われ、最終製品としては、医薬品、農薬、食品添加物、可塑剤、難燃剤等の多方面にわたっている。

次の展開として、農薬中間体を製造するプラントを、平成11年夏に完成させ、その後、他の製品も生産出来るマルチプラント化して活用している。

さらに、医薬品製造プラントを平成16年初めに完成させ、同年秋以降本格運転に繋げた。

今後の展望としては、医薬品の製造や塩化リンを原料とする製品等を手掛けていきたい。

環境対策としては、倉敷市との間に締結した公害防止協定を遵守するため、水質管理及び大気汚染防止に努め、地域環境保全のため最善を尽くしている。また、ISO9001を2002年に取得し、ISO14001を2006年に取得した。

69. 水島アロマ株式会社 本社工場

倉敷市水島中通2丁目3番地の1 TEL (086) 446 - 4570

当社は、我が国におけるPTA(高純度テレフタル酸)の先駆的メーカーである。PTAを原料として、高品質のポリエステル繊維を効率よく製造するプロセスを開発した東洋紡績(株)とPTAの原料であるパラキシレンを独自のキシレン分離技術で製造する三菱ガス化学(株)の出資により、昭和45年10月に設立され、昭和48年の操業以来、品質改良と技術開発により内外のポリエステル原料の需要に应运ってきた。

当工場は、三菱ガス化学(株)水島工場に隣接し、同社から原料パラキシレンの供給を受けているほか、公害防止面でも同社の活性汚泥処理設備、廃水凝集沈澱設備等を利用している。また、当社自身でも残渣焼却設備、ベントガス処理設備等を保有し、公害防止に努めている。保安面でも、三菱ガス化学(株)と協力して操業の安全に努力している。

また、ISO9001、ISO14001を2000年に取得した。

70. 水島エルエヌジー株式会社・水島エルエヌジー販売株式会社

倉敷市水島海岸通4丁目2番地 TEL (086) 448 - 0055 <http://www.m-lng.co.jp>

水島エルエヌジー（株）・水島エルエヌジー販売（株）の現況について（平成19年8月1日現在）

水島エルエヌジー株式会社は、中国電力株式会社水島発電所向け並びに販売用LNG（液化天然ガス）の受入、貯蔵、気化及びガス送出を主な目的として設立されました。また、水島エルエヌジー販売株式会社は、中国地方東部を中心とした都市ガス会社及び近隣地域の産業用需要家向けに、LNGを調達・販売することを主な目的として設立されました。

両社は、新日本石油精製株式会社水島製油所内において、平成14年11月1日から建設工事に着手して、平成18年3月末に完成し、平成18年4月より営業開始しております。

現在までに9隻のLNG船を受入して順調に営業を行っております。

今後とも、安全操業とLNGの安定供給を通じ、地域社会から信頼され、環境保全に貢献する企業として努力します。

【設備概要】

- ・ LNG受入設備 [受入栈橋：14.5万³m³級LNG船×1バース（原油栈橋兼用）]
- ・ 貯蔵設備 [PC LNGタンク：160,000kl×1基]
- ・ 気化設備 [低圧用気化器：105t/h×1台，高圧用気化器：75t/h×1台，
高低圧兼用気化器：105t/h×1台]
- ・ その他設備 [防災設備，付臭設備，フラ・ベントスタックほか附属設備：1式]
- ・ LNG出荷設備 [タンクローリー出荷設備：3レーン（25t/h・レーン）]

71. 株式会社水島オキシトン 水島工場

倉敷市児島塩生新浜2767番の17 TEL (086) 475 - 0016

当社は、水島地区における旭化成・三菱化学を中核とする石油化学コンビナートへの保安用窒素ガス供給と周辺企業への酸素・窒素等の工業用ガスの供給のため、日本エア・リキード(株)（70%）と大阪酸素工業(株)（30%）の共同出資により設立され、コンビナート内に空気分離工場を新設して、昭和46年4月に操業を開始した。

以来、需要家の要望に応えるため、平成元年1月に旭化成（PP向）送窒配管の増設、平成2年11月窒素タンク 1,000k増設、平成4年2月窒素蒸発器 10,000N³/時増設、同9月三菱化成（現：三菱化学）向（送窒配管）増設、同10月に2プラントの運転開始と設備の増設を行っている。また、平成10年6月より三菱化学向けに酸素ガスを配管で供給開始し、平成12年6月には日本ゼオン向けに高圧窒素ガスを配管で供給開始した。

製品の製造に当たっては、常に最適な技術水準を追求し、保安と品質の維持向上を図りつつ管理に努め、需要家のニーズに応じて高品質、高信頼の製品を安定供給している。

酸素、窒素、アルゴン、製鉄、化学工業、エレクトロニクス、宇宙開発をはじめ、医療・食品及び低温分野等で幅広く使われており、私達の日常生活にも多くのかかわり合いをもっている。

環境保全面では騒音対策を考慮した工場配置及び防音工事を施し、また工場内緑地化対策として緑地の拡張も実施している。

防災対策面として防消火設備関係を中心に増強を実施し、緊急時に備えている。また、定期的を実施する消防、水島コンビナート共同防災隊との防災訓練の他、緊急時を想定した各種訓練等により保安防災面の強化を図っている。

なお、平成19年9月からは、日本エア・リキード株式会社、ジャパン・エア・ガシズシ社の100%子会社として運営している。

〔製造能力〕	液化酸素	2,000N m ³ /時	
	液化窒素	3,000N m ³ /時	
	酸素ガス	6,000N m ³ /時	
	窒素ガス	12,000N m ³ /時	(18,000N m ³ /時)
	水素ガス	2,000N m ³ /時	
〔貯蔵能力〕	液化酸素タンク	1,000 k/	
	液化窒素タンク	1,200 k/	
	液化アルゴン	100 k/	

72. 水島瓦斯株式会社

倉敷市水島福崎町3番30号 TEL (086) 444 - 8141 <http://www.mizushima-gas.co.jp/>

当社は、昭和17年三菱自動車工業(株)水島自動車製作所の前身である三菱重工業(株)水島航空機製作所にガスを供給するため、名古屋の東邦瓦斯(株)の縁系会社として設立された。終戦後、まず水島地区を対象に一般民需へも供給を開始し、その後、水島臨海工業地帯の発展とともに供給区域も拡大し、現時点では、水島・玉島地区のお客さまに都市ガスを供給している。

当社では現在、天然ガス化計画を推進しており、平成18年に水島工業臨海工業地帯の一部地区を先行して実施し、本格的には平成20年8月から平成21年5月にかけて実施していく計画である。

73. 水島機工株式会社 本社工場

倉敷市水島西通1丁目1936の12 TEL (086) 444-5285 <http://www.mizushima-kiko.co.jp/>

倉敷市玉島乙島8256 - 72 (玉島工場) TEL (086) 525-8555

当社は、昭和28年4月、三菱重工業(株)水島航空機製作所の協力工場として倉敷市連島町に設立し、自動三輪車部品の製造開始した。その後、昭和44年に現在地(西通)に本社工場を新築移転。創業以来、三菱自動車工業(株)の協力工場として、自動車部品の製造に専念している。また、近年では海外自動車メーカーとの取引も行っている。

・主要製品

(本社工場) ステアリングギヤアSEMBリ、オイルポンプアSEMBリ、トランスミッションスプードギヤ、トランスファケースアSEMBリ、スタビライザバー等エンジン・ミッション、ステアリング、サスペンション関連の機械加工部品

(玉島工場) デイファレンシャルピニオン、デイファレンシャルサイドギヤ

- ・敷地面積 (本社工場) 20,000㎡ (玉島工場) 第一敷地16,500㎡, 第二敷地3,300㎡
- ・従業員 (本社工場) 212名 (玉島工場) 54名 (計) 266名

74. 水島合金鉄株式会社 本社工場

倉敷市水島川崎通1丁目1番地 TEL (086) 444 - 4241 <http://www.mizukin.co.jp/>

当社は、水島コンビナートに立地しており、製鉄原料として不可欠であるフェロマンガンの製造を行う会社である。戦後の鉄鋼業の大規模化により、フェロアロイ産業の近代化、大規模化が強く要請されたが、それに応え昭和39年に全く新しい立地思想のもとにスタートし、世界の最新鋭工場として内外の強い注目を浴び、以後我国合金鉄工場設置のモデルとなった。

その後、2回のオイルショックにより、電力多消費型のフェロアロイ産業は一様に苦しい立場に追いやられたが、当社はいち早くこれに対処し、昭和60年に高炭素フェロマンガンの製造には、従来の電気炉法から電力の代わりにコークスを使う豎型炉へと果敢に設備を転換、更に続いて昭和62年に、中・低炭フェロマンガンの製造に酸素による脱炭素法を自力開発し導入、エネルギー転換に成功した。この結果、この分野では我国生産、販売のトップを占めることとなり、その製品は広く内外に向け出荷されている。

また、経営基盤の強化を図る目的で、平成6年に窒化硼素事業へ参入した。窒化硼素は化粧品、電子材料等の先端技術分野で使用され順調に推移している。

当社の主要生産設備能力は、

豎型精錬炉	130,000 t / 年 (高炭素フェロマンガ)	
シェーキングレードル	100,000 t / 年 (中・低炭素フェロマンガ)	
窒化硼素設備	50 t / 年	である。

この他にも、関連事業として、ゴルフ練習場を経営し、地元から好評を博している。

75. 水島鋼板工業株式会社

倉敷市水島川崎通1丁目4番地 TEL (086) 447 - 4737

当社は、昭和41年11月J F E 商事(株)の全額出資により三菱自動車工業(株)水島製作所並びに協力工場へ自動車用鋼板を納入する目的をもって、J F E スチール(株)西日本製鉄所倉敷地区内に17,293㎡の用地を得て、資本金2,000万円で会社を設立し、以後増資により現在の資本金は5,000万円である。

昭和42年2月1日から操業を開始し、現在の主要設備としては、

レベラー・ライン	1基
スリット・ライン	2基

テーラードブランクライン 1基 の設備を有し、月間30,000 t の生産能力を持っている。製品は、三菱自動車工業(株)水島製作所並びに協力工場、J F E スチール(株)西日本製鉄所等に納入している。

76. 水島リバーメント株式会社

倉敷市水島川崎通1丁目 TEL (086) 447 - 4607

当社は、川崎製鉄(株)(現：J F E スチール(株))、川鉄鉱業(株)(現：J F E ミネラル(株))、三菱マテリアル(株)及び(株)トクヤマの4社合併により、高炉スラグ微粉末製造、高炉セメントの受託製造を目的として昭和62年4月に設立され、昭和63年10月1日から川崎製鉄(株)(現：J F E スチール(株))西日本製鉄所(倉敷地区)内で操業を開始した。高炉セメントは、急冷した高炉スラグを混合材として使用する混合セメントで、アルカリ骨材反応の抑制効果や耐薬品性にも富んでおり、港湾工事、海洋工事等に適している。

主要設備とその能力は、	ポルトランドセメントサイロ	8,000 t
	リバーメントサイロ	500m ³
	リバーメントサイロ	5,000 t
	高炉セメントサイロ	5,000 t
	縦型ミル	50 t / 時
	混合器	130 t / 時

製品は、需要に応じてサイロから船積み、又はタンクローリー車で出荷している。

77. 三菱化学株式会社 水島事業所

倉敷市潮通3丁目10番地 TEL (086) 457 - 2101 <http://www.mcc-mizushima.com/>

当事業所は、三菱化成(現在の三菱化学)の石油化学部門の主力工場として、倉敷・水島地区に建設され、1964年7月、4万5千t/年のエチレンプラント1基と少数の誘導品プラントで操業を開始した。

現在では、事業所敷地面積約210万m²、従業員数約830名(グループ会社も含めると約1,980名)、45万t/年のエチレンプラントを中核とした石油化学コンビナートを形成するに至っている。当事業所では、石油化学製品を主力とし、樹脂加工製品や情報電子関連製品をグループ会社一体となって製造している。

主な製品として、以下のものがある。

1. 石油化学製品

高密度ポリエチレン、低密度ポリエチレン、ポリプロピレン、塩化ビニルモノマー、塩化ビニル樹脂、アクリロニトリル、 α -オレフィン、パラキシレン、シクロヘキサン、オキシアルコール、無水マレイン酸、ブチロラクトン、Nメチル2ピロリドン

2. 樹脂加工製品

透湿性フィルム、OPS(二軸延伸ポリスチレンシート)

3. 情報電子関連製品

光ディスク(スタンパー、MO、UDO、ブルーレイディスク)

当事業所内には様々なグループ会社が存在し、主なグループ会社としては、日本ポリエチレン社(高密度ポリエチレン、低密度ポリエチレン製造)、日本ポリプロ社(ポリプロピレン製造)、ヴェテック社(塩化ビニル樹脂製造)、ダイヤニトリックス社(アクリロニトリル製造)、ティーエムエアー社

(液体酸素，液体アルゴン，酸素・窒素ガス製造)，三菱樹脂社(透湿性フィルム製造)，三菱化学アグリ社(緩効性窒素肥料製造)，日本イソブチレン社(イソブチレン製造)がある。

また，製品の製造だけでなく，生産現場に密着する条件を生かして，プロセス生産技術等ニーズに即応した研究にも取り組んでいる。

環境保全活動については，立地以来積極的に取り組み，大気汚染防止対策として，大型電気集塵機，排煙脱硫装置，さらには，当社独自の脱硝設備を設けている。水質汚染対策では，活性汚泥処理設備を中心とする総合廃水処理システム等を設置し，公害防止協定や，各種法令に基づく規制値を十分満足できるものとなっている。2005年の大気汚染防止法改正により，規制対象となった「揮発性有機化合物(トルエン，キシレン等)」の排出削減にも努めており，国の目標を上回る目標を掲げて取り組んでいる。その他産業廃棄物処理，緑化計画等についても積極的に取り組んでいる。

また，保安防災活動については，倉敷市と締結している災害防止協定や関連法令の改正等による諸対策に加え，自主的対策も含め積極的に災害防止計画を推進している。

最近のトピックスとして，重質ナフサや灯油，軽油も原料として利用できるように，ナフサ分解炉の増炉工事を行っており，2007年12月末に完成し，2008年3月から営業運転を開始する予定である。また，近隣企業間で原燃料等の効率的な融通を行い，コンビナートの競争力強化を図る「水島コンビナートルネッサンス計画」も合わせて実施しており，一層の効果が期待されている。

情報電子分野では，2006年6月から，次世代光ディスクとして注目されているブルーレイディスクの製造，出荷を開始した。更に，2007年11月から，片面1層タイプの2倍の容量(50GB)を持つ片面2層タイプの製造，出荷も開始する予定である。

ブルーレイディスク等の情報電子関連事業は，高分子や金属等の素材技術に加え，薄膜技術，精密加工技術，精密測定技術といった，当社が永年蓄積してきた技術を生かして展開している新事業であり，三菱化学グループの中でも戦略上の大きな柱となっている。

78. 三菱化学アグリ株式会社 水島工場

倉敷市潮通3丁目10番地 TEL(086)457-2230

当社は，平成14年4月1日付けで，三菱化学株式会社の肥料事業を分社化し設立した，肥料並びに関連商品の製造販売を行う会社です。水島工場は，三菱化学株式会社の敷地内にあり，緩効性窒素肥料である，IBDU，スーパーIB，グッドIBの製造を担っています。これらの製品は単肥品として直接国内外のユーザーへ販売される他，黒崎工場，小名浜工場で配合肥料の原料としても使用されます。

平成16年6月にスーパーIB製造設備を一部改造し，「グッドIB」という新銘柄が，製品に加わりました。

緩効性窒素肥料の特徴は，一度の施肥でゆっくり肥効を発揮するので，施肥作業の省力化が図れると共に，窒素成分溶出後に，完全消失するので，環境にやさしいということです。

79. 三菱ガス化学株式会社 水島工場

倉敷市水島海岸通3丁目10番地 TEL(086)446-3822 <http://www.mgc.co.jp/>

当社は、昭和46年10月1日に三菱江戸川化学(株)と日本瓦斯化学工業(株)とが対等合併して発足した総合化学会社である。ともに独自技術の自社開発に重点を置く特色ある会社であったが、旧日本瓦斯化学工業(株)は大型製品から誘導品分野の展開を、旧三菱江戸川化学(株)は原料遡及をそれぞれ企図していたところであり、この合併により原料から誘導品までの一貫体制を確立した。

水島工場は、三菱ガス化学(株)の7工場の中でも主力工場の地位を占め、今後展開をしていくうえでの重点工場である。

旧日本瓦斯化学工業(株)が、昭和32年5月、日本樹脂化学工業(株)を設立、同35年5月に水島で工場を建設し、可塑剤、キシレン樹脂の製造を開始した。同36年10月、同社を旧日本瓦斯化学工業(株)に吸収合併し、水島工場とした。同43年10月、当社独自の技術開発による混合キシレン分離異性化装置(105,000 t/年)の完成により、石油化学進出と水島工場の基礎が固まった。その後順次増設を図り、同60年11月には特殊可塑剤の原料となる無水トリメリット酸、また、平成11年6月には、塗料の原料等になるトリメチロールプロパンの生産を開始。平成10年7月には原料キシレンの処理能力を60万tにまで引き上げ、合わせて各誘導品の増強を図っている。

〔主な製品〕

可塑剤	トリメチロールプロパン
無水フタル酸	ネオペンチルグリコール
オルソキシレン	ホルマリン
パラキシレン	無水トリメット酸
メタキシレン	各種芳香族アルデヒド

なお、関連会社として、エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカル(株)、水島アロマ(株)等が隣接し、当社で生産されるメタキシレン、パラキシレンを原料としてイソフタル酸、テレフタル酸等を生産しており、コンビナートを形成している。

また、水島臨海工業地帯の特性を生かすため、近隣異業種企業との連携・協業も模索している。

公害防止設備としては、活性汚泥処理設備、廃水凝集沈澱設備、嫌気性排水処理設備、燃焼排ガスの電気集塵機、バントガス処理設備その他を保有しており、その他保安設備にも万全を期している。

80. 三菱自動車工業株式会社 水島製作所

倉敷市水島海岸通1丁目1番地 TEL (086) 444-4114

<http://www.mitsubishi-motors.co.jp/corporate/aboutus/profile/mizushima/>

1) 工場の沿革

1943年	三菱重工業(株)水島航空機製作所として発足
1946年	小型3輪トラックを発売
1959年以降	中型トラック・小型トラック・軽自動車・小型乗用車を生産
1970年	三菱重工業(株)から三菱自動車工業(株)として分離・独立
1987年	累計1,000万台を達成(含むKD,PPC)
1991年	軽自動車累計500万台を達成 新型ミニキャブ発売
1993年	新型ミニカ・ミニカトップ発売

	開所50周年
	累計1,500万台を達成(含むKD,PPC)
1994年	新型デリカスペースギア・デリカカーゴ・FTOを発売 FTOが日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞 年間を通じ休業,不休業とも災害発生件数ゼロの無災害成績を達成
1998年	累計2,000万台を達成(含むKD,PPC) 1997年における工場の生産性が,世界一の評価を受ける 軽四新規格車ミニカ,トッポBJ,パジェロミニ発売
1999年	ミラージュDingo,新型ミニキャブバン/トラック,トッポBJワイド及びタウンボックス発売
2000年	SUV(スマートユーティリティワゴン)ディオン発売 新型ランサーセディア・セディアワゴン発売
2001年	エアトレック発売 新型軽自動車eKワゴン発売 グッドデザイン賞受賞
2003年	累計2,500万台を達成(含むKD,PPC)
2005年	新型SUV(スポーツユーティリティビークル)アウトランダー発売
2006年	新型軽自動車i(アイ)発売 軽自動車初グッドデザイン大賞受賞
2007年	新型セダンギャランフォルティス発売

2)当所の概要

敷地面積： 1,245,700㎡

建物延面積： 521,100㎡

社員数： 5,000名

3)当所の特徴

世界でも類をみない鋳物工場から最終組立工場を有する一貫生産工場

近郊に高技術,高品質の部品を提供してくれる協力メーカーの存在

ロボット等最先端技術の積極的な導入による高品質の車作り

地球環境保護のための公害防止設備の充実及び工場緑化事業への積極的な取組み

4)'05年度生産実績(完成車のみ)

528千台(国内287千台,輸出241千台)

81. 三菱樹脂株式会社 長浜工場水島製造所

倉敷市松江4-6-1

TEL(086)455-0575

<http://www.mpi.co.jp/>

当社は,1943年に滋賀県長浜市に於いて三菱化成工業(株)(現:三菱化学(株))の合成ゴム加工工場として発足し,1948年国内で初めて塩化ビニル樹脂加工製品の生産を開始した。以来,長浜ゴム工業(株),長浜樹脂(株)を経て,1962年三菱樹脂(株)に社名変更し,現在に至る。

当製造所は,1985年に三菱化学(株)の樹脂フィルム加工工場として操業を開始したが,2001年に三菱樹脂(株)へ透湿性フィルム事業を移管された際,長浜工場水島製造所として発足した。

当製造所の製品である透湿性フィルムは、「湿気は通すが、水は通さない」という多孔質性のフィルムで、主に紙おむつの外装素材として利用されている。

環境活動への取り組みは、2000年3月にISO14001の認証を取得し、現在も維持継続している。

82. 株式会社ユタカケミカル 水島工場

倉敷市水島海岸通2丁目1番34号 TEL (086) 448 - 3221

当社は、昭和33年5月に豊年製油(株)(現:(株)J-ケミカル)と日本瓦斯化学工業(株)(現:三菱ガス化学(株))との合併により設立された。

本社は東京に所在し、昭和33年に清水工場、昭和42年に水島工場、昭和47年に平塚工場を設立して、現在に至る。

当社の主な事業内容は、ホルマリン並びに尿素/ホルムアルデヒド樹脂、メラミン/ホルムアルデヒド樹脂及びフェノール/ホルムアルデヒド樹脂接着剤の製造・販売であるが、これらの他に - オレフィン系、酢酸ビニール系及び各種接着剤や化学工業薬品、合板表面補修用塗料等の製造・販売を行っている。

水島工場では、主にホルマリン並びに尿素・メラミン・フェノール系接着剤を製造しており、接着剤は合板製造用をメインとして、パーティクルボード(PB)、中比重繊維板(MDF)、単板積層板(並行合板=LVL)の製造に広く使用され、また他の接着剤と併せてこれら木質板の表面化粧用(二次加工用)や各種建材用としても多岐にわたり使用されている。また、平成5年より合板の表面補修用塗料の生産を開始した。

ホルマリンの原料であるメタノール及び接着剤原料の大部分を隣接する三菱ガス化学から供給を受け、製品は全て両親会社を通じて水島担当である関西以西の顧客に販売している。

国内の木質建材は、従来ラワン材を中心とした南洋材が主流であった。しかし、植林の出来ないラワン材は、環境破壊、資源枯渇問題から原木輸出が制限されてきた。南洋材に代わってニュージーランド、ロシア、北米の針葉樹が輸入され、近年国産スギの利用も進んでおり、原木は多様化している。一方、住宅環境の改善から接着剤は低ホルマリン化が要求されている。このような状況変化に対応し、ニーズに応える接着剤の研究開発を行っている。さらに、広範囲な接着剤分野を目指し事業の拡大を図っている。

生産能力としては、ホルマリン 40,000 t / 年、接着剤 30,000 t / 年を有する。

防災対策については、公害防止協定や災害防止協定、その他の諸法令に基づいて押し進めている。

83. 株式会社ロジコム 岡山営業所

倉敷市玉島乙島字新湊8263-18 TEL (086) 523 - 0556 <http://www.net-logicom.co.jp/>

当社は、全国13拠点にデポを構えて、自動車メーカーに部品を供給している代行納入業者です。自動車の部品メーカーの依頼を受け業務提供しています。平成18年4月までは、岡山市曾根で営業していましたが、荷量増に対応するため、玉島ハーバーアイランドに進出しました。現在は、玉島倉庫を岡山営業所とし、曾根倉庫を水島物流センターとして、2カ所で業務遂行中です。扱っている自動車部品は、

すべて三菱自動車の部品であり，円滑な車の生産に寄与すべく，業務展開中です。

9 海事官庁の現況

(1) 水島税関支署 <http://www.customs.go.jp/kobe/>

倉敷市水島福崎町2 - 15 水島港湾合同庁舎 2号館内 TEL (086) 448 - 3375 ~ 3377・3387
昭和36年6月、宇野税関支署水島分室として発足。
昭和37年4月、開港指定に伴い宇野税関支署水島出張所に昇格。
昭和47年5月、水島税関支署に昇格。

(所属・財務省) 職員数47名 所属監視艇2隻

岡山県のうち倉敷市、総社市、高梁市、新見市、浅口市、都窪郡、浅口郡、小田郡、及び加賀郡の5市4郡を管轄区域としており、主な業務は、以下のとおり。

1. 貨物の輸出入許可並びに輸出入貨物、船舶及び旅客の取締り
2. 関税、とん税及び特別とん税の徴収
3. 輸入貨物に対する内国消費税の徴収
4. 保税蔵置場、保税工場及び承認工場の指導監督
5. 貿易統計作成
6. 通関業者の監督

(2) 水島海上保安部 <http://www.kaiho.mlit.go.jp/06kanku/mizushima/>

倉敷市水島福崎町2 - 15 水島港湾合同庁舎 TEL (086) 444-9701 (管理課)
(086) 444-9769 (警備救難課)
(086) 444-2967 (航行安全課)
(086) 440-0221 (交通課)

昭和36年12月1日 玉野海上保安部水島分室として発足。
昭和39年6月1日 水島海上保安署に昇格。
昭和49年4月11日 水島海上保安部に昇格。
平成17年4月1日 玉島航路標識事務所を統合、航行援助センターを設置。
平成19年4月1日 航行援助センターを交通課に改編

(所属：国土交通省) 職員数66名。所属巡視艇等6隻。

岡山県のうち倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、浅口市、浅口郡、小田郡、都窪郡、及び加賀郡の7市4郡を管轄区域とし、担任水域は笠岡市神島西端から大飛島、六島南方、手島、櫃石島、大槌島を経て倉敷市と玉野市の市境に至る岡山県西部海域地先海域であり、主な業務は、以下のとおり。

1. 法令の海上における励行に関すること。
2. 海難の救助及び天災事変その他救済を必要とする場合における救助に関すること。
3. 海難の防止及び海難の調査に関すること。

4. 船舶交通の安全確保に関すること。
5. 港内等における工事作業及び危険物荷役の許可等安全確保に関すること。
6. 海洋汚染等及び海上災害の防止に関すること。
7. 海上における犯罪の捜査に関すること。
8. 灯台等，航路標識の保守管理及び運用に関すること。
9. 地域に密着した海の安全に関する情報提供

(3) 広島検疫所水島出張所 <http://hiroshima.keneki.jp/>

倉敷市水島福崎町2 - 15 水島港湾合同庁舎 1号館 3 F TEL (086) 444 - 7701

昭和37年10月1日，広島検疫所水島出張所として発足。

昭和47年10月1日，支所に昇格。

昭和50年4月2日，神戸検疫所水島支所として管轄換。同日付坂出出張所を管轄。

平成3年6月3日，岡山空港出張所を管轄。

平成3年10月1日，坂出出張所を神戸本所へ移管。

平成9年2月1日，広島検疫所水島出張所として管轄換となり，現在に至る。

(所属・厚生労働省) 職員数：2名，併任職員(岡山空港出張所) 2名。計4名

主な業務は，以下のとおり。

1. 入港船舶の検疫
2. 外航船舶の衛生検査
3. 政令区域の衛生管理及び衛生状態の調査
4. 感染症情報等の提供

(4) 中国運輸局岡山運輸支局水島海事事務所 <http://www.cgt.mlit.go.jp/>

倉敷市水島福崎町2 - 15 水島港湾合同庁舎 TEL (086) 444 - 7750

昭和39年4月1日，中国海運局玉野支局水島出張所設置。

昭和48年4月16日，中国海運局水島支局に昇格。

昭和59年7月1日，中国運輸局水島海運支局に変更。

平成14年7月1日，中国運輸局岡山運輸支局水島海事事務所に変更。

(所属・国土交通省) 職員数8名。

岡山県のうち倉敷市，笠岡市，井原市，総社市，浅口市，都窪郡，浅口郡，小田郡の5市3郡を管轄区域としており，主な業務は，以下のとおり。

1. 海事思想の普及及び宣伝に関すること
2. 海事代理士に関すること
3. 造船に関する事業の発達，改善及び調整に関すること

4. 公益法人の監督に関する事
5. モーターボート競走に関する事
6. 廃油処理事業及び自家用廃油処理施設に関する事
7. 水上運送及び水上運送事業の発達，改善及び調整に関する事
8. 港湾運送事業，港湾運送関連事業及び倉庫業の発達，改善及び調整に関する事
9. 外国船舶の日本各港間の運送及び不開港への寄港の特許に関する事
10. 船員の労働組合及び労働関係の調整に関する事
11. 船員の労働条件，安全衛生その他の労働環境，福利厚生及び災害補償，船内規律並びに船員手帳に関する事
12. 船員の教育及び養成，海技工及び小型船舶操縦者の免許，船舶職員及び小型船舶操縦者の資格及び定員並びに水先に関する事
13. 外国船舶の監督に係る検査の執行に関する事

(5) 神戸植物防疫所広島支所水島出張所 <http://www.pps.go.jp/>

倉敷市水島福崎町2 - 15 水島港湾合同庁舎 TEL (086) 444 - 6001

昭和39年7月1日設置。(所属・農林水産省) 職員数10名。

岡山県(笠岡市の一部を除く)全域を管轄区域とし，主な業務は，以下のとおり。

1. 輸入検査

- 1) 輸入される植物(貨物・携帯品・郵便物等)及びその容器包装の検査並びに取締り(消毒・廃棄等)に関する事
- 2) 輸入される植物及びその容器包装の消毒に必要な施設の指定並びに消毒の際における危害防止に関する事
- 3) 輸入禁止品(省令で定める地域から発送され，又は当該地域を經由した植物で，省令で定めるもの 検査有害動植物 又は土の付着する植物 ~ に掲げるものの容器包装)の輸入の許可に関する事
- 4) 輸入を許可された禁止品及びその包装容器の検査並びに取締りに関する事

2. 輸出検査

- 1) 輸出される植物(貨物・携帯品・郵便物等)及びその容器包装の検査並びに取締りに関する事
- 2) 輸出される植物についての合格証明書等の交付に関する事
- 3) 輸出される植物の病虫害防除の指導に関する事

3. 国内検査

- 1) 植物等の移動の制限又は禁止に関する事
- 2) 病虫害の侵入警戒及び防除に関する事

4. 調査研究

- 1) 病虫害の調査研究に関する事
- 2) 病虫害の検査・消毒方法等の調査研究に関する事

編 集 後 記

「農業県から工業県へ」を合言葉に、水島コンビナートA地区の造成が始まってから、半世紀を迎えました。この間、水島臨海工業地帯には、多くの企業の事業所が立地・操業し、幾たびの不況など経済環境の大きな変化を乗り越えながら、各社の重要な生産・開発拠点として発展してきました。

平成18年の工業統計（概数値）によると、水島地区の製造品出荷額等は約4兆4千億円と1960年に調査を始めて以来最高額を2年続けて更新し、本県全体に占める割合は52.9%に達し、従業員数も全県の約15%を占めるなど、引き続き水島臨海工業地帯を抜きにして本県の産業・経済は考えられない状況にあります。

しかし、近年の経済のグローバル化に加え、バブル崩壊後の景気の低迷はコンビナート企業にもかつてないほど大きな影響を及ぼし、各社とも、全国的な事業所の統廃合や他社との提携・合併など、大規模な経営の改革に追われているところであり、水島臨海工業地帯においても、大規模な統合や系列を超えた原材料の融通など、国際的な競争力強化のための新たな動きが続いています。

県としても、特定重要港湾に格上げされた水島港のハード整備や玉島ハーバーアイランドの分譲などに鋭意取り組んでいます。

また、平成13年3月に設立された「水島工業地帯産学官懇談会」での協議を受け、平成16年10月には、立地企業と行政が一体となった「水島コンビナート競争力強化検討委員会」をスタートさせ、水島地域の一層の飛躍に向け取り組んでいるところです。

この冊子は、平成19年8月から平成20年2月頃にかけての水島臨海工業地帯の状況を取りまとめたものであり、地域住民、立地企業、関係行政機関はもとより、ひるく県民の方々が、水島臨海工業地帯の現状について認識し、今後を展望するうえでの参考資料となれば幸いです。

最後になりましたが、御多忙中にもかかわらず、資料・原稿の提供などに快く御協力くださいました関係企業・機関の皆様に深く感謝いたします。

平成20年2月

岡山県産業労働部産業振興課長

植 田 賢 二